

2023（令和5）年度 現代文化学部シラバス

こども文化学科（2022年度の入学生）

基礎科目（必修）					
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22JUN101	現代文化セミナー	1	22JUN104	Humanities Basics	2
22LIT101	純心チュートリアル	1	22JUN105	純心平和学	3
22JUN102	キリスト教学A	1	22FLG101	英語Ⅰ	1
22JUN103	キリスト教学B	1	22FLG102	英語Ⅱ	1
22LIT102	アカデミック・ライティング	2	22HUM101	情報処理	1

基礎科目（選択）					
22EDU101	生涯スポーツA	1	22PRC104	リベラルアーツ実習A	1～4
22EDU102	生涯スポーツB	1	22PRC105	リベラルアーツ実習B	1～4
22HUM102	日本国憲法	1	22PRC106	リベラルアーツ実習C	1～4
22NUR101	健康の科学	2	22HUM109	宗教学	2～4
22LIT103	文章表現法	1～4	22FRG104	英語Ⅲ	2～4
22JUN106	Science Basics	1～4	22FRG105	英語Ⅳ	2～4
22JUN107	人間とアート	1～4	22JUN110	キャリアセミナー	2～4
22HUM108	文化人類学	1～4	22PRC107	キャリアインターンシップA	2～4
22FLG103	Listening & Speaking	1～4	22PRC108	キャリアインターンシップB	2～4
22FLG104	Reading & Writing	1～4	22PRC109	キャリアインターンシップC	2～4
22HUM103	情報処理検定	1～4	22HUM106	音楽療法	3～4
22JUN108	合唱音楽	1～4	22HUM107	美術療法	3～4
22HUM104	パイプオルガンA	1～4	22PSY301	臨床心理学	3～4
22HUM105	パイプオルガンB	1～4	22LIT104	読書論A	2～4
22PRC101	言語文化海外実習A	1～4	22LIT105	読書論B	2～4
22PRC102	言語文化海外実習B	1～4			
22PRC103	言語文化海外実習C	1～4			

専門科目（必修）					
22NUR201	保育原理	1	22CHI302	こども文化セミナーAa（田尻）	3
22NUR202	教育原理	1	22CHI302	こども文化セミナーAa（井上）	3
22CHI201	こどもと多文化共生	3	22CHI302	こども文化セミナーAa（田中路）	3
22CHI202	児童文化論	1	22CHI302	こども文化セミナーAb（増田）	3
22ART201	造形基礎Ⅰ	1	22CHI303	こども文化セミナーAb（大竹）	3
22ART202	造形基礎Ⅱ	1	22CHI303	こども文化セミナーAb（田尻）	3
22ART203	こどもと造形表現	1	22CHI303	こども文化セミナーAb（井上）	3
22EDU201	こどもと音楽表現A	1	22CHI303	こども文化セミナーAb（田中路）	3
22EDU202	こどもと音楽表現B	1	22CHI304	こども文化セミナーBa（増田）	4
22PSY201	発達心理学	1	22CHI304	こども文化セミナーBa（大竹）	4
22CHI203	児童文学論	2	22CHI304	こども文化セミナーBa（田尻）	4
22EDU203	こどもと言葉	2	22CHI304	こども文化セミナーBa（井上）	4
22EDU204	こどもと人間関係	2	22CHI304	こども文化セミナーBa（田中路）	4
22EDU205	こどもと環境	2	22CHI305	こども文化セミナーBb（増田）	4
22EDU206	こどもと健康	3	22CHI305	こども文化セミナーBb（大竹）	4
22EDU213	特別な支援を要する子どもの理解と支援	3	22CHI305	こども文化セミナーBb（田尻）	4
22CHI301	あそび文化	2	22CHI305	こども文化セミナーBb（井上）	4
22CHI302	こども文化セミナーAa（増田）	3	22CHI305	こども文化セミナーBb（田中路）	4
22CHI302	こども文化セミナーAa（大竹）	3	22CHI306	卒業論文・制作・研究	4

2023（令和5）年度 現代文化学部シラバス

専門科目（選択・課程必修）					
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22NUR401	社会福祉	1	22NUR204	ピアノ表現法Ⅰ	1
22NUR402	子ども家庭福祉	2	22NUR205	ピアノ表現法Ⅱ	1
22NUR403	保育内容演習・表現	1	22NUR206	ピアノ表現法Ⅲ	2
22NUR404	保育内容演習・言葉	1	22NUR207	ピアノ表現法Ⅳ	2
22NUR405	保育内容演習・健康	2	22NUR301	言語表現活動	3
22NUR406	保育内容演習・人間関係	2	22ART204	舞台表現A	1～4
22NUR407	保育内容演習・環境	2	22ART205	舞台表現B	1～4
22NUR408	保育方法論	2	22ART206	造形表現A	1～4
22NUR409	こどもの理解と援助	3	22ART207	造形表現B	1～4
22NUR410	社会的養護Ⅰ	1	22CHI307	こども文化特講A	1～4
22NUR411	社会的養護Ⅱ	2	22CHI308	こども文化特講B	1～4
22NUR412	乳児保育Ⅰ	2	22CHI309	こども文化特講C	1～4
22NUR414	子どもの保健	2	22CHI310	こども文化特講D	1～4
22NUR415	子どもの食と栄養A	2	22CHI311	こども文化特講E	1～4
22NUR413	乳児保育Ⅱ	3	22CHI312	こども文化特講F	1～4
22NUR417	子どもの健康と安全	2	22CHI313	こども文化特講G	1～4
22NUR416	子どもの食と栄養B	3	22CHI314	こども文化特講H	1～4
22NUR418	子ども家庭支援論	3	22CHI315	こども文化特講a	1～4
22NUR419	子育て支援	3	22CHI316	こども文化特講b	1～4
22PSY202	子ども家庭支援の心理学	2	22CHI317	こども文化特講c	1～4
22EDU301	教育制度	3	22CHI318	こども文化特講d	1～4
22NUR420	保育者論	3	22EDU209	リトミックⅢ	2～4
22NUR421	保育カリキュラム論	3	22EDU210	リトミックⅣ	2～4
22PSY203	教育相談	4	22EDU302	ピアノ表現法Ⅴ	3～4
22NUR422	保育内容総論	4	22EDU303	ピアノ表現法Ⅵ	3～4
22NUR423	教職・保育実践演習	4	22EDU304	ピアノ表現法Ⅶ	3～4
22NUR436	保育フィールドワークA	2～4	22EDU305	ピアノ表現法Ⅷ	3～4
22NUR437	保育フィールドワークB	1～4	22CHI319	多様性の理解	3
22NUR203	在宅保育論	4	22CHI320	比較文化・文学	3
22CHI204	野外文化活動	1	22CHI321	文化史と多文化共生	4
22EDU207	リトミックⅠ	1	22CHI322	共生社会論	4
22EDU208	リトミックⅡ	1			

実習・実習指導（選択・課程必修）					
22NUR424	保育実習Ⅰ（保育所）	2	22NUR430	保育実習Ⅲ（施設）	3
22NUR425	保育実習指導Ⅰ（保育所）	2	22NUR431	保育実習指導Ⅲ（施設）	3
22NUR426	保育実習Ⅰ（施設）	3	22NUR432	教育実習（幼Ⅰ）	3
22NUR427	保育実習指導Ⅰ（施設）	3	22NUR433	教育実習指導（幼Ⅰ）	3
22NUR428	保育実習Ⅱ（保育所）	3	22NUR434	教育実習（幼Ⅱ）	4
22NUR429	保育実習指導Ⅱ（保育所）	3	22NUR435	教育実習指導（幼Ⅱ）	4

授業科目名	アカデミックライティング	担当教員名	田中 路			
コード	22LET102	区分 (必修・選択)	卒業必修	保育士課程 必修	幼稚園教諭課程 必修	選択
年次/期間	2年/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。					
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。					
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。					
【授業の概要】						
本授業は、1年次の純心チュートリアルを活かした実践編である。1年次に行ったグループワークを発展させ、論文執筆の一連の流れを学生各人が行う。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
						ディプロマ・ポリシー
1 論文執筆の作法を身につけ、テーマの絞込み、論文形式での執筆ができるようになる。						①
2						②
3						③
						④
						⑤
【授業計画】						
	授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)		
1	導入:授業概要、授業の進め方、評価方法等 キーワードカード、書誌カード作成法(奥付の意味と見方)の復習			シラバスを熟読して頂くこと(第1回事前・30分) B6サイズ情報カードおよびB6ファイル二冊を用意して頂く。		
2	純心チュートリアル復習、文献収集法、 論文作成のステップ			1年次の純心チュートリアルの資料を見直して頂く (第2回事前・60分)		
3	論文の体裁と規則、その意味			第2回配布資料を熟読し、キーワードカードを作成する(第3回事前・60分) ←第3回授業時に回収、添削後返却		
4	トピック選定			トピックに関する文献複数選定、書誌カード(同一資料につき二枚)作成(第4回事前・120分) ←書誌カードのうち一枚を第4回授業時に回収		
5	テーマ決定			トピックに関する文献選定、書誌カード(同一資料につき二枚)、キーワードカード作成(第5回事前・120分) ←書誌カードのうち一枚を第5回授業時に回収		
6	キーワードカード整理⇔アウトライン構想①			キーワードカード作成(第6回事前・120分)		
7	キーワードカード整理⇔アウトライン構想②			キーワードカード作成(第7回事前・120分)		
8	アウトライン決定			キーワードカード作成(第8回事前・120分)		
9	論文執筆 (五階パソコン室集合)			パラグラフ毎のキーワードカード整理(第9回事前・120分)		
10	論文執筆 (五階パソコン室)			パラグラフ毎のキーワードカード整理(第10回事前・120分)		
11	添削に沿って論文修正 発表原稿作成 (五階パソコン室)			第11回2日前までに論文データを担当教員に送付		
12	添削に沿って発表原稿修正 レジュメ・パワーポイント作成 (五階パソコン室)			第12回2日前までに発表原稿データを担当教員に送付		
13	添削に沿ってレジュメ・パワーポイント修正			第13回2日前までにレジュメ・パワーポイントデータを担当教員に送付		
14	発表			第14回2日前までに完成版レジュメ、パワーポイントデータを担当教員に送付		
15	発表と総括 発表評価シート記入 振り返りシートの記入			発表評価シート記入(14回事後→15回に)		
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション		○				
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
添削						
【成績の評価方法】						
演習課題のとり組み:50%						
課題の提出状況および内容:50%						
【履修申請上の条件】						
特になし						

【教科書】 特になし
【参考書】 授業時に指示
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】
【教員連絡先】 m.tanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 作成したデータは複数個所に保存すること。 メールで教員宛データを送付した場合には、24時間以内に教員からの返信がある。教員からの返信が確認できない場合には、データ未着と考え、直接教員にUSBでデータを提出すること。

授業科目名	Humanities Basics	担当教員名	増田光・田尻真理子			
コード	22JUN104	区分 (必修・選択)	必修 ○	選択	幼稚園教職課程	保育士課程 多文化共生
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。					
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。					
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。					
【授業の概要】						
「私・今・ここ から 共同体・歴史・世界へ」 人文学諸学科のうち、ことに歴史、地理、古典に関する基礎を、日常生活の諸問題を契機として学ぶ。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー
1 大学生に求められる人文諸学の基礎知識＝教養が身につく。						① ② ③
【授業計画】						
	授業計画	敬称略 担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	オリエンテーション、授業概要、授業実施方法(自由連想法)、評価方法、情報カード作成方法の復習	田尻	【予習】シラバスを熟読し、何を習得するのかを確認する(30分)。 【復習】フロイト、精神分析、無意識、自由連想法 B6 (授業時の作成方法で)			
2	【コテン】「コテン」は死なないー古典とは何かー古典に触れる	田尻	【予習】CDショップの「クラシック音楽」コーナーにどのような(時代)のものがおかれているか調べてカードに記入する(60分)。B6 【復習】「古典の三要件」を、実例を挙げながらまとめる(30分)。B6			
3	【コテン】古典に触れる	田尻	【復習】授業時配布のシートに必要事項を記入する(90分)。			
4	【イヒ(飯)】「ごはん」の多義性と重要性ーユネスコ無形文化遺産としての和食＝倭食ー稲作伝来と社会構造の変化	田尻	【予習】『魏志倭人伝』、『古事記』、『日本書紀』、ユネスコ(30分)B6 【復習】授業時指示されたキーワードをB6 カードに纏める(120分)			
5	【カミ(神)】日本の「カミ」ーアニミズムの世界観ー神教的世界観と多神教的世界観ーアニミズムと「かわいい」文化ーアニミズムと「幕の内弁当」的世界	田尻	【予習】アニメ、アニミズム、クールジャパン、衆生済度(60分)B6 【復習】授業時指示されたキーワードをB6 カードに纏める(120分)			
6	【カミ(上)シタ(下)】二院制/両院制(上院・下院、衆議院・参議院)ー上下関係と敬語ー世界の上下関係:東西問題から南北問題へー9.11以降の世界	田尻	【予習】第5回で配布した「敬語ワークシート」記入、ペレストロイカ、ベルリンの壁、テロリズム(90分)B6 【復習】授業時指示されたキーワードをB6 カードに纏める(120分)			
7	【シタ(舌)】宗教と食事ー戦争と平和ー共食ー『饗宴』ーエロスとアガペー	田尻	【予習】カースト制度、ハラル、過ぎ越し、ラマダーン、ウルのスタンダード、プラトン(90分)B6 【復習】授業時指示されたキーワードをB6 カードに纏める(120分)			
8	【ガス(瓦斯)】「てんしき」ー「福富草紙」、「神農絵巻」ー「さかさまの世界(Mondo alla riversa)」ーボッシュとブリューゲルー道化とトリックスター	田尻	【予習】絵巻、ボッシュ、ブリューゲル、カーニバル、トリックスター(90分)B6 【復習】授業時指示されたキーワードをB6 カードに纏める(120分)			
9	【ガス(瓦斯)】『ガムガンチュアとパンタグリユエル物語』ー風刺の機能ー『デカメロン』ーペストーサリンーチクロンBーホロコースト	田尻	【予習】ラブレール、ボッカチオ、地下鉄サリン事件、ヒトラー、ナチス、ホロコーストB6 【復習】授業時指示されたキーワードをB6 カードに纏める(120分)			
10	【世界戦略】アメリカの「ソフトパワー」をキーワードとして現代史を考える	増田	池内恵の論文「必須教養は『アメリカの世界戦略と現代史』」を熟読してくる(授業外学修時間4時間)。			
11	【移民社会】「人の移動」をキーワードとしてアメリカ社会の多様性を考察する	増田	テキストのⅠ「アメリカとはそもそもどんな国か」を熟読してくる(授業外学修時間4時間)			
12	【田園国家】「サラダボウル」「メルティングポット」をキーワードとしてアメリカの国土について考察する	増田	テキストのⅡ「アメリカ的とはどういうことかか」を熟読してくる(授業外学修時間4時間)			
13	【国際通貨】「ドル」をキーワードとしてアメリカの政治・経済を考察する	増田	テキストのⅢ「私たちにとってアメリカとは何か」を熟読してくる(授業外学修時間4時間)			
14	【宗教・思想】「ピューリタン」「プラグマティズム」をキーワードとしてアメリカ市民の発想を考察する	増田	松尾式之著「人々の根幹 宗教・思想」「アメリカ市民の発想(常識)」「アメリカの歴史」を熟読してくる(授業外学修時間4時間)			
15	総括・質疑応答、レポート作成時の諸注意	増田・田尻	第1回から第14回までの授業内容についての 疑問点、質問を纏めてくる。			

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		g-suitのクラスルームを利用して資料配布
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】 一回から九回までの授業外学修は予習・復習ともに指示されたキーワードをB6カードに纏める。使用するリファレンスブックは主として参考書①～⑨を用いる(授業内に指示)(120は、【予習】【復習】を合わせた時間)。 その成果を、毎授業冒頭(ないし最後)に、小テストで確認する。小テストに添削および全体に向けてのフィードバック。		
【成績の評価方法】 授業内小テスト30%、授業時の発言・質問等積極性20%、期末レポート50%		
【履修申請上の条件】 特になし		
【教科書】 『アメリカ』 橋爪大三郎・大澤真幸、河出新書		
【参考書】 授業内で指示		
【オープンな教育リソース】 特になし		
【担当教員の実務経験】		
【オフィスアワー】		
【教員連絡先】 mtajiri@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】 二回から九回の授業外学修で使用する参考図書は以下の通り(いずれも図書館2回リファレンスブック(参考図書)コーナーにある)。 大きな時事問題、事件、自然災害等発生の際には内容に変更が生じる場合もある。 一回から九回で配布されるハンドアウトは教科書にかわるものであるため、大切に保管すること。紛失した場合等は友人の物を複写するなどして対処すること。		

授業科目名	健康の科学	担当教員名	下川 学				
コード	22NUR101	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
人口の少子化、高齢化が進む中であって、がん、脳卒中、心臓病、糖尿病などの代表的な生活習慣病が大きな社会問題となっている。健康は、運動と栄養と休養の3つのバランスのもとで成り立つ。授業においては現在の健康問題を概観し、日本の国民栄養の現状を把握する。また、ヒトの身体組成、からだの構造、体力等について学び、個々の運動プログラム作成をめざす。さらに、活力ある健康的な生活を営むために、今後の健康教育と生涯スポーツのあり方を考える。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
1 日本における健康問題と国民栄養の現状を把握することができる。							○
2 運動、栄養、休養の3つのバランスの重要性について説明することができる。							○
3 自分自身の身体組成を説明することができる。							○
4 正しい理論を用いた運動プログラム作成と実践ができる。							○
【授業計画】							
	授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	オリエンテーション			シラバスを一読しておくこと。予習(30分)			
2	健康問題(健康と身体組成)			予習:自己の健康観について考える。(30分) 復習:資料を一読しておくこと。(30分)			
3	健康問題(健康日本21)			予習:年代別の死因順位について調べておくこと。(30分) 復習:死因順位について。(30分)			
4	国民衛生の動向			予習:各国の平均寿命を調べる。(30分) 復習:資料のデータを再確認しておく。(30分)			
5	国民健康・栄養調査			予習:自己の体格評価の確認(30分) 復習:前回資料の再確認。(30分)			
6	体格評価			予習:肥満等について(30分) 復習:国民健康・栄養調査結果の再確認。(30分)			
7	肥満・るいそう			予習:栄養について(30分) 復習:身体組成について(30分)			
8	食事摂取基準、栄養			予習:体力の資料について(30分) 復習:体格評価方法について(30分)			
9	体力(1)			予習:骨について調べておくこと。(30分) 復習:食事バランスガイドについて。(30分)			
10	体力(2)			予習:筋について。(30分) 復習:骨の名称を覚える(30分)			
11	運動処方			予習:主要な筋の名称を覚える(30分) 復習:骨格筋についての再確認(30分)			
12	トレーニング法			予習:筋力、筋持久力、持久力について(30分) 復習:運動処方の手順について復習しておくこと。(30分)			
13	運動の効果			予習:運動継続について(30分) 復習:10RM、カルボーネン法について復習しておくこと。(30分)			
14	行動変容			予習:行動変容のコツについて(30分) 復習:運動の利点、欠点の再確認。(30分)			
15	まとめ			定期試験に向けて復習する。(60分)			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			○	特になし。			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク			○				
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
次回の講義で行う。							
【成績の評価方法】							
評価は、定期試験によって決定される。							

【履修申請上の条件】 授業時間外における予習、復習、課題等に要する時間については、学修課題の内容を踏まえて取り組むこと。 健康に関する情報は甚に氾濫している。正しい情報かどうか判断できること。
【教科書】 使用しない。必要に応じて資料を配付する。
【参考書】 必要に応じて授業の中で指示する。
【オープンな教育リソース】 特になし。
【担当教員の実務経験】 特になし。
【オフィスアワー】 メールで対応する
【教員連絡先】 mshimokawa@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし。

授業科目名	人間とアート	担当教員名	井上 救			
コード	22JUN107	区分 (必修・選択)	卒業必修	保育士課程 必修	幼稚園教職課程 必修	選択 ○
年次/期間	1年次～4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。					
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。					
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。					
【授業の概要】						
アート(芸術)は、古来より人々の生活の中に係わりを持ち、常に寄り添いながら時代と共に形やその価値を変えて多様化している。本授業では、このようなアートの存在意義を踏まえ、アートの中の主に美術に関するいくつかの事例を考察、探求し、理解を深めて行く。さらに、美術の分野から、現代社会に深く浸透している「デザイン」についても実践などを通して、その役割や意義、活用方法を学ぶ。このような多様なアートの一端にふれることで、人間にとっての感性的世界の重要性を体得できる。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	③
1 人類が生み出したさまざまなアートについて理解し、説明ができる				○		
2 自らの生活の中にアートを見出し、生かすことができる				○		
3 自ら表現することの喜びを見出し、また他者の表現を尊重することができる				○		
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	導入:授業ガイダンス 「アート」についての考察① アートとは何か	井上	予習(30分):シラバスを熟読してくる			
2	「アート」についての考察② アートの価値	井上	予習(30分):前回示した作家の作品を事前に学習してくる			
3	「アート」についての考察③ アートの中の美術	井上	予習(30分):第2回目の授業で示した作家の作品を事前に学習してくる			
4	「デッサン」の力 ・デッサン力について多角的に考える ・日本の特徴的な入試形態「石膏デッサン」	井上	予習(30分):第3回目の授業で示した事前課題を学習してくる			
5	「デザイン」の役割① ・文字(タイポグラフィ、ロゴタイプ)	井上	予習(30分):第4回目の授業で示した事前課題を学習してくる			
6	「デザイン」の役割② ・絵(ピクトグラム、ダイアグラム)	井上	予習(30分):第5回目の授業で示した事前課題を学習してくる			
7	「デザイン」の役割③ ・ユニバーサルデザイン	井上	予習(30分):第6回目の授業で示した事前課題を学習してくる			
8	「クリエイティブ」にももの考える(アートの発想力) ・紙を利用する	井上	予習(30分):第7回目の授業で示した事前課題を学習してくる			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)				google Forms等の積極的利用		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション			○			
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
事前課題についての説明は毎回の授業で行う						
【成績の評価方法】						
授業参加度:20% 課題提出:60% 発表:20% 合計:100%						
【ルーブリック評価の活用(無)】						
1. どの程度、積極的に授業時の活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。						
2. 事前課題および授業課題の提出を「課題提出」として評価する。評価の内訳は、課題の主旨に即しているか、表現の工夫がみられるか等を基準として内容の総合評価とする。						
3. 「発表」は内容だけでなく、発表に向かう姿勢も評価される。						
【履修申請上の条件】						
特になし						
【教科書】						
特になし						
【参考書】						
必要に応じ、授業内で紹介						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
グラフィックデザイナーとしての職務経験あり						
【オフィスアワー】						
未定						
【教員連絡先】						
sinoue@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						

授業科目名	文化人類学	担当教員名	金子 毅						
コード	19HUM108	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生		
年次/期間	1年次～4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
◎	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。								
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。								
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。								
【授業の概要】									
本講義は文化人類学の初学者に対しなされるものである。文化という言葉を知ると何をイメージするだろうか。学生やサラリーマンに問えば、武士、忍者、パワースポットとしての神社、アニメの聖地巡礼などと答える者が多い。だが、自分たちが何気なく日頃行っていることが「文化」であると理解する者は少ない。そこで本講義では誰もが暮らしの中で体験してきた各種のお話、およびその中で語られてきた地域の「祭り」や成人式などをはじめとする「通過儀礼」といった宗教行事などを中心に説明を試みることにしたい。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー		
							①	②	③
1 無理な理論の運用を目指すのではなく、何気ない日常的なシーンに着目出来るようにする。							○		
2 1を通して、他者との相互理解の回路を開く上で不可欠となる「知」の存在に配慮することが出来るようになる。							○		
3 2を通して今後の不透明な世界情勢を透視し、かつ生き抜く上でのリテラシー能力を獲得させる。							○		
【授業計画】									
授業計画				授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	プロローグ:文化はどこにあるか			予習(30分):プリント1(文化とは何か、文化の概念と定義) 復習(45分):プリント1(文化とは何か、文化の概念と定義)					
2	人類学の歴史			予習(30分):プリント2(ヨーロッパ、アメリカ、日本の人類学) 復習(45分):プリント2(ヨーロッパ、アメリカ、日本の人類学)					
3	文化の調べ方			予習(30分):プリント3(調査法) 復習(45分):プリント3(調査法)					
4	様々なお話 その1			予習(30分):プリント4(説話1:昔話・伝説・世間話) 復習(45分):プリント4(説話1:昔話・伝説・世間話)					
5	様々なお話 その2			予習(30分):プリント5(説話2:都市伝説) 復習(45分):プリント5(説話2:都市伝説)					
6	様々なお話 その3			予習(30分):プリント6(神話と儀礼) 復習(45分):プリント6(神話と儀礼)					
7	お話は語る その1			予習(30分):プリント7(幽霊と妖怪) 復習(45分):プリント7(幽霊と妖怪)					
8	お話は語る その2			予習(30分):プリント8(予兆と禁忌) 復習(45分):プリント8(予兆と禁忌)					
9	お話は語る その3			予習(30分):プリント9(占いと呪術) 復習(45分):プリント9(占いと呪術)					
10	お話は語る その4			予習(30分):プリント10(妖術と邪視) 復習(45分):プリント10(妖術と邪視)					
11	お話は語る その5			予習(30分):プリント11(年中行事と祭り) 復習(45分):プリント11(年中行事と祭り)					
12	お話は語る その6			予習(30分):プリント12(日本の伝統行事・来訪神・憑き物) 復習(45分):プリント12(日本の伝統行事・来訪神・憑き物)					
13	お話は語る その7			予習(30分):プリント13(通過儀礼1:妊娠～出産～七五三) 復習(45分):プリント13(通過儀礼1:妊娠～出産～七五三)					
14	お話は語る その8			予習(30分):プリント14(通過儀礼2:成年式～結婚～還暦) 復習(45分):プリント14(通過儀礼2:成年式～結婚～還暦)					
15	お話は語る その9			予習(30分):プリント15(通過儀礼3:死と供養) 復習(45分):プリント15(通過儀礼3:死と供養)					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		学生の理解をうながすために必要に応じて映像資料なども活用する予定である。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
学生の理解度を確認するために時折、授業時に小テストも実施する予定である。		
【成績の評価方法】		
課題レポート70%、小テスト20%、 課題レポート70%、小テスト20%、授業への参加度10%を加えた総合的な評価を行なう。		
【履修申請上の条件】		
文化は人間関係の基礎を形作るものです。どうかアンテナを張り巡らして柔軟な思考で好奇心をもって臨んで下さい。		
【教科書】		
特になし、毎時プリントを配布します。		
【参考書】		
受講時に随時指示します。		
【オープンな教育リソース】		
特にありません。		
【担当教員の実務経験】		
特になし。		
【オフィスアワー】		
質問等がある場合は、学務課へ申し出ること。		
【教員連絡先】		
tkaneko@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
特になし。		

授業科目名	情報処理検定	担当教員名	井上 救					
コード	22HUM103	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生	
年次/期間	1～4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① 主体的に心理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。							
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。							
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。							
【授業の概要】								
一般企業はもとより、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭として活躍する現場においても、今やコンピュータ等を使って書類を作成したり表計算などのデータ処理をすることは当然な業務となっている。そのような流れの中で、本授業では、就職活動時に有利となるPCスキル「MOS(マイクロソフト オフィス スペシャリスト)」の中から、ワープロソフト「Word365&2019 一般レベル」の受験を前提とした対策問題に取り組み、ソフトに対する理解を深め、より実践的に扱うことが出来るよう学ぶ。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー		
						①	②	③
1 「Microsoft Word 365&2019」に対する理解度を確認することができる。						○		
2 ICTスキル(知識、技能など)を体得できる。						○		
3 課題に対する問題解決力を得ることができる。						○		
【授業計画】								
	授業計画		授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	・授業についてのガイダンス ・出題範囲1 文書の管理 1-1 文書内を移動する		予習(約20分):本授業のシラバスを一読しておくこと 出題範囲 1文書の管理 1-1を事前に学習しておくこと					
2	・出題範囲1 文書の管理 1-2 文書を書式設定する 1-3 文書を保存する、共有する		予習(約20分):出題範囲1 文書の管理 1-2 1-3を事前に学習しておくこと					
3	・出題範囲1 文書の管理 1-4 文書を検査する →確認問題		予習(約20分):出題範囲2 文書の管理 1-4を事前に学習しておくこと					
4	・出題範囲2 文字、段落、セクションの挿入と書式設定 2-1文字列や段落を挿入する 2-2 文字列や段落の書式を設定する		予習(約20分):出題範囲2 文字、段落、セクションの挿入と書式設定 2-1を事前に学習しておくこと					
5	・出題範囲2 文字、段落、セクションの挿入と書式設定 2-3文書にセッションを作成する、設定する →確認問題		予習(約20分):出題範囲2 文字、段落、セクションの挿入と書式設定 2-3を事前に学習しておくこと					
6	・出題範囲3 表やリストの管理 3-1表を作成する 3-2表を変更する		予習(約20分):出題範囲3 表やリストの管理 3-1 3-2を事前に学習しておくこと					
7	・出題範囲3 表やリストの管理 3-3リストを作成する、変更する →確認問題		予習(約20分):出題範囲3 表やリストの管理 3-3を事前に学習しておくこと					
8	・出題範囲4 参考資料の作成と管理 4-1参照のための要素を作成する、管理する		予習(約20分):出題範囲4 参考資料の作成と管理 4-1を事前に学習しておくこと					
9	・出題範囲4 参考資料の作成と管理 4-2参照のための一覧を作成する、管理する →確認問題		予習(約20分):出題範囲4 参考資料の作成と管理 4-2を事前に学習しておくこと					
10	・出題範囲5 グラフィック要素の挿入と書式設定 5-1図やテキストボックスを挿入する		予習(約20分):出題範囲5 グラフィック要素の挿入と書式設定 5-1を事前に学習しておくこと					
11	・出題範囲5 グラフィック要素の挿入と書式設定 5-2図やテキストボックスを書式設定する		予習(約20分):出題範囲5 グラフィック要素の挿入と書式設定 5-2を事前に学習しておくこと					
12	・出題範囲5 グラフィック要素の挿入と書式設定 5-3グラフィック要素にテキストを追加する		予習(約20分):出題範囲5 グラフィック要素の挿入と書式設定 5-3を事前に学習しておくこと					
13	・出題範囲5 グラフィック要素の挿入と書式設定 5-4グラフィック要素を変更する →確認問題		予習(約20分):出題範囲5 グラフィック要素の挿入と書式設定 5-4を事前に学習しておくこと					
14	・出題範囲6 文書の共同作業の管理 6-1コメントを追加する、管理する		予習(約20分):出題範囲6 文書の共同作業の管理 6-1を事前に学習しておくこと					
15	・出題範囲6 文書の共同作業の管理 6-2変更履歴を管理する →確認問題		予習(約20分):出題範囲6 文書の共同作業の管理 6-2を事前に学習しておくこと					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)				課題提出はGmailを活用する。				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート								
④:グループワーク								
⑤:プレゼンテーション								
⑥:実習・フィールドワーク			○					
【課題のフィードバック】								
・作成したものは基本的に授業内にてフィードバックを行う。								
【成績の評価方法】								
授業参加度:30% 課題提出:40% 理解度確認問題の評価:30%								
1. どの程度、積極的に授業時の活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。								
2. 授業課題の作成物を「課題提出」として評価する。評価の内訳は、課題意図を理解し、適切な作業をしているか、相手に伝わりやすくする工夫がみられるか等を基準として内容の総合評価とする。								
3. 章ごとに授業内でどの程度理解しているか都度確認問題を実施し評価する。								
4. MOS(Microsoft Office Specialist)試験を受験し、所定の期日までに合格が確認できた者に加点する。								

【履修申請上の条件】 ・前期に開講する科目「情報処理(上)(下)」が履修済みであることが望ましい。
【教科書】 ・『よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Microsoft Word 365&2019 対策テキスト&問題集』 著作／制作: 富士通エフ・オー・エム株式会社
【参考書】 ・必要に応じて参考資料を紹介する。
【オープンな教育リソース】 特になし。
【担当教員の実務経験】 特になし。
【オフィスアワー】
【教員連絡先】 sinoue@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし。

授業科目名	パイプオルガンA	担当教員名	鏑木 陽子				
コード	22HUM104	区分 (必修・選択)	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
年次/期間	2年次～4年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
パイプオルガン(以後オルガン)の歴史は古く、はるか紀元前まで遡ることが出来る。中世、ルネッサンス、バロック、19世紀から現代に至るまで、様々な国と時代の作品を演奏することを通して、その当時の息吹を感じ取り、それを私たちの文化にどう生かしていくかを探求する。オルガン音楽は歌と結びついているため、讃美歌や聖歌の弾き方のみならず、弾き歌いも習得できるよう指導する。授業は基本的に本学江角記念講堂の大オルガンを使用する。クラスの中で互いに聴き合いながら、オルガン音楽を学んでいく。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
							ディプロマ・ポリシー
							①
							②
							③
1 パイプオルガンの歴史と構造を理解し、楽器に関する正確な情報を説明することができる							○
2 パイプオルガン特有のタッチを習得し、指先と耳を用いて1本1本のパイプを美しく発音させることができる							○
3 讃美歌・聖歌、独奏曲のレパートリーを増やし、礼拝、ミサ、また保育現場の行事における奏楽に応用できる							○
【授業計画】							
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	パイプオルガンを知る(1) 江角記念講堂のオルガン	予習(60分):オルガンで弾いてみたい任意の曲を選び、譜読みをして準備する 復習(120分):パイプオルガンの構造について指示された参考資料を熟読する					
2	パイプオルガンを知る(2) オルガンの歴史	予習(120分):指示された配付資料の該当箇所を読み込み、譜例を弾いて準備する 復習(60分):ネット上の映像と音源を聴く(授業時にアクセス先を指示)					
3	パイプオルガンを知る(3) パイプの種類と音色について	予習(120分):指示された配付資料の該当箇所を読み込み、譜例を弾いて準備する 復習(60分):指示された音源を聴く					
4	パイプオルガンを知ろう(4) 美しい音とは何だろう?	予習(120分):指示された配付資料の該当箇所を読み込み、譜例を弾いて準備する 復習(60分):指示された音源を聴く					
5	パイプオルガンを知ろう(5) タッチとリリース(離鍵)、呼吸を意識する	予習(120分):指示された配付資料の該当箇所を読み込み、譜例を弾いて準備する 復習(60分):指示された音源を聴く					
6	オルガン奏法の実際(1) 1本指からはじめよう	予習(120分):指示された配付資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
7	オルガン奏法の実際(2) 足鍵盤を弾く	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
8	オルガン奏法の実際(3) 指で笛を歌わせるということ	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
9	オルガン奏法の実際(4) なめらかに旋律を弾くには	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
10	オルガン奏法の実際(5) 踵も使って足鍵盤を弾く	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
11	オルガン奏法の実際(5) 両手と両足を使って弾く	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
12	ストップとレジストレーション	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
13	バロックの小品を弾く1(手鍵盤)	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
14	バロックの小品を弾く2(足鍵盤付き)	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
15	オルガンによるアンサンブル	予習(120分):指示された配布資料の該当箇所を読み込み、課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	
【課題のフィードバック】		
各自が準備した課題曲学修成果、レポートについては次回授業時にフィードバックを行なう。		
【成績の評価方法】		
作曲家・作品に関するレポート30%、平常点(日々の練習、授業態度、学修意欲)30%、実技試験40% レポートの採点基準は「作品の背景、作曲家の特徴を理解し、自分の言葉で曲の解釈を述べている」という点である。実技試験の採点基準は、「曲の特徴を理解し、オルガンという楽器を十分に鳴らすことができている」という点である。		
【履修申請上の条件】		
4声の讃美歌のソプラノとバスパートを難なく弾くことができるか、J. S. バッハ『2 声のインヴェンション』を習得していることが望ましい。ただし、オルガンを学びたいという意欲がある場合はこの限りでない。毎週の授業のために日々、地道に練習を積み重ねて準備を怠らないこと。		
【教科書】		
必要に応じて課題曲、資料を用意する		
【参考書】		
松居直美、廣野嗣雄他『オルガンの芸術 歴史・楽器・奏法』(道と書院) 近藤岳(編著)梅干野安未・松岡あさひ(著)『オルガン奏法——パイプでしゃべろう! パイプで歌おう!』(道と書院) 椎名雄一郎『パイプオルガン入門』(春秋社)		
【オープンな教育リソース】		
オランダ・バッハ協会 https://www.youtube.com/channel/UC2kF6qdHRTM_hDYfEmzkS9w		
【担当教員の実務経験】		
コンサートオルガニスト、教会オルガニスト、バロック音楽および教会音楽の研究・実践者としての経験をもとに、パイプオルガンを通じた表現活動についての指導を行う		
【オフィスアワー】		
金曜日3限(事前に連絡をしてから訪問すること)		
【教員連絡先】		
ykaburagi@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
聖母祭におけるオルガンコンサート、純心こどもの国のクリスマスにおいて演奏をしたい学生には、必要に応じて課題を与え、指導する。また学生からの希望によっては学外授業として教会やホール等のパイプオルガン見学会を実施することもある。		

授業科目名	合唱音楽	担当教員名	田中路			
コード	22JUN108	区分 (必修・選択)	卒業必修	保育士課程 必修	幼稚園教職課程 必修	選択 ○
年次/期間	1年次～4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。					
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。					
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。					
【授業の概要】						
歌うという行為は、楽器を奏すること以上に人間の身体に直接結びつき、合唱することは、集団を作るという人間の最も基本的な行為に根差したものであるといえる。本授業は、他者の声に耳を傾け、響きを共有する意識を持った合唱表現の探求を目的とする。原則として毎回の授業では、合唱音楽の歴史を概観し(講義、約30分)、その上で楽曲の内容、響きを感じながら合唱表現を行う(演習、約60分)。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
						ディプロマ・ポリシー
						① ② ③ ④ ⑤
1 自分の声を見つめ、声楽的な発声法に習熟する。						○
2 他者の声に耳を傾け、他パートと協調しながら音楽表現を工夫することができる。						○
3 合唱音楽の歴史、様式について理解し、歌唱楽曲の特徴を説明することができる。						○
【授業計画】						
授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	合唱の基礎 グレゴリオ聖歌(Ave Maria)、東京純心大学大学歌		復習(30分):復習用参考音源を鑑賞する。			
2	ルネサンス・バロックの合唱音楽		予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。			
3	古典派の合唱音楽		予習(60分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。			
4	ロマン派の合唱音楽		予習(60分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。			
5	近現代の合唱音楽・ポピュラー音楽		予習(60分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。			
6	NHK全国学校音楽コンクールの課題曲の分析		予習(60分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。			
7	NHK全国学校音楽コンクールの課題曲の歌唱		予習(60分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。			
8	本授業のまとめ:ミニコンサート		予習(60分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):ミニコンサートの反省を行う。			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)				Googleclassroomにおいて予習、復習資料を共有する。		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○			
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク			○			
【課題のフィードバック】						
レポートにコメントを入れて返却する。						
【成績の評価方法】						
平常点(授業時間外の練習、授業態度、学修意欲)40%、レポート60%。採点基準は以下の通りである。課題:「自らの生活や専門分野での活動を音楽における響き合いと関連づけて記述することができる」、レポート:「課題作品について、作品の背景、作曲家の特徴について調べ、自らの言葉で解釈を述べることができる」						
【履修申請上の条件】						
楽譜が読めることが望ましいが、ピアノや音源で予習をする意欲のあるものはその限りではない。 本授業では声を合わせることを目的とするため、履修者は必ず予習として次回学習曲目の理解を深め、担当パートの練習を各自で行っておくこと。						
【教科書】						
必要に応じて資料を用意する。						
【参考書】						
皆川達夫著『合唱音楽の歴史』全音楽譜出版社、1965年。 岡田暁生著『西洋音楽史―「クラシックの黄昏」』中公新書、2005年。 菊池成孔・大谷能生著『憂鬱と官能を教えた学校【パークリー・メソッド】によって俯瞰される20世紀商業音楽史』上・下 河出文庫、2010年。						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
特になし						
【オフィスアワー】						
火曜及び金曜 12:10～12:50						
【教員連絡先】						
m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp						
【備考】						
講義は授業計画通り行う。演習は原則として授業計画に準ずるが、履修者の学修進度によりその限りではない。						

授業科目名	パイプオルガンB	担当教員名	鏑木 陽子				
コード	22HUM105	区分 (必修・選択)	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
年次/期間	2年次～4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
パイプオルガン(以後オルガン)の歴史は古く、はるか紀元前まで遡ることが出来る。中世、ルネッサンス、バロック、19世紀から現代に至るまで、様々な国と時代の作品を演奏することを通して、その当時の息吹を感じ取り、それを私たちの文化にどう生かしていくかを研究する。授業には江角記念講堂の大オルガンを使用し、クラスの中で互いに聴き合いながら、パイプオルガンAで修得した奏法と知識をさらに深めていく。また学外の教会にも出向き、さまざまなオルガンと、音空間に出会う機会も作る予定である。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
1 パイプオルガンの歴史と構造を理解し、楽器に関する正確な情報を説明することができる							○
2 パイプオルガン特有のタッチを習得し、指先と耳を用いて1本1本のパイプを美しく発音させることができる							○
3 讃美歌・聖歌、独奏曲のレパートリーを増やし、礼拝、ミサ、また保育現場の行事における奏楽に応用できる							○
【授業計画】							
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	パイプオルガンを知ろう	予習(60分):オルガンで弾いてみたい任意の曲を選び、譜読みをして準備する 復習(120分):パイプオルガンの構造について指示された参考資料を熟読する					
2	「ピアノ表現法」の課題曲をオルガンで弾こう	予習(120分):『ピアノ表現法』の課題曲から任意の3曲を選び、準備する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
3	足鍵盤のテクニック1	予習(120分):あらかじめ与えられた足鍵盤の課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
4	足鍵盤のテクニック2	予習(120分):あらかじめ与えられた足鍵盤の課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
5	讃美歌を弾く1 ― ひとりで弾く―	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
6	讃美歌を弾く2 ― 弾き歌い―	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
7	讃美歌を弾く3 ― 足鍵盤をつけて弾く ―	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
8	讃美歌を弾く4 ― 伴奏として弾く―	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
9	カトリック聖歌・典礼聖歌を弾く1― ひとりで弾く―	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
10	カトリック聖歌・典礼聖歌を弾く2― 弾き歌い―	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
11	カトリック聖歌・典礼聖歌を弾く3 ― 足鍵盤をつけて弾く ―	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
12	カトリック聖歌・典礼聖歌を弾く4 ― 伴奏として弾く―	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
13	バロックの小品を弾く1(手鍵盤)	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
14	連弾でオルガンを弾こう	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
15	バロックの小品を弾く2(足鍵盤付き)	予習(120分):あらかじめ与えられた課題曲を練習する 復習(60分):授業で指摘された点をふまえ、練習する					
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			特になし				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク		○					
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク		○					

<p>【課題のフィードバック】</p> <p>各自が準備した課題曲学修成果、レポートについては次回授業時にフィードバックを行なう。</p>
<p>【成績の評価方法】</p> <p>作曲家・作品に関するレポート30%、平常点(日々の練習、授業態度、学修意欲)30%、実技試験40% レポートの採点基準は「作品の背景、作曲家の特徴を理解し、自分の言葉で曲の解釈を述べている」という点である。 実技試験の採点基準は、「曲の特徴を理解し、オルガンという楽器を十分に鳴らすことができている」という点である。</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>「パイプオルガンA」を履修済み、もしくはJ. S. バッハ『2声のインヴェンション』を習得していることが望ましいが、オルガンを学びたいという意欲がある場合はこの限りでない。 毎週の授業のために日々、地道に練習を積み重ねて準備を怠らないこと。</p>
<p>【教科書】</p> <p>必要に応じて課題曲を指定する</p>
<p>【参考書】</p> <p>松居直美、廣野嗣雄他『オルガンの芸術 歴史・楽器・奏法』(道和書院) 近藤岳(編著)梅干野安未・松岡あさひ(著)『オルガン奏法——パイプでしゃべろう！パイプで歌おう！』(道和書院) 椎名雄一郎『パイプオルガン入門』(春秋社)</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>オランダ・バッハ協会 https://www.youtube.com/channel/UC2kF6qdHRTM_hDYfEmzkS9w</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>コンサートオルガニスト、教会オルガニスト、バロック音楽および教会音楽の研究・実践者としての経験をもとに、パイプオルガンを通じた表現活動についての指導を行う</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>金曜日3限(事前に連絡をしてから訪問すること)</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>ykaburagi@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>聖母祭におけるオルガンコンサート、純心こどもの国のクリスマスにおいて演奏をしたい学生には、必要に応じて課題を与え、指導する。 また学生からの希望によっては学外授業として教会やホール等のパイプオルガン見学会を実施することもある。</p>

授業科目名	宗教学	担当教員名	徳田 安津樹				
コード	19HUM109	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
年次/期間	2~4年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
今日、世界各地で多発している紛争や衝突には、「宗教」が重要な要素として関わっている。また、多文化社会が進む現代にあつては、身近な関係性のなかでさえ、多様な宗教的背景を有する「他者」と関わることなしに生きていくことは想定しがたい。ここには、必ずしも一般に「宗教」と見なされていない慣習や信念も関係しており、とりわけ現代では、スピリチュアリティといった曖昧な領域が勢いを増しているなど、「宗教」がきわめて多面的な姿をとっている。この授業では、宗教伝統の教えや歴史的展開についての基本的な知識を獲得するとともに、「宗教学」の基本的な考え方を学びつつ、現代世界における「宗教」の様々な形態を捉える。また、「宗教」を暴力と寛容という観点から再考し、多様な宗教的背景を持つ「他者」との共生のあり方を検討する。「宗教」と「宗教学」を学ぶことを通じて、いかに「他者」と向き合うか、いかにすれば「他者」と対話的な関係を構築できるかを考えることを目指す。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
1 様々な宗教伝統についての基礎知識を、世界各地で起きている出来事や身近な問題に適用し、説明することができる。							○
2 宗教学の基本的な考え方を説明することができる。							○
3 宗教や宗教学についての知識や考え方を踏まえながら、自分と異なる立場に立っている他者との関わり方について、自分の意見をまとめ、表明することができる。							○
【授業計画】							
	授業計画				授業外学修(予習・復習・課題等)		
1	世界の様々な宗教 ・世界各地にはどのような「宗教」があるのかを概観し、その分類方法を学ぶとともに、われわれがどのようなものを「宗教」として捉えているのかを考察する。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。				予習(45分): 宗教について知っていることや、どんな考え・印象を持っているかを振り返っておく。		
2	宗教と宗教学 ・宗教概念論を通じて、現代の宗教学の基本的な考え方を学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。				予習(45分): 事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。		
3	ユダヤ教とキリスト教 ・三つの一神教を整理しつつ、ユダヤ教とキリスト教の概要と基本的な教えを学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。				予習(45分): 事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。また、キリスト教について今まで学んだことや、どんな考え・印象を持っているかを振り返っておく。		
4	イスラーム(1)ムハンマドの生涯と教え ・ムハンマドの生涯を概観することを通じて、イスラームの成立と基本的な教えを学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。				予習(45分): 事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。		
5	イスラーム(2)イスラームの現在 ・多様化したイスラームの諸相と、現代イスラームに関連して生じている問題について学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。				予習(45分): 事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。		
6	ヒンドゥー教 ・ヒンドゥー教の概要と多様な実践を学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。				予習(45分): 事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。		
7	仏教(1)ブッダの生涯と教え ・ブッダの生涯を見ることを通じて、仏教の成立との基本的な教えを学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。				予習(45分): 事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。		
8	仏教(2)仏教の現在 ・仏教の歴史的展開と、現代の多様化した実践を学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。				予習(45分): 事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。		
9	儒教 ・儒教的な世界観や死生観を概観し、その日本に対する影響を学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。				予習(45分): 事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。		
10	神道 ・神道の概要を捉え、特に近現代における神道の位置と歴史的展開を学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。				予習(45分): 神社や神道について知っていることや、どんな考え・印象を持っているかを振り返っておく。		
11	日本の新宗教 ・近現代の日本で成立した新宗教を概観し、その基本的な特徴を学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。				予習(45分): 日本の新宗教について知っていることや、どんな考え・印象を持っているかを振り返っておく。		
12	現代世界における宗教の様々な形態 ・現代の世界と日本において宗教がどのような形で存在しているかを学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。				予習(45分): 事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。		

13	<p>宗教と暴力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教が暴力や戦争とどのように関係しているかを、各宗教伝統の教えや、具体的な事例を通して学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。 	<p>予習(45分):</p> <p>事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。</p>									
14	<p>宗教と寛容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教的寛容に関する主要な概念と思想を学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。 	<p>予習(45分):</p> <p>事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。</p>									
15	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで宗教や宗教学について学んでことを振り返りつつ、他者といかに関わるかという問題について、自分の意見をまとめる。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。 	<p>予習(45分):</p> <p>これまでの授業で学んだことを踏まえ、共生という問題について自分なりの意見を整理しておく。</p>									
【アクティブラーニング】		<table border="1"> <thead> <tr> <th>チェック欄</th> <th>その他の工夫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①:PBL(課題解決型学習)</td> <td rowspan="6">特になし。</td> </tr> <tr> <td>②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</td> </tr> <tr> <td>③:ディスカッション・ディベート</td> </tr> <tr> <td>④:グループワーク</td> </tr> <tr> <td>⑤:プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>⑥:実習・フィールドワーク</td> </tr> </tbody> </table>	チェック欄	その他の工夫	①:PBL(課題解決型学習)	特になし。	②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	③:ディスカッション・ディベート	④:グループワーク	⑤:プレゼンテーション	⑥:実習・フィールドワーク
チェック欄	その他の工夫										
①:PBL(課題解決型学習)	特になし。										
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)											
③:ディスカッション・ディベート											
④:グループワーク											
⑤:プレゼンテーション											
⑥:実習・フィールドワーク											
【課題のフィードバック】											
<p>毎回提出してもらう課題・リアクションペーパーに対するフィードバックを、次回の講義で行う。</p>											
【成績の評価方法】											
<p>授業参加度(25%)、課題・リアクションペーパー(25%)、中間レポート(20%)、最終レポート(30%)。 課題は「到達目標」の1と2の達成度を、中間レポートおよび最終レポートは「到達目標」の3の達成度を、それぞれ評価基準とする。</p>											
【ルーブリック評価の活用(無)】											
【履修申請上の条件】											
<p>特になし。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない。必要な資料やプリントは授業中に配布する。</p>											
【参考書】											
<p>島藺進、福嶋信吉、葛西賢太、藤原聖子編『宗教学キーワード』有斐閣、2006年 『いま宗教に向き合う』シリーズ1~4巻、岩波書店、2018年 上記以外にも授業内で適宜紹介していく。</p>											
【オープンな教育リソース】											
<p>特になし。</p>											
【担当教員の実務経験】											
<p>特になし。</p>											
【オフィスアワー】											
<p>質問などがある場合は、授業後に受け付ける。</p>											
【教員連絡先】											
<p>atokuda@g.t-junshin.ac.jp</p>											
【備考】											
<p>特になし。</p>											

授業科目名	英語III	担当教員名	増田 光				
コード	22FLG103	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
年次/期間	2～4年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① 主体的に心理を探究する姿勢を身に着け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に着ける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に着け、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」の学習内容に引き続いて、文法、語彙、発音、表現技法をバランス良く、無理なく学び、中級の英語力習得を目指す。この科目はこども文化学科の選択科目で、主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性を持って表現し、協働することができる資質を養う役割を担っている。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー
1 学生はTOEIC500点程度の英語運用能力を身につける。							① ② ③
○							
【授業計画】							
	授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	英語力測定テスト			第15回目の到達度を測る共通テストの基礎となるエントリーテストを行う。			
2	単純現在形の用法を学ぶ。現在進行形の用法を学ぶ。			予習(60分): 復習(60分):テキストの4-11ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。			
3	単純過去と過去進行形の用法を学ぶ。			テキストの12-15ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。			
4	時間、順序に関する表現を学ぶ。			テキストの16-17ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。			
5	第1回から第4回までの復習と応用練習。			テキストの18-19ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。課題4-19ページの総復習。			
6	未来を表す現在進行形の用法を学ぶ。			テキストの20-23ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。			
7	関係詞の用法を学ぶ。			テキストの24-27ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。			
8	現在完了形の用法を学ぶ。			テキストの28-31ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。			
9	something, anything, nothingの用法を学ぶ。			テキストの32-33ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。			
10	第6回から第9回までの復習と応用練習。			テキストの34-35ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。課題20-35ページの総復習。			
11	比較級と最上級の用法を学ぶ。			テキストの36-39ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。			
12	量に関する表現を学ぶ。			テキストの40-43ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。			
13	助動詞の用法を学ぶ。			テキストの44-47ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。			
14	動詞の用法の総復習。			テキストの48-51ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。課題36-51ページの総復習。			
15	共通テスト			到達度を測るために共通テストを行う。			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)							
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク							
⑤:プレゼンテーション			○				
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
課題に対するフィードバックは、次回の授業時に行う。							
【成績の評価方法】							
1 発表・課題の提出 30% 毎回授業時に口頭練習を行い、文法・語彙、内容の理解とコミュニケーションの熟達度で評価する。また、所定の範囲内の理解度を2回の小テストで評価する。							
2 共通テスト 30% 到達度を測るための共通テスト							
3 定期試験 40% テキストの内容の理解度をListening Comprehension, Reading Comprehensionの観点から評価する。							
【履修申請上の条件】							
2～4年次の選択科目です。							

【教科書】 New English File, Pre-intermediate Student's Book, Fourth Edition, Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden and Paul Seligson, Oxford University Press
【参考書】 Concise Oxford English Dictionary
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 月曜日3,4時限
【教員連絡先】 hmasuda@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

授業科目名	英語IV	担当教員名	増田 光					
コード	22FLG104	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生	
年次/期間	2～4年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① 主体的に心理を探究する姿勢を身に着け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。							
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に着ける。							
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に着け、地域社会において主体的に貢献することができる。							
【授業の概要】								
「英語III」の学習内容に引き続いて、文法、語彙、発音、表現技法をバランス良く、無理なく学び、中級の英語力習得を目指す。この科目はこども文化学科の選択科目で、主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる資質を養う役割を担っている。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー		
1 学生はTOEIC500点程度の英語運用能力を身につける。						①	②	③
○								
【授業計画】								
	授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	英語力測定テスト			第15回目の到達度を測る共通テストの基礎となるエントリーテストを行う。				
2	不定詞の用法を学ぶ。			予習(60分): 復習(60分):テキストの52-59ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。				
3	条件節の用法を学ぶ。			テキストの60-63ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。				
4	所有代名詞の用法を学ぶ。			テキストの64-65ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。				
5	第1回から第4回までの復習と応用練習。			テキストの66-67ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。課題52-65ページの総復習。				
6	仮定法の用法を学ぶ。			テキストの68-71ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。				
7	完了形の用法を学ぶ。			テキストの72-75ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。				
8	受動態の用法を学ぶ。			テキストの76-77ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。				
9	法助動詞の用法を学ぶ。			テキストの78-81ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。				
10	第6回から第9回までの復習と応用練習。			テキストの82-83ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。課題68-81ページの総復習。				
11	動詞句の用法を学ぶ。			テキストの84-87ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。				
12	否定語句の用法を学ぶ。			テキストの88-91ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。				
13	過去完了の用法を学ぶ。			テキストの92-95ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。				
14	疑問文の用法を学ぶ。			テキストの96-99ページを予習・復習する。2時間の授業外学修を要する。課題84-97ページの総復習。				
15	共通テスト			到達度を測るために共通テストを行う。				
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)								
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート								
④:グループワーク								
⑤:プレゼンテーション			○					
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
課題に対するフィードバックは、次回の授業時に行う。								
【成績の評価方法】								
1 発表・課題の提出 30% 毎回授業時に口頭練習を行い、文法・語彙、内容の理解とコミュニケーションの熟達度で評価する。また、所定の範囲内の理解度を2回の小テストで評価する。								
2 共通テスト 30% 到達度を測るための共通テスト								
3 定期試験 40% テキストの内容の理解度をListening Comprehension, Reading Comprehensionの観点から評価する。								
【履修申請上の条件】								
2～4年次の選択科目です。								

【教科書】 New English File, Pre-intermediate Student's Book, Fourth Edition, Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden and Paul Seligson, Oxford University Press
【参考書】 Concise Oxford English Dictionary
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 月曜日3,4時限
【教員連絡先】 hmasuda@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

授業科目名	キャリアセミナー	担当教員名	井上 救					
コード	22JUN110	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生	
年次/期間	2～4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① 主体的に心理を探究する姿勢を身に着け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。							
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に着ける。							
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に着け、地域社会において主体的に貢献することができる。							
【授業の概要】								
・就職活動において、より実践的に活用できる知識やスキルを身に付けることを目標とした講義である。自分にとって「よい就職・職業」とは何かを考え、就職活動が始める際のひとりの指標となる学びを進める。								
・就職活動に必要な知識やスキルの向上を目指し、履歴書やエントリーシートの書き方、筆記・面接試験対策、電話やメールのマナー、身だしなみ等について実践的に学ぶ。								
・講義全体を通して、就職活動の充実を図るとともに、社会人としていかに生きるかについても学びを深める。学生一人一人が、自身のライフプランを思い描き、その実現に向けて考え行動できる実践力を育成する								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー	
							① ② ③	
	1 就職活動において、エントリーシートの書き方、筆記試験・面接対策、電話やメールのマナー、身だしなみ等、より実践的に活用できる知識やスキルを活用できる。						○	
	2 自分にとって「よい就職・職業」とは何か、を考え説明することができる。						○	
	3 社会の一員としていかに生きるかについて、大学卒業時点でのライフプランを述べる事ができる。						○	
【授業計画】								
	授業計画				授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	進路総合ガイダンス(就職活動の全体像と自己分析)				復習(30分):配布資料を見直し、質問等は講師に随時相談する。			
2	就職情報収集				復習(30分):配布資料を見直し、質問等は講師に随時相談する。			
3	自己PR・志望動機につなげる自己分析				復習(30分):配布資料を見直し、質問等は講師に随時相談する。			
4	業界・企業研究講座				復習(30分):配布資料を見直し、質問等は講師に随時相談する。			
5	中小企業の「良い企業」とは				復習(30分):配布資料を見直し、質問等は講師に随時相談する。			
6	履歴書&エントリーシート対策				復習(30分):配布資料を見直し、質問等は講師に随時相談する。			
7	インターンシップ報告会 レポート作成の内容と方法				復習(30分):配布資料を見直し、質問等は講師に随時相談する。			
8	筆記試験対策講座(1)				予習(30分)事前課題を解き、質問事項等を明らかにする。 復習(30分):配布資料を見直す。			
9	筆記試験対策講座(2)				予習(30分)事前課題を解き、質問事項等を明らかにする。 復習(30分):配布資料を見直す。			
10	筆記試験対策講座(3)				予習(30分)事前課題を解き、質問事項等を明らかにする。 復習(30分):配布資料を見直す。			
11	筆記試験対策講座(4)				予習(30分)事前課題を解き、質問事項等を明らかにする。 復習(30分):配布資料を見直す。			
12	面接対策講座(1)				予習(30分)事前課題を解き、質問事項等を明らかにする。 復習(30分):配布資料を見直す。			
13	面接対策講座(2)(グループディスカッション編)				予習(30分)事前課題を解き、質問事項等を明らかにする。 復習(30分):配布資料を見直す。			
14	内定者活動報告会 レポートによる面談				予習(30分):自身が作成したレポートを見直す。 復習(30分):配布資料を見直し、自らの職業選択について考える。			
15	キャリアセミナー総括 半期を振り返り、授業内容を今後の生活にどのように生かしていくのか発表する。				予習(30分)事前課題を解き、質問事項等を明らかにする。 復習(30分):配布資料を見直す。			
【アクティブラーニング】				チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)					特になし			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート				○				
④:グループワーク				○				
⑤:プレゼンテーション								
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。								
【成績の評価方法】								
レポート80%、授業内での発言等授業参加度20%で総合評価する。								

<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>適宜授業内で資料を配布する。</p>
<p>【参考書】</p> <p>特になし 各自、キャリアセンター内にある図書・資料を活用する。</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>一般企業における人事担当者の経験をもとに、社会で求められる人材等について指導する。</p>
<p>【オフィスアワー】</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>sinoue@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生から4年生まで、連続して受講が可能である。 ・単位取得に関係なく、各自必要な項目のみを受講することが可能である。学生の積極的参加が望まれる。

授業科目名	読書論A	担当教員名	佐野 通夫				
コード	22LIT104	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
年次/期間	3~4年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① 主体的に心理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
ハンス・ペーター・リッター作、上田真而子訳『あのころはフリードリヒがいた』を読む。丁寧に読み進み、その上でイメージを拡充し、意見交換を大切に、「人間とは」「家族とは」「社会とは」等複合的に考えていきたい。 内容により他の参考文献・資料等も活用する。							
授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
	1 社会と個人の関係について考える。						○
	2 こどもからおとなまでの人間のこころの動きを視野を広く持ちながら考えることができる。						○
	3 自他共に尊重しあえる手掛かりを得る。						○
【授業計画】							
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	オリエンテーション:授業の概要と履修上の留意点について検討する。	予習:シラバスに目を通す(10分)。復習:9~29ページまでを読み、考える(170分)。					
2	9~29ページを読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
3	29~48ページを読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
4	49~73ページを読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
5	74~94ページを読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
6	95~114ページを読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
7	115~139ページを読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
8	140~166ページを読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
9	167~187ページを読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
10	188~204ページを読み意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
11	205~219ページを読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
12	220~230ページを読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
13	関連する映画(前半)を見る。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
14	関連する映画(後半)を見る。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
15	本書全体について、意見交換をする。	復習:本書及び参考資料等を通して考えたことをレポートにまとめる。1200字以上、書式自由(180分)。					
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)		○	特になし				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート		○					
④:グループワーク							
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
授業時の意見交換等により、様々な考え方があることを、専門的知見や日常の出来事等を通してみていく。							
【成績の評価方法】							
授業時の取り組みや意見交換等50%、レポート50%の総合評価とする。							
【履修申請上の条件】							
2年次以降の選択科目であり、資格・免許に関係なく履修できる。							

【教科書】 ハンス・ペーター・リヒター作、上田真而子訳『あのころはフリードリヒがいた』岩波書店2000
【参考書】 適宜プリントを配布する
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 ・水曜 4限
【教員連絡先】 msano@t-junshin.ac.jp
【備考】 保育・教職においては広い視野と自分で考えていく経験が大切になります。 また、保育・教職如何に拘わらず、こころというものに関心が深い方、人との関係を大事にしたい方は受講出来ますので、文献を参考にゆっくり考えていきましょう。

授業科目名	読書論B	担当教員名	佐野 通夫				
コード	22LIT105	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
年次/期間	2～4年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① 主体的に心理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
高史明『生きることの意味—ある少年のおいたち』を読む。丁寧に読み進み、その上でイメージを拡充し、意見交換を大切に、「人間とは」「家族とは」「社会とは」等複合的に考えていきたい。内容により他の参考文献・資料等も活用する。							
授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
	1 社会と個人の関係について考える。						○
	2 こどもからおとなまでの人間のこころの動きを視野を広く持ちながら考えることができる。						○
	3 自他共に尊重しあえる手掛かりを得る。						○
【授業計画】							
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	オリエンテーション:授業の概要と履修上の留意点について検討する。	予習:シラバスに目を通す(10分)。復習:9～29ページまでを読み、考える(170分)。					
2	「はじめに」を読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
3	「朝鮮と日本のかかわり」を読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
4	「父と兄に見守られて」を読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
5	「はじめての外の世界」を読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
6	「死のうとする父」を読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
7	「朝鮮人という意識へのめざめ」を読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
8	「阪井先生との出会い」を読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
9	「戦争と死の決意」を読み、意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
10	「戦後の歩み」を読み意見交換をする。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
11	関連する映画(前半)を見る。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
12	関連する映画(後半)を見る。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
13	関連する映画(前半)を見る。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
14	関連する映画(後半)を見る。	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)					
15	本書全体について、意見交換をする。	復習:本書及び参考資料等を通して考えたことをレポートにまとめる。1200字以上、書式自由(180分)。					
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)		○	特になし				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート		○					
④:グループワーク							
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
授業時の意見交換等により、様々な考え方があることを、専門的知見や日常の出来事等を通してみていく。							
【成績の評価方法】							
授業時の取り組みや意見交換等50%、レポート50%の総合評価とする。							
【履修申請上の条件】							
2年次以降の選択科目であり、資格・免許に関係なく履修できる。							

<p>【教科書】</p> <p>高史明『生きることの意味—ある少年のおいたち』ちくま文庫1986</p>
<p>【参考書】</p> <p>適宜プリントを配布する</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>特になし</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>・月曜 4限</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>msano@t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>保育・教職においては広い視野と自分で考えていく経験が大切になります。 また、保育・教職如何に拘わらず、こころというものに関心が深い方、人との関係を大事にしたい方は受講出来ますので、文献を参考にゆっくり考えていきましょう。</p>

授業科目名	児童文学論	担当教員名	大竹 聖美				
コード	22CHI203	区分 (必修・選択)	必修 ○	選択	幼稚園教職課程 ○	保育士課程 ○	多文化共生
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
児童文学を広くとらえ、子どもの本全般について取り扱う。特に、科学の絵本や写真絵本にある文学性に注目したい。保育士、幼稚園教諭として、子どもたちに向けてより良い児童文学世界(昔話・世界名作童話・絵本・詩)の橋渡しができるようになることを目標とする。狭義の「児童文学」にとどまらず、神話や昔話、赤ちゃん絵本の詩と文学から始まって、自然・宇宙・人間・社会との初めての出会いをテーマとする科学の絵本の文学性まで幅広く子どものための文学を考える。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
1 児童文学を大きくとらえ、そのジャンルと特性について説明できる。							○
2 代表的な作家と作品について説明できる。							○
3 多くの児童文学作品(昔話・名作童話・絵本・ノンフィクション)に触れながら、子どもの成長・人生と文学について述べることができる。							○
【授業計画】							
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	絵本と児童文学の世界	*各週の教室外学修内容と取り組みの目安時間を以下に記載します。 *読書課題も合わせて各自で読み進め「読書記録」を作成して下さい。					
2	【赤ちゃんと言学】(1)——0. 1. 2歳の絵本	【読書課題】(2時間) ・福音館書店「こどものとも0.1.2」シリーズ ・日中韓平和絵本シリーズ(童心社)					
3	【赤ちゃんと言学】(2)——言葉・詩・童話	【読書課題】(2時間) ・まど・みちお「ぞうさん」「やぎさんゆうびん」「ふしぎなポケット」「一年生になったら」 ・谷川俊太郎「ことばあそび」					
4	【3歳児と言学】——年少さんの絵本・絵童話・童話	【読書課題】(2時間) ・福音館書店「こどものとも年少版」シリーズ ・芥川龍之介「くもの糸」					
5	【4歳児と言学】——年中さんの絵本・幼年文学	【読書課題】(2時間) ・福音館書店「こどものとも年中向き」シリーズ ・有島武郎「一房の葡萄」					
6	【5歳児と言学】——年長さんの絵本・昔話・物語	【読書課題】(2時間) ・福音館書店「こどものとも」シリーズ ・宮沢賢治「どんぐりと山猫」「セロ弾きのゴーシュ」「注文の多い料理店」					
7	【科学と言学】(1)——はじめてのかがかくの絵本・ノンフィクション・認知	【読書課題】(2時間) ・福音館書店「ちいさなかがかのとも」シリーズ ・新美南吉「ごんぎつね」「手袋を買いに」					
8	【科学と言学】(2)——自然科学の世界	【読書課題】(2時間) ・福音館書店「かがくのとも傑作集 ときどき・しぜん」シリーズ ・浜田広助「泣いた赤おに」					
9	【科学と言学】(3)——社会科学の世界	【読書課題】(2時間) ・福音館書店「かがくのとも傑作集 わくわく・にんげん」シリーズ ・壺井栄「二十四の瞳」					
10	【科学と言学】(4)——人文科学の世界	【読書課題】(2時間) ・福音館書店「かがくのとも傑作集 わいわい・あそび」シリーズ ・灰谷健次郎「兔の眼」					
11	【世界の名作児童文学】(1)	【読書課題】(2時間) ・インソップ・グリム・アンデルセン ・戦争と平和に関する絵本(世界)					
12	【世界の名作児童文学】(2)	【読書課題】(2時間) ・バーネット「小公女」「小公子」 ・戦争と平和に関する絵本(日本)					
13	【日本の児童文学】(1)——近代児童文学	【読書課題】(2時間) ・巖谷小波「黄金丸」、小川未明「赤いろそくと人魚」 ・戦争と平和に関する絵本紹介カードの制作 *国立国際子ども図書館デジタルコンテンツを見る 「日本の子どもの文学」 https://www.kodomo.go.jp/jcl/					
14	【日本の児童文学】(2)——幼年童話	【読書課題】(2時間) ・寺村輝夫「おしゃべりなたまごやき」、松谷みよ子「ちいさいモモちゃん」、古田足日「おいしいのぼうけん」					
15	第15回:まとめ——年齢/季節/フィクションとノンフィクション/抽象と写真/作家の個性/翻訳絵本と多文化	【読書課題】(2時間) ・今西祐行「一つの花」、あまきみこ「車の色は空の色」 ・年齢別絵本紹介パネルの提出 ・戦争と平和に関する絵本紹介カードの提出					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
<p>・予習で準備した資料、復習で作成した報告書・レポートは次回の授業で持参すること。 ・授業では、それらの「資料」「シート」「レポート」などの準備物提出物を活用し、プレゼンとフィードバックを行う。</p>		
【成績の評価方法】		
授業参加度(課題への取り組み)30%、発表30%、提出物40%		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
<p>文部科学省『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説(平成30年3月)』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館</p>		
【参考書】		
<p>講座 日本児童文学』1～8巻, 猪熊葉子ほか編, 明治書院 『日本児童文学大系』1～30巻, 桑原三郎ほか編, ほるぷ出版 『日本児童文学大事典』大阪国際児童文学館, 大日本図書 『児童文学事典』日本児童文学学会, 東京書籍 『図説 子どもの本・翻訳の歩み事典』子どもの本・翻訳の歩み研究会編, 柏書房 『はじめて学ぶ日本の絵本史1ー絵入本から画帖・絵ばなしまで』鳥越信編, ミネルヴァ書房 『はじめて学ぶ日本の絵本史2 15年戦争下の絵本』鳥越信編, ミネルヴァ書房 『はじめて学ぶ日本の絵本史3 戦後絵本の歩みと展望』鳥越信編, ミネルヴァ書房 『はじめて学ぶ日本児童文学史』鳥越信編, ミネルヴァ書房 桑原三郎・千葉俊二(編)『日本児童文学名作集』上・下(岩波文庫)</p>		
【オープンな教育リソース】		
<p>* 国立国際子ども図書館デジタルコンテンツを利用した学修 「日本の子どもの文学」https://www.kodomo.go.jp/jcl/ * 千葉大学アカデミック・リンク・センター 『児童文学事典』 https://alc.chiba-u.jp/cl/index.html</p>		
【担当教員の実務経験】		
特になし		
【オフィスアワー】		
月曜:昼休み・4限、金曜:昼休み・4限		
【教員連絡先】		
kootake@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
特になし		

授業科目名	こどもと言葉	担当教員名	大竹 聖美				
コード	22EDU203	区分 (必修・選択)	必修 ○	選択	幼稚園教職課程 ○	保育士課程 ○	多文化共生
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
幼稚園教育要領に示された領域「言葉」を指導するうえで基盤となる「言葉」の意義、幼児の言葉の獲得など専門的内容を理解し、実践するうえでの絵本や紙芝居などの教材や実践に関する知識を身につける。多文化家族の言語状況への理解、小学校国語教育との接続、聞く言葉から読む言葉に向けた文字に対する興味等の促し等、多様な言葉の支援を学ぶ。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
1 言葉の持つ意義と機能を理解する。							○
2 乳幼児期の言葉の発達過程について説明できる。							○
3 乳幼児の発達段階に応じた適切なわらべ歌や童謡、絵本やお話しを選ぶことができる。							○
4 こどもの言葉を育て、言葉の感覚を豊かにする実践について説明できる。							○
【授業計画】							
	授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	こどもの成長と言葉——言葉の意義と機能			【課題】(1時間) ・0歳児の言葉ノートを作る			
2	発達段階と言葉①——誕生～2歳の言葉①——いないいないばあの魅力/愛着と言葉			【課題】(1時間) ・1歳児の言葉ノートを作る ・web上に公開された資料を読む<保育士クラブ:【1,2,3歳年齢別】保育園の室内遊び13選! 運動・ゲーム遊びや集団遊び、手遊び、製作遊び> https://www.hoikujoyouhou.com/hoiku_club/2620			
3	発達段階と言葉②——3歳～5歳の言葉②——母子分離/社会性のめげ			【課題】(1時間) ・2歳児の言葉ノートを作る			
4	言葉と感覚①——オノマトペ・リズム・言葉遊び			【課題】(1時間) ・3歳児の言葉ノートを作る			
5	言葉と感覚②——あいさつ・コミュニケーションと言葉			【課題】(1時間) ・4歳児の言葉ノートを作る ・国立国際子ども図書館「ヴィクトリア朝の子どもの本」を視聴する https://www.kodomo.go.jp/ingram/			
6	言葉と想像①——洋服を着た動物たち/どうぶつ村の物語			【課題】(1時間) ・5歳児の言葉ノートを作る ・国立国際子ども図書館「絵本ギャラリー」を視聴する https://www.kodomo.go.jp/gallery/			
7	言葉と想像②——昔話/3回のくりかえし/行って帰ってくる物語/冒険と成長			【課題】(1時間) ・多様な言葉、多文化支援、言葉への興味に関する言葉ノートを作る ・国立国際子ども図書館「日本の子どもの文学」を視聴する https://www.kodomo.go.jp/jcl/			
8	多様な言葉の支援——多文化家族と言語・文字への興味・小学校国語教育との接続			【課題】(1時間) ・言葉ノートの仕上げと提出 ・国立国際子ども図書館の電子ギャラリー「日本発☆子どもの本、海を渡る」を視聴する。 https://www.kodomo.go.jp/anv10th/index.html			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			○	特になし			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○				
③:ディスカッション・ディベート			○				
④:グループワーク			○				
⑤:プレゼンテーション			○				
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
・予習で準備した資料、復習で作成した報告書・レポートは次回の授業で持参すること。 ・授業では、それらの「資料」「シート」「レポート」などの準備物提出物を活用し、プレゼンとフィードバックを行う。							
【成績の評価方法】							
授業参加度(課題への取り組み)30%、発表30%、提出物40%							

<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説〈平成30年3月〉』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館 『デザインする保育内容指導法「言葉」』教育情報出版</p>
<p>【参考書】</p> <p>福音館書店「こどものとも0・1・2」、「こどものとも年少版」、「こどものとも年中向き」、「こどものとも」、「ちいさなかがくのとも」「かがくのとも」</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>・国立国際子ども図書館の電子ギャラリーの利用 「ヴィクトリア朝の子どもの本」を視聴するhttps://www.kodomo.go.jp/ingram/ 「日本の子どもの文学」https://www.kodomo.go.jp/jcl/ 「絵本ギャラリー」https://www.kodomo.go.jp/gallery/ 「日本発☆子どもの本、海を渡る」https://www.kodomo.go.jp/anv10th/index.html</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>特になし</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>月曜: 昼休み・4限、金曜: 昼休み・4限</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>kootake@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>* 教育実習(幼Ⅱ)の先修要件科目である。</p>

授業科目名	こどもと人間関係	担当教員名	小泉 左江子				
コード	22EDU204	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○		○		
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 主体的に心理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
◎	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
この科目は、ディプロマポリシーに定められた「多文化共生社会の担い手として、子ども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける」ための講義科目である。現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容についての理解を深める。他者との関わりや集団との関係の中で、幼児期の人と関わる力が育つことを理解し、実際の保育現場での指導につながる実践力を習得する。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
1 幼稚園教育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容そして全体構造を説明できる。							○
2 領域「人間関係」を踏まえ、自立心を育て、人地関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を説明できる。							○
3 幼稚園教育要領における評価の考え方を説明できる。							○
4 集団生活を通してさまざまな人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等のつながりを説明できる。							○
【授業計画】							
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	現代社会と幼児の人間関係:家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるもの	予習(30分):子どもの人間関係に関するニュースを集める 復習(30分):ノート、資料を見直し、関心のあるところを図書館で調べる					
2	3歳未満児における人間関係の発達:身近な大人との関係を基盤として育つ子ども	予習(30分):幼稚園教育要領 1章総則 2章内容及びねらいをよむ 復習(30分):ノート、資料を見直し、関心のあるところを図書館で調べる					
3	幼児期の遊びや生活の中でみられる人と関わる力の育ち—関係性の育ちや子と集団の育ち	予習(30分):ポウルビーの愛着理論について復習する 復習(40分):3歳未満児の人間関係について感想と課題をまとめる。					
4	乳幼児期の自立心—「イヤ」「ジブンデ」から始まる自立	予習(30分):集団保育での自分の記憶する出来事は何か、思い出す 復習(30分):ノート、資料を見直し、関心のあるところを図書館で調べる					
5	乳幼児期の自立心の育ち—協同的(目標を共有して協力)な活動をやり遂げる力の育ち	予習(30分):「自立性」「協同性」とは何か、考える 復習(30分):ノート、資料を見直し、関心のあるところを図書館で調べる					
6	道徳性・規範意識の芽生えと育ち:他者との葛藤経験からきまりの必要性を理解し、気持ちを調整し折り合いをつける力の育ち	予習(30分):けんか・いざこざの原因と意義について調べる 復習(40分): 幼児期の人間関係について、感想と課題をまとめる					
7	乳幼児期の人間関係の広がり:家庭～園～地域へと広がる人間関係	予習(30分):「生態学的システム」理論について調べる 復習(30分):異年齢児との関わり・地域の人との関わりの体験を述べよ					
8	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係—乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりを理解する	予習(30分):小1プロブレムについて調べる 復習(30分):保育者の役割について考察する					
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)		○	DVD視聴				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート		○					
④:グループワーク		○					
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
課題レポートに対するフィードバックは、後日講義の中で行う							
【成績の評価方法】							
レポート50%、授業参加度及び提出物50%で、総合評価する							
【履修申請上の条件】							
関連科目は「保育内容演習・人間関係」。日ごろから子どもの行動に関心を持ち、観察をすること							
【教科書】							
相良順子・宮本友弘編著「保育の現場で役立つ心理学」アイ・ケイコーポレーション 「幼稚園教育要領」(平成29年3月 文部科学省)「保育所保育指針」(平成29年3月 厚生労働省)							
【参考書】							
相良順子編著「保育の心理学」(ナカニシヤ出版) 咲間まり子編著「保育内容『人間関係』」(みらい)							
【オープンな教育リソース】							
特になし							
【担当教員の実務経験】							
保育士の経験をもとに、乳幼児期の子どもの発達とその人間関係の重要性について、理論と実践の両面から講義する							
【オフィスアワー】							
月・水曜昼休みと4限以降							
【教員連絡先】							
s_koizumi@g.t-junshin.ac.jp							
【備考】							

授業科目名	こどもと環境	担当教員名	岡部 廣				
コード	22EDU205	区分 (必修・選択)	必修 ○	選択	幼稚園教職課程 ○	保育士課程	多文化共生
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
◎	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
◎	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
この科目は、学位授与の方針の特に「保育・教育に関する豊かな専門知識と技能を修得する」ために寄与している。幼児を取り巻く諸環境として、自然環境、物的環境、社会的・文化的環境があり、幼児がこれらの環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを幼児自身の生活に取り入れていく力を養っていくことが、幼児が将来の人生を切り拓いていくことにつながっていくことを授業を通じて理解できるようにするため、「環境」領域のねらい及び内容と、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連付けながら、実践的に理解することができるよう、実例に基づき実物にも触れることができる授業を実施する。また実験的な活動、実際に観察する活動、グループ討議などを取り入れ、実感を伴う理解につながる授業を実施する。加えて、幼児の活動に対する望ましい評価の在り方、小学校への接続の在り方、幼稚園教諭と小学校教諭の連携の在り方について理解することができる授業を実施する。保育者として、幼児が気付いたり興味を抱いたりした疑問や関心を大切に、幼児なりに学びを深めたり高めたりすることを支援できる知識や感覚が身に付く授業を展開していく。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
1 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、「環境」領域のねらい及び内容を理解する							○
2 5領域の全体構造における「環境」領域の意義を理解している							○
3 「環境」領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と幼児の発達に即した支援の在り方、環境構成の工夫、安全管理などの留意点を理解している。							○
4 幼稚園教育における評価の全体的な考え方及び「環境」領域における評価の考え方を理解している。							○
5 小学校の教科等とのつながり、小学校との交流や連携の在り方を理解している							○
【授業計画】							
	授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	幼児を取り巻く諸環境と環境に関わる意義			予習(60分):次時の内容について事前に調べておく 復習(60分):本時の内容についてノート整理を行う			
2	幼児と自然との関わり① 動植物の飼育栽培			予習(60分):次時の内容について事前に調べておく 復習(60分):本時の内容についてノート整理を行う			
3	幼児と数量・図形との関わり			予習(60分):次時の内容について事前に調べておく 復習(60分):本時の内容についてノート整理を行う			
4	幼児と自然との関わり② 自然の物を使った遊びや造形、季節感の芽生え			予習(60分):次時の内容について事前に調べておく 復習(60分):本時の内容についてノート整理を行う			
5	幼児と様々な物との関わり			予習(60分):次時の内容について事前に調べておく 復習(60分):本時の内容についてノート整理を行う			
6	幼児と情報・施設との関わり			予習(60分):次時の内容について事前に調べておく 復習(60分):本時の内容についてノート整理を行う			
7	幼児と標識や文字との関わり			予習(60分):次時の内容について事前に調べておく 復習(60分):本時の内容についてノート整理を行う			
8	幼児と文化や伝統との関わり			予習(120分):これまでの内容について整理し定期テストに備えておく 復習(60分):本時の内容についてノート整理を行う			
【アクティブラーニング】				チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)					自然環境等、キャンパス内の環境を有効に活用する。新型コロナウイルスの感染拡大防止の対応を継続する。		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート				○			
④:グループワーク				○			
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク				○			
【課題のフィードバック】							
予習課題を毎回の発表等を通してフィードバックする							
【成績の評価方法】							
授業参加度(課題への取組)30%							
授業の到達目標の到達度(ペーパーテスト)70%							
【履修申請上の条件】							
幼稚園教職課程登録者であること							
【教科書】							
文部科学省「幼稚園教育要領解説」 厚生労働省「保育所保育指針解説書」 内閣府文部科学省厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」							

【参考書】 咲間まり子・増田まゆみ「保育者のための「生活」」2015(大学図書出版) 平野恵理子「にっぽんの歳時記ずかん」2012(幻灯舎エデュケーション) 出原大「毎日の保育で豊かな自然体験！自然:植物遊び一年中」2016(学研) その他、そのつど授業内容に即して紹介する
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 小学校教員、小学校校長、教育委員会指導主事
【オフィスアワー】 特になし
【教員連絡先】 hokabe@t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

授業科目名	あそび文化	担当教員名	田尻 真理子						
コード	22CHI301	区分 (必修・選択)	必修 ○	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生		
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。								
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。								
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。								
【授業の概要】									
「あそび」についての多様な学問的アプローチを学び、「あそび」についての考え方が、時代、地域、民族によって異なることを知るとともに、「あそび」の根幹にある「イメージの力」を涵養する「あそび」を折に触れて行う。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー			
						①	②	③	
1	一般的な「あそび」理解以外に、「あそび」には多様な側面があることが分かる。							○	
2	「あそび」について、多様なアプローチの仕方、理解の仕方があることを知る。							○	
3	「あそび」を広い視野からとらえ、これが人間の生の中心にある、重要なものであることを理解できるようになる。							○	
4	「あそび」の根幹になるイメージの力を理解し、これを育てることができるようになる。							○	
【授業計画】									
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)							
1	導入:授業の概要、進め方、B6カード作成・利用方法、レポート作成時の注意方法	予習(20分):シラバスをよく読んで、授業の概要を把握してくる。 復習(30分):B6カードに今回の授業のキーワードを書く。							
2	あそびと想像力	予習(60分): Opacであそびに関するリファレンスブックを検索し、書誌カードに記載すること(一件につき2枚作成、うち1枚を提出)							
3	『南極料理人』と「あそび」	復習(60分):第3回配布資料空欄記入							
4	なにがあそびか	復習(60分):第4回配布資料(分類シート)空欄記入							
5	あそぶのはだれ1:あそぶのは人か神か;神事と「あそび」	予習(60分):天岩戸、「天照大神」、「神楽」についてキーワードカード作成(2, 4)							
6	あそぶのはだれ2:神があそぶ	予習(60分): 荘子(2)、『荘子』「逍遙遊編」冒頭を読んで情景を描く							
7	あそびを語る言葉1:拮抗するあそびの定義	予習(60分):プリント(遊びの定義)をまとめる							
8	あそびを語る言葉2:ホイジンガ	予習(60分):ヨハネス・ホイジンガ(2, 3)							
9	あそびを語る言葉3:カイヨワ	予習(90分):ロジェ・カイヨワ(2, 3)、ダダ、シュルレアリスム(2, 3)、無意識(2, 3, 7)							
10	描かれたあそび:ブリューゲル	予習(90分):ピーター・ブリューゲル(2, 5)、画集でブリューゲルの代表的作品を見て特徴を捉える							
11	こどもの発見:アリエス	予習(60分):フィリップ・アリエス							
12	日本のあそび:日本の中世	予習(60分):『梁塵秘抄』(2)							
13	日本のこども観	予習(90分):『鳥獣人物戯画』、「伴大納言絵巻」(2, 5)、『日本の絵巻シリーズ』で前期作品を見て特徴を捉える							
14	「あそび」の社会学:高度経済成長とあそびの変容	予習(60分):レジャー(1, 2)、高度経済成長(8)、神武景気、岩戸景気、いざなぎ景気(8)							
15	あそびの本質としての「越境」	予習(90分):ヴァルター・ベンヤミン(3)、フラヌールについてのプリントを読み要点を把握する							
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫						
①:PBL(課題解決型学習)		○	特になし						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○							
③:ディスカッション・ディベート		○							
④:グループワーク		○							
⑤:プレゼンテーション		○							
⑥:実習・フィールドワーク									
【課題のフィードバック】									
① 授業内でフィードバックを全体に向けて行う。									
② キーワードカードに添削後返却(個別にフィードバック)。									

【成績の評価方法】 期末試験(50%) 授業参加態度の積極性(含むキーワードカード作成)(50%)
【履修申請上の条件】 特になし
【教科書】 毎回ハンドアウトを配布する
【参考書】 1『あそびの大事典』、2『百科事典』、3『哲学辞典』、4『神道事典』、5『美術辞典』、6『心理学事典』、7『現代精神医学事典』、 8『Imidas』、『知恵蔵』 授業外学修課題の後ろの番号は上の参考書の番号に相応する。対応する資料を用いて学修のこと。
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】
【教員連悪先】 mtajiri@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 社会情勢、事件等で授業内容に変更が生じる場合がある。

授業科目名	子ども家庭福祉	担当教員名	朴 美京					
コード	22NUR402	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生	
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
①	主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。							
②	多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。							
③	こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。							
【授業の概要】								
本科目ではこどもを取り巻く諸状況や関連機関・制度、課題を様々な側面から理解することを目的としている。近年こどもを取り巻く社会環境は大きく変化している。授業を通して、虐待、貧困、核家族化による影響、障がいのあるこどもなど、様々なこどもを取り巻く社会問題を多様な側面から理解することで、物事を多角的にとらえられる様、視野を広げ認識を深めることと、さらにそれぞれの課題について学生自身で考え、考察できるようになることも目的としている。授業では基本的にパワーポイントを使用する講義形式で進めるが、学生の反応や様子を見ながら取り上げる題材や事例をその都度選択する予定である。同様に学生の反応や授業の進度によって順番や内容を一部変更する場合がある。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー		
						①	②	③
1 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について説明することができる。								○
2 こどもの人権擁護とその課題について説明することができる。								○
3 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について課題を指摘することができる。								○
4 子ども家庭福祉の現状と課題について指摘することができる。								○
5 子ども家庭福祉の動向と展望について、日本と諸外国を対比し、課題を指摘することができる。								○
【授業計画】								
授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	オリエンテーション:子ども家庭福祉とは?		予習(90分):事前に配布資料を読む 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					
2	子どもを取り巻く問題とその対策①少子化の現状と原因		予習(90分):事前に子どもを取り巻く問題について調べておく。 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					
3	子どもを取り巻く問題とその対策②少子化の経緯と対策		予習(90分):事前に配布資料を読み、子どもを取り巻く対策について調べ、まとめておく。 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					
4	子ども家庭福祉の歴史の変遷について		予習(90分):事前に配布資料を読み、子ども家庭福祉の発展について調べておく。 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					
5	こどもの権利と権利擁護:児童の権利に関する条約		予習(90分):事前に配布資料を読み、こどもの権利や人権とは何かを調べておく。 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					
6	子ども家庭福祉行政の仕組みについて		予習(90分):事前に配布資料を読み、子ども家庭福祉関連の法律について調べておく。 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					
7	こども虐待・DVとその防止について		予習(90分):事前に配布資料を読み、子ども虐待の問題について調べておく。 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					
8	子ども家庭福祉にかかわる機関と施設の関係		予習(90分):事前に配布資料を読む 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					
9	子ども家庭福祉の専門職・実施者		予習(90分):事前に配布資料を読む 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					
10	障がいのあるこども等、多様な保育ニーズについて		予習(90分):事前に配布資料を読む 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					
11	こどもの貧困について		予習(90分):事前に配布資料を読む 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					
12	少年の非行への対応について		予習(90分):事前に配布資料を読む 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					
13	こどもの健全育成とは何か		予習(90分):事前に配布資料を読む 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					
14	諸外国の動向について		予習(90分):事前に配布資料を読む 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					
15	子ども家庭福祉の動向と展望		予習(90分):事前に配布資料を読む 復習(90分):授業で取り上げた参考文献を読み、論点を整理し、課題について自分自身で考察する。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		パワーポイントを用いて授業を行う。レスポンスシートを配布し、ディスカッションを行う。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
レスポンスシートをもとに、次回授業時にフィードバックを行う。		
【成績の評価方法】		
期末テスト50%、授業内課題30%、授業への取り組み・発表20%		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
「子どもと家庭の福祉を学ぶ<<改訂版>>」 松本園子・堀口美智子・森和子著 ななみ書房		
【参考書】		
授業時に適宜掲示します。		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
(1)実務期間 2000年9月～2003年6月 (2)所属機関 砂町友愛園児童養護施設 (3)実務内容 児童指導員として、2歳半から18歳までの親元を離れて施設で暮らす子どもに対して、生活全般を支援する。 自立して生活を送るためにサポートをし、学校や児童相談所など関係機関との連絡調整や、保護者との面接、自立支援計画作成などを担当した。		
【オフィスアワー】		
授業後に行う		
【教員連絡先】		
park.mikyung@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
授業中にスマホ等、授業に関係ないものを無断で使用した場合、授業からの退席を求めます。また繰り返し行った場合、単位を不可とする場合もあります。 進行具体等を考慮し、授業内容を一部入れ替え、変更する場合があります。		

授業科目名	保育内容演習・健康		担当教員名	滝澤 宣頼					
コード	22NUR405		区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生	
年次/期間	2年次/後期・集中		単位/時間数/形態	2単位/30時間/演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。								
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。								
◎	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。								
【授業の概要】	本授業では、集団保育現場及び家庭における健康管理・健康指導の重要性を理解し、保育者として必要な知識と保育方法について探求する。授業の前段においては、基本原則及び指導方法論を概説し、領域「健康」に関する専門的事項を習得することを目的とする。その上で、授業の後段では、模擬保育による指導力向上及び安全管理能力を身に付ける。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー		
							①	②	③
1	3法令に示されている領域「健康」のねらい及び内容について理解し、説明ができる。								○
2	フィールドワークを通して、子どもの遊び及び食生活を観察し、分析することができる。								○
3	発達段階に応じた、ヘルスプロモーションをデザインすることができる。								○
4	子どもの身体活動に役立つICTの活用方法を理解し、使用することができる。								○
5	指導案の作成及び模擬保育の実践を通して、振り返りを行い修正することができる。								○
【授業計画】									
	授業計画				授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	オリエンテーション及び健康の意義				予習:シラバスを一読する(30分) 復習:健康の意義についてのレポート【課題】(60分)				
2	領域「健康」のねらいと内容				予習:3法令の領域「健康」該当箇所を一読する(60分) 復習:領域「健康」の内容についてのレポート【課題】(60分)				
3	子どもの心身の成長				予習:事前配布資料を一読する(60分) 復習:授業内配布資料(子どもの健康の諸問題)についてまとめる(60分)				
4	子どもの運動機能の発達				予習:事前配布資料を一読する(60分) 復習:授業内配布資料(子どもの運動機能の発達)についてまとめる(60分)				
5	運動能力を高める遊び				予習:「運動能力を高める遊びについて」の発表の準備をする(60分) 復習:発表(運動能力を高める遊び)後の振り返りをする(60分)				
6	子どもの運動あそびの実態①				予習:公園にて子どもの運動あそびを観察する(90分) 復習:「子どもの運動あそび」を分析する(60分)				
7	子どもの運動あそびの実態②				予習:「子どもの運動あそび」についての発表の準備をする(60分) 復習:「子どもの運動あそび」についてのレポート【課題】(60分)				
8	事故防止と安全管理の実際				予習:事前配布資料を一読する(60分) 復習:授業内配布資料(事故防止と安全管理の実際)についてまとめる(60分)				
9	基本的な生活習慣の自立とその指導				予習:事前配布資料を一読する(60分) 復習:授業内配布資料(基本的な生活習慣の自立とその指導)についてまとめる(60分)				
10	食育活動における健康指導①				予習:フードコートにて子どもの食生活を観察する(90分) 復習:「子どもの食生活」について分析する(60分)				
11	食育活動における健康指導②				予習:「子どもの食生活」について発表の準備をする(60分) 復習:「子どもの食生活」についてのレポート【課題】(60分)				
12	子どもの病気とアレルギー対応				予習:事前配布資料を一読する(60分) 復習:授業内配布資料(子どもの病気とアレルギー対応)についてまとめる(60分)				
13	領域「健康」の計画と評価				予習:事前配布資料を一読する(60分) 復習:模擬授業の指導案についてグループワークを実施する(60分)				
14	模擬保育①				予習:模擬保育についてグループワークを実施する(60分) 復習:模擬保育の振り返り(60分)				
15	模擬保育②				予習:模擬保育についてグループワークを実施する(60分) 復習:模擬保育の振り返り(60分)				
【アクティブラーニング】	チェック欄			その他の工夫					
①:PBL(課題解決型学習)				DVD視聴					
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)				パワーポイントを用いたプレゼンテーション					
③:ディスカッション・ディベート	○			子どもの運動あそびに活用できるスマートフォンの利用法					
④:グループワーク	○								
⑤:プレゼンテーション	○								
⑥:実習・フィールドワーク	○								
【課題のフィードバック】	レポート等に関するフィードバックは、コメントを入れて返却する								
【成績の評価方法】	課題への取り組み30%、発表30%、定期試験40%								

<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>授業中に指定する</p>
<p>【参考書】</p> <p>平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本> (チャイルド社)</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>文部科学省 幼児期運動指針ガイドブック https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>小学校教諭の経験をもとに、就学までに育ってほしい学びの姿や保育者の心構え、園での取り組み方について、理論と実践を合わせて指導する</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>特になし</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>ntakizawa@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>特になし</p>

授業科目名	保育内容演習・人間関係		担当教員名	小泉 左江子					
コード	22NUR406	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生		
年次/期間	2年次/前期		単位/時間数/形態	2単位/30時間/演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
◎	① 主体的に心理を探究する姿勢を身に着け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。								
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に着ける。								
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に着け、地域社会において主体的に貢献することができる。								
【授業の概要】									
この科目は、ディプロマポリシーに定められた「保育・教育の高度な知識と技能」を習得するための演習科目である。幼稚園教育要領にかかげられている「人間関係」の領域について理解し、保育者として「子どもの人間関係」に関する専門的知識と技能を身に付ける。保育教材研究として、子どもの人間関係を育むような事例を検討し、自身の子どもの理解を深め、言葉かけ等の実践につなげる。また模擬保育を通してさまざまな場面に応じた対応や働き掛けを身に付けたり、保育教材や情報機器を活用する。また、指導上の留意点と幼稚園教育における評価の考え方を理解する。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー		
							①	②	③
1 幼稚園教育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容、そして全体構造について説明できる。									○
2 幼児同士・幼児と保育者における人との関わり方を身につける援助について説明できる。									○
3 幼稚園教育における評価の考え方を説明できる。									○
4 習得した理論や知識の理解を深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を身につける。									○
【授業計画】									
	授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ			予習(30分):幼稚園教育要領の領域「人間関係」を読む 復習(30分):領域「人間関係」について説明する					
2	「人間関係」の発達:0歳児の人との関わりを理解する			予習(30分):「保育の現場で役立つ心理学」1章2-1を読む 復習(30分):「考えてみよう」の課題について自分の考えを書く					
3	「人間関係」の発達:1歳児の人との関わりを理解する			予習(30分):「保育の現場で役立つ心理学」1章2-2.2-3を読む 復習(30分):「考えてみよう」の課題について自分の考えを書く					
4	「人間関係」の発達:2歳児の人との関わりを理解する			予習(30分):「保育の現場で役立つ心理学」2章 § 1-1~3を読む 復習(30分):「考えてみよう」の課題について自分の考えを書く					
5	「人間関係」の発達:3歳児の人との関わりを理解する			予習(30分):「保育の現場で役立つ心理学」2章 § 2-4.2-5を読む 復習(30分):「考えてみよう」の課題について自分の考えを書く					
6	「人間関係」の発達:4歳児の人との関わりを理解する			予習(30分):「保育の現場で役立つ心理学」3章 § 2-1~3を読む 復習(30分):「考えてみよう」の課題について自分の考えを書く					
7	「人間関係」の発達:5歳児の人との関わりを理解する			予習(30分):「保育の現場で役立つ心理学」3章 § 2-4.2-5を読む 復習(31分):「考えてみよう」の課題について自分の考えを書く					
8	気になる子どもとの関わりを理解する			予習(30分):気になる子どもとはどのような子どもか? 復習(30分):事例を読んで、子どもの気持ちについて考察する。					
9	特別な支援を必要とする子どもとの関わりを理解する			予習(30分):特別な配慮を必要とする子どもとはどのような子どもか? 復習(31分):事例を読んで、子どもの気持ちについて考察する。					
10	人間関係を育む環境:保育者同士の「人間関係」を理解し、指導案を作成する			予習(30分):指導計画・指導案作成の準備をする。 復習(30分):指導案に基づいた模擬保育の準備をする。					
11	人間関係を育む環境:保護者と保育者の「人間関係」を理解し模擬保育を行う			予習(30分):指導計画・指導案作成の準備をする。 復習(30分):指導案に基づいた模擬保育の準備をする。					
12	小学校以降の生活や学習で生かされる力について理解する			予習(30分):集団生活の良い所・よくないところは何か、考える。 復習(30分):事例を通して、個と集団の問題について考察する。					
13	園・家庭・地域における「人間関係」について考える			予習(30分)地域の子育て支援にはどのようなものがあるか? 復習(30分)地域の人間関係が子どもにもたらす影響について考察する。					
14	多様なかかわりの中で豊かに生きる幼児について理解する			予習(30分)子どもにとって多様なかかわりとはどのようなものがあるか? 復習(31分)外国籍家庭の事例から、関わり方について考察する。					
15	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ			予習(30分):今までの復習をし質問があれば書き出しておく 復習(30分):現代の子どもをめぐる「人間関係」の問題点を箇条書きにする					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫					
①:PBL(課題解決型学習)			○	DVD視聴					
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)									
③:ディスカッション・ディベート			○						
④:グループワーク			○						
⑤:プレゼンテーション			○						
⑥:実習・フィールドワーク									
【課題のフィードバック】									
授業のリアクションペーパーの内容は、次の時間にまとめたり、分析したり、一部紹介するなど、フィードバックする。									
【成績の評価方法】									
授業への参加度・授業内ワーク40%、レポート試験60%									
【履修申請上の条件】									
関連科目は「こどもと人間関係」「保育内容総論」。子どもの行動について関心を持ち、行動観察をすること。									

<p>【教科書】</p> <p>幼稚園教育要領(平成29年3月 文部科学省) 相良順子・宮本友弘編著「保育の現場で役立つ心理学」(アイ・ケイコーポレーション)既に持っている場合は購入不要。</p>
<p>【参考書】</p> <p>相良順子編著「保育の心理学」(ナカニシヤ出版) 藤崎真知代ほか「保育のための発達心理学」(新曜社) 咲間まり子編著「保育内容『人間関係』」(みらい)</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>保育士の経験をもとに、乳幼児期の子どもの発達とその人間関係の重要性について、理論の実践の両面から講義する。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>水・金曜の昼休み及び4限以降</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>s_koizumi@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>特になし</p>

授業科目名	保育内容演習・環境		担当教員名	舟生 直美						
コード	22NUR407		区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生		
年次/期間	2年次/前期		単位/時間数/形態	2単位/30時間/演習						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】									
①	主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。									
②	多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。									
③	こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。									
【授業の概要】										
<p>本科目は、主に環境を物的環境・人的環境・自然や社会の事象の3つの視点から学ぶ内容とする。まず、乳幼児期の環境の意義と必要性について理解をした上で、先の保育における3つの環境の視点に分けて、映像やグループワークを活用しながら具体的に学んでいく。</p> <p>また、環境構成の重要性を踏まえた上で、環境を意識した保育内容の立案や発表を通じて、より実践的な取り組みの中で知識と技術を身に付けていく内容とする。</p>										
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								ディプロマ・ポリシー		
								①	②	③
1 保育における「環境」の重要性について、3法令に示されている領域のねらい及び内容を中心に、その他の関連する理論を活用しながら説明することができる。								○		
2 指導案の作成、模擬保育などの実践的取り組みを通して、「環境を通して行う保育」を実践するための知識及び技能を習得することができる。										○
3 学生一人ひとりが持つ豊かな環境構成のイメージを明確にし、実習並びに保育実践に役立てるよう具現化することができる。								○		
【授業計画】										
授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)							
1	オリエンテーション及び保育内容「環境」の説明 ・本授業内容及び展開の説明、これまでの「環境」のイメージ並びに実体験を保育と関連付けて考える。		予習:本授業シラバスを一読する(20分)。 復習:保育と環境を関連付ける課題レポート(60分)。							
2	領域「環境」とは何か ・領域「環境」のねらい及び内容の理解(ビデオ教材を活用)		予習:教科書第2章(p.25～51)を一読する(60分)。 復習:映像事例に基づく課題の実施(60分)。							
3	「環境を通して行う保育」の意味とその重要性 ・様々な園の環境を参考に(調べ学習)保育における「環境」の意義と重要性を理解		予習:各自書物やインターネットを活用して、様々な園の環境について調べ、自分の最も気になる園を選択し、その理由について発表できるよう準備しておく(60分)。 復習:グループワークで気になった他の園について調べ、まとめておく(30分)。							
4	物的環境からの理解①(理論・立案) ・教科書(p.102～107)の内容を理解した上で、保育に必要な物的環境を立案		予習:教科書第4章(p.102～107)を一読する(30分)。 復習:授業内で提示した課題の実施(60分)。							
5	物的環境からの理解②(実践的取り組みを通して) ・各自立案した物的環境の作成・発表・省察の実施		予習:物的環境を立案し、発表できるよう準備しておく(60分)。 復習:各自発表した内容を振り返り、まとめる(30分)。							
6	人的環境からの理解 ・教科書(p.53～63,108～111)の内容からの理解及び「かかわる」ということの意義と重要性について(ビデオ教材を活用)		予習:教科書(p.53～63,108～111)を一読する(30分)。 復習:映像を通して理解した内容をまとめる(60分)。							
7	自然・社会における事象からの理解 ・教科書(p.85～95,113～134)の内容理解及びキャンパス内の資源を活用しての実践的理解、部分指導案の立案・発表		予習:教科書(p.85～95,113～134)を一読する(60分)。 復習:授業内で提示(60分)。							
8	記録を通じての「環境」理解 ・環境を意識した記録の作成、グループでの発表・共有の実施		授業内で提示(60分)。							
9	実践的理解(前編)―実際の園見学を通して ・保育現場の見学から、遊びや人・ものに関連付けた環境設定・環境構成の理解		予習:配布した見学にあたっての事前学習内容を記入(60分)。 復習:見学を通して学んだことを整理しまとめる(60分)。							
10	実践的理解(後編)―園見学の振り返りより ・園見学の実際から、より細かい視点(物的環境・人的環境・自然社会における事象)に分類して考え、深める		予習:見学を通して学んだことを整理しまとめる(60分)。 復習:発表又はグループワークを通して得られた内容を整理し、まとめる(60分)。							
11	「環境」を意識した保育の実践 ・与えられた設定の下、これまでの授業を踏まえ、模擬保育を実施するための部分指導案の立案・作成		予習:指導案作成に向けた準備(30分)。 復習:指導案の完成(60分)。							
12	模擬保育の実践(グループ1～4) ・模擬保育を通しての実践的理解(発表・振り返り等)		予習:指導案の完成及び模擬保育に向けた教材準備(60分)。 復習:発表後の振り返り内容を整理し、まとめる(60分)。							
13	模擬保育の実践(グループ5～8) ・模擬保育を通しての実践的理解(発表・振り返り等)		予習:指導案の完成及び模擬保育に向けた教材準備(60分)。 復習:発表後の振り返り内容を整理し、まとめる(60分)。							
14	模擬保育の実践(グループ9～12) ・模擬保育を通しての実践的理解(発表・振り返り等)		予習:指導案の完成及び模擬保育に向けた教材準備(60分)。 復習:発表後の振り返り内容を整理し、まとめる(60分)。							
15	本授業の総括 ・平成29年改訂の3法令のねらい及び内容を参考に、今後求められる保育及び課題の理解、議論等		予習:平成29年告示の3法令を一読する(60分)。							
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫						
①:PBL(課題解決型学習)			○	・授業は主にプロジェクター(パワーポイント)を用いて説明する。 ・演習場面においては、実際の子どもを映したビデオ教材を使用して自己の考えをまとめる際やグループワーク等に活用している。 ・学生の立案した保育案等においては、学生同士が共有できる方法としてGoogleドライブを活用して可視化・共有する。						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○							
③:ディスカッション・ディベート			○							
④:グループワーク			○							
⑤:プレゼンテーション			○							
⑥:実習・フィールドワーク			○							
【課題のフィードバック】										
・課題レポートに対するフィードバックは、次回講義時に行う。 ・レポート等に対するフィードバックとして、コメントを入れて返却する。										

<p>【成績の評価方法】</p> <p>・発表やグループワーク等の授業参加度(25%) 授業内での課題(25%) 期末レポート(50%)</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>1. 予習・復習をきちんと取り組み授業に臨むこと。 2. 発表やグループワークには積極的に参加すること。 3. 期限内に課題を提出すること。</p>
<p>【教科書】</p> <p>・保育・幼児教育シリーズ『環境の指導法』改訂第2版 若月芳浩〔編著〕 玉川大学出版部</p>
<p>【参考書】</p> <p>・幼稚園教育要領(平成29年告示) 文部科学省 フレーベル館 ・保育所保育指針(平成29年告示) 厚生労働省 フレーベル館 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 ・子どもが育つ保育環境づくり―園内研修で保育を見直そう(2013) 柴崎正行 学研教育みらい</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>・幼稚園教諭の経験を踏まえて、実際の園の環境構成の紹介やその環境構成の中で子どもが経験していく内容について事例を交えて講義する。 ・指導案の作成においては、幼稚園教諭の見解も含めて助言・添削を行う。</p>
<p>【オフィスアワー】</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>nfunyu@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>特になし</p>

授業科目名	保育方法論	担当教員名	舟生 直美					
コード	22NUR408	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生	
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。							
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。							
◎	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。							
【授業の概要】								
本講義では、次世代の子どもたちに求められる資質・能力と、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた保育方法の基礎的理論と実践を学ぶ内容とする。具体的には、保育における全体的な計画を理解した上での部分指導案の作成や、発表・模擬保育及びその後の振り返り等を通じて、保育に必要な技術を獲得し、自分に合った保育方法を探求していく。その他に、本学の「こどもの国のクリスマス」行事を活用した実践的な取り組み(製作活動・当日の子ども及び利用者との関わり等)にも授業の一環として実施する予定である。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
							ディプロマ・ポリシー ① ② ③	
	1 保育方法の基礎的理論を学び、様々な保育方法があることを説明することができる。							○
	2 次世代の子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な保育の方法を想像(創造)することができる。							○
	3 指導案の作成・発表・実践・振り返り等を通して、保育に必要な技術を向上することができる。							○
	4 子どもとの直接的な関わりを通して、自分に合った保育方法を探究することができる。							○
【授業計画】								
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	オリエンテーション及び本講義の内容「保育方法」についての理解 ・本講義の内容や運営方法についての説明並びに本講義で扱う「保育方法」の理解	予習:本授業のシラバスを一読しておく。教科書(1章)を一読する(30分)。						
2	3法令を通じた「保育方法」の理解 ・平成29年改訂の3法令の理解及び実践的取り組みからの理解(ビデオ教材を活用)	予習:平成29年改訂の3法令を一読しておく(60分)。 復習:改訂(改定)された3法令と、これまでの違い・特色などをまとめる(30分)。						
3	「保育方法」の歴史的探究 ・様々な理論化された保育方法から学ぶ(文献等調査)	予習:保育方法に関連する人物について書物やインターネットを用いて調べ、発表できるようにまとめておく(30分)。 復習:授業内で提示する(30分)。						
4	子どもと遊びの楽しさを共有する方法 ・学生の体験談及び参考映像を用いた本テーマの理解	予習:教科書2章を一読する(30分)。 復習:参考映像をもとにした小レポートの作成(60分)。						
5	環境・遊び・その他活動から保育方法を考える ・環境を通して行う保育の理解及び保育方法の創出、教材準備、援助方法などの実践的理解	予習:教科書第3章を一読する(30分)。 復習:環境マップを完成させる(60分)。						
6	子どもに寄り添った保育に必要な方法について	予習:教科書5・6章を一読する(60分)。 復習:授業内で提示する(30分)。						
7	長期的な見通しをもった保育方法について ・栽培活動や行事をもとに、長期的な見通しをもった保育方法を理解する	予習:教科書第7章を一読する(30分)。 復習:授業内で提示する(30分)。						
8	かかわりの難しさを感じる子どもへの援助の方法 ・特別な支援を要する子どもの理解及び援助の方法を学ぶ(参考となるビデオ教材を活用したグループワークを通じて)	予習:教科書第8章を一読する(60分)。 復習:授業内で提示する(30分)。						
9	記録から方法を探る ・記録の意味とその重要性を理解し、一人一人の子ども理解と保育方法を関連付けて考える	予習:教科書第9章を一読する(30分)。 復習:授業内で提示(60分)						
10	連携という方法を探る<前編> ・保護者との連携を中心に、連携のために必要な保育方法を考える	予習:教科書第10章を一読する(30分)。 復習:授業内で提示(30分)						
11	連携という方法を探る<後編> ・小学校・地域の人々・他の保育者との連携を中心に、連携のために必要な保育方法を考える	予習:教科書第10章を一読する(30分)。 復習:授業内で提示(30分)。						
12	指導案作成を通じての保育方法の理解 ・これまでに学んだ内容を踏まえ、各自の強みを活かした部分指導案を立案・作成する	予習:自分のやりたい保育内容・保育方法を考え、指導案を作成する準備をする(30分) 復習:指導案に基づいて教材準備及び実践の準備(30分)						
13	模擬保育又は指導案の内容発表<前半> ・各自が作成した部分指導案を発表(実践)及びその振り返り	予習:指導案に基づいて教材準備及び実践の準備(30分) 復習:指導案に基づいて教材準備及び実践の準備(30分)						
14	模擬保育又は指導案の内容発表<後半> ・前半に実施できなかった学生の発表(実践)及びその振り返り	予習:指導案に基づいて教材準備及び実践の準備(30分) 復習:各自の発表の振り返りをまとめ、記録する(60分)						
15	本講義のまとめ ・今後求められる保育者の姿と保育方法とは (平成29年改訂の3法令に基づいたディスカッションを通じた理解)	予習:平成29年改訂の3法令を一読した上で、その違いや特色、自分の意見などを発表で述べられるように準備しておく(60分)。						
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫					
①:PBL(課題解決型学習)		○	・演習場面においては、実際の子どもを映したビデオ教材を使用して自己の考えをまとめる際やグループワーク等に活用している。 ・学生の立案した保育案等においては、学生同士が共有できる方法としてGoogleドライブを活用して可視化・共有する。					
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○						
③:ディスカッション・ディベート								
④:グループワーク		○						
⑤:プレゼンテーション								
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
・提出課題については、授業時の議論に活かしたり、コメントして返却したりしてフィードバックする。								

<p>【成績の評価方法】</p> <p>・期末レポート(50%) 課題提出(25%) 授業参加度(講義中・発表・グループワーク時の意欲や態度等 25%)</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>1. 予習・復習をきちんと取り組み授業に臨むこと。 2. 発表やグループワークには積極的に参加すること。 3. 期限内に課題を提出すること。</p>
<p>【教科書】</p> <p>・保育方法の実践的理解(2018)久富 陽子, 梅田 優子 萌文書林</p>
<p>【参考書】</p> <p>・幼稚園教育要領<平成29年告示> 文部科学省 フレーベル館 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示> 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 ・保育所保育指針<平成29年告示> 厚生労働省 フレーベル館</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>・特になし。</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>・小学校教諭・教育指導行政の経験をもとに教育・福祉・保育などの実際場面に必要な知識・技能について指導する。 ・実習中及び実習後の事後指導においては、学生の困難や反省を共感的に理解し、克服する方法を共に導出していく。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>水曜日 12:10～13:00 木曜日 10:40～12:10</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>nfunyu@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>・特になし。</p>

授業科目名	乳児保育 I	担当教員名	小川 清美				
コード	22NUR412	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
◎	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
<p>科目名「乳児保育」とは、0歳児のみならず1, 2歳児を含めた乳幼児とその保育を領域とすることが一般的であり、本授業においても3歳未満児を対象とした内容を学ぶ。乳児保育に携わる保育士は、0, 1, 2歳児というきわめて発達速度の速い子どもの特徴を正しく理解し、それに伴う保育の配慮点を踏まえながら「乳幼児の心身の健全な発達を保障する」ことを第一義としている。</p> <p>本授業では、乳児保育を担う保育士として、その職務を遂行するために必要な基礎的事項について学ぶとともに、保育実践力の向上にもつながる演習を取り入れながらすすめていく。また、乳児保育を取り巻く社会的な問題は現代の子育て支援のニーズとも重なっており、これからの保育士には幅広い視野をもちながら乳児保育の動向を見据える力も求められていることから、知識を吸収することのみにとどまらず、自分で考えて判断する力を高める授業を展開する。</p>							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
1	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び乳児保育の果たす役割について論述することができる。						○
2	保育所、乳児院等、多様な保育の場における乳児保育の現状と課題を理解し、0, 1, 2歳児保育の配慮事項について具体性をもって述べるることができる。						○
3	0, 1, 2歳児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解し、発達初期における特徴と対応について、説明することができる。						○
4	保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等の重要性を学び、乳児保育の計画を作成して応用することができる。						○
5	乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学び、保育の場に適用することができる。						○
【授業計画】							
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	乳児保育の意義と目的(1)歴史の変遷と現状	予習(15分):本授業のシラバス、教科書を一読して授業に臨む。 復習(15分):乳児の生活する場について整理しておく。					
2	乳児保育の意義と目的(2)さまざまな乳児保育施設	予習(15分):教科書を読んでおく。 復習(60分):乳児保育に関する記事について指示された課題に取り組む。					
3	乳児保育の意義と目的(3)乳児期に生まれる人との関わりと健全育成	予習(15分):教科書を読んでおく。 復習(30分):保育所保育指針内の乳児保育に関する箇所をまとめる。					
4	乳児保育の基礎知識(1)保育所保育の基本「養護と教育」の一体性	予習(15分):教科書を読んでおく。 復習(30分):乳児の多様な保育の場について整理する。					
5	乳児保育の基礎知識(2)保育の内容(0歳児)	予習(15分):教科書を読んでおく。 復習(30分):授業で配布したプリントの内容を読み返し、小テストの復習をする。					
6	乳児保育の基礎知識(3)保育の内容(1, 2歳児)	予習(15分):教科書を読んでおく。 復習(30分):授業で配布したプリントの内容を読み返し、小テストの復習をする。					
7	乳児保育の基礎知識(4)配慮事項(0歳児)	予習(15分):教科書を読んでおく。 復習(30分):授業で配布したプリントの内容を読み返し、小テストの復習をする。					
8	乳児保育の基礎知識(5)配慮事項(1, 2歳児)	予習(15分):教科書を読んでおく。 復習(30分):授業で配布したプリントの内容を読み返し、小テストの復習をする。					
9	0, 1, 2歳児の発達及び保育(1)保育の活動と連携体制	予習(15分):教科書を読んでおく。 復習(30分):授業で配布したプリントの内容を読み返し、小テストの復習をする。					
10	0, 1, 2歳児の発達及び保育(2)生後6か月頃までの発達と保育	予習(15分):教科書を読んでおく。 復習(30分):授業で配布したプリントの内容を読み返し、小テストの復習をする。					
11	0, 1, 2歳児の発達及び保育(3)生後6か月頃から1歳頃の発達と保育	予習(15分):教科書を読んでおく。 復習(30分):授業で配布したプリントの内容を読み返し、小テストの復習をする。					
12	0, 1, 2歳児の発達及び保育(4)生後1から2歳の頃の発達と保育	予習(15分):教科書を読んでおく。 復習(30分):授業で配布したプリントの内容を読み返し、小テストの復習をする。					
13	0, 1, 2歳児の発達と保育(5)生後2から3歳の頃の発達と保育	予習(15分):教科書を読んでおく。 復習(30分):授業で配布したプリントを読み返し、小テストの復習をする。					
14	乳児保育における子育て支援	予習(15分):教科書を読んでおく。 復習(30分):授業で配布したプリントを読み返し、小テストの復習をする。					
15	乳児保育における記録と計画	予習(15分):教科書を読んでおく。 復習(180分):教科書及び配布プリント、小テストをもとに定期試験の準備をする。					
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			動画(DVD)の活用、 実物投影機の活用、 事例検討				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク		○					
⑤:プレゼンテーション		○					
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
小テストや課題についてのフィードバックは、次回の授業時に行なう。							

<p>【成績の評価方法】</p> <p>評価は次の3点の総合的評価として、60点以上を合格とする。 (1) 定期試験 60% (2) 課題 25% (3) 授業に対する積極的な態度 15% ※出席は全出席が前提である。 ・授業の最後にリアクションペーパーを課すことや授業内で小テストを実施することもあるため、その結果は「(3) 授業に対する積極的な態度」の評価に加える。 ・模擬保育の実演と教材の作品提出を課し、「(2) 課題」の評価とする。教材の提出が遅れた場合も受け取るが、8割の評価とする。</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>保育士養成課程の必修科目であるので、保育士の資格取得を希望する者は、2年次に必ず履修すること。</p>
<p>【教科書】</p> <p>『よくわかる保育士エクササイズ5乳児保育演習ブック(第2版)』／池田りな編／ミネルヴァ書房</p>
<p>【参考書】</p> <p>『保育所保育指針』／厚生労働省／フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし。</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>特になし。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>・火曜日：昼休み ・水曜日：昼休み</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>kogawa@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>・教科書と保育所保育指針は毎回持参すること。 ・保育士資格課程の科目であるため欠席には十分留意すること。 ・受身ではなく、能動的に、保育者になる自分が学ぶという態度で参加してほしい。また、授業内で事例検討やグループディスカッションを行なう際には、積極的に自己の考えを発言する意欲をもって取り組むこと。</p>

授業科目名	子どもの保健	担当教員名	小野川 晶子					
コード	22NUR414	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生	
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
①	主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。							
②	多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。							
③	こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。							
【授業の概要】								
<p>少子化を背景に健康に対する意識の向上から子どもの保健は社会的にも重要とされている、子どもの心身を健やかに育てるために必要な援助、望ましい対応について理解を深める。前半は、主に子どもが正常に成長発達していく過程と子どもを取り巻く環境について学修する。まず、子どもの健康に関する妊娠、出産と胎児・新生児の健康への影響、乳幼児から思春期の各ステージの成長・発達のプロセスについて学ぶ。また、わが国の子どもの保健の現状として、母子に関する主な統計と関係法規、母子保健事業について学び、子どもを取り巻く社会環境の課題について考察していく。後半は、子どもの正常な成長発達のプロセスをふまえた心身の健康状態を守るために必要となる具体的な関わりについて学修する。子どもの健康状態を把握し、問題に対応するための日常的な健康観察の方法、異常症状の対応、子どもに多い疾病の特徴と適切な対応について知識を身につける。</p>								
						ディプロマ・ポリシー		
						①	②	③
1 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を説明することができる								○
2 子どもの身体的な発育・発達と保健について関係づけることができる								○
3 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明することができる								○
4 子どもの異常症状の適切な対応と子どもに多い疾病の特徴とその予防法を説明できる								○
【授業計画】								
	授業計画		授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	子どもの保健の概念と目的:保健活動の意義と目的 用語と定義		予習(60分):教科書「子どもの健康と保健の意義」を読む 復習(60分):保健に関する用語と定義を覚える					
2	胎児期の保健:妊娠経過と分娩経過と胎児の健康への影響		予習(60分):妊娠分娩に関する課題レポート 復習(60分):視聴したDVDについて感想をまとめる					
3	新生児期～乳児期の保健:新生児の特徴、乳児の身体発育と発達		予習(60分):教科書「運動機能の発達」「精神機能の発達」を読む 復習(60分):教科書ワークシート1-①					
4	幼児期の保健:幼児の身体発育と発達		予習(60分):教科書「生理機能の発達」を読む 復習(60分):教科書ワークシート1-②					
5	学童・思春期の保健:学童～思春期の特徴 身体発育と発達		予習(60分):第2次性徴について調べる 復習(60分):思春期の心や運動発達や身体発育に関する課題					
6	現代社会における子どもの健康の現状と課題:母子保健の主なる統計と保健行政 関係法規		予習(60分):母子保健に関する統計をリストアップする 復習(60分):統計からわかる現代の子どもの保健の課題をまとめる					
7	子どもの健康状態の観察(1):日常生活における健康状態の観察 視覚聴覚の観察		予習(60分):教科書「子どもの健康状態の観察」「感覚器の発達」を読む 復習(60分):教科書ワークシート2-①					
8	子どもの健康状態の観察(2):生理機能(体温・呼吸・脈拍)の観察と評価		予習(60分):教科書を対応箇所を読む 復習(60分):自身または家族の生理機能を観察し評価する					
9	子どもの健康状態の観察(3):身体計測と評価		予習(60分):教科書「発育・発達の把握と健康診断」を読む 復習(60分):身体測定の評価方法3つをまとめる					
10	子どもによくみられる主な異常症状と手当て(1)		予習(60分):教科書「体調のよくない子どもへの対応」を読む 復習(60分):プリントを見直す					
11	子どもによくみられる主な異常症状と手当て(2)		予習(60分):プリントを見直す 復習(60分):まとめ小テスト					
12	子どもの病気(1):感染症		予習(60分):教科書「子どものかかりやすい感染症」を読む 復習(60分):まとめ小テスト					
13	子どもの病気(2):アレルギー疾患 慢性疾患 その他子どもに多い病気		予習(60分):教科書「アレルギー疾患」「その他の子どもの病気」を読む 復習(60分):教科書ワークシート4-①～6-②					
14	集団保育における感染の予防:感染予防の原則		予習(60分):教科書「感染症の予防と対応」を読む 復習(60分):感染症の予防のためのレポート3つの原則をまとめる					
15	試験とまとめ		予習(180分):まとめプリントの復習					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)								
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート			○					
④:グループワーク			○					
⑤:プレゼンテーション								
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
課題レポートに対するフィードバックは次回の講義に行う。授業内の小テストについては回収後、解答の解説を行う。								

<p>【成績の評価方法】</p> <p>定期試験(100%)</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>保育士資格取得に必要な科目であり、次年度開講される『子どもの健康と安全』を引き続き受講すること。</p>
<p>【教科書】</p> <p>鈴木美枝子 編著 『保育者のための子どもの保健』 創成社</p>
<p>【参考書】</p> <p>厚生労働省児童家庭局母子保健課監修 財団法人母子衛生研究会編集 『わが国の母子保健』 母子保健事業団</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>この授業は、看護師・助産師の資格を有し、医療施設における母子の看護・助産業務および地域保健センターの乳幼児健診・相談等の実務経験がある教員による授業である。それらの臨床経験を活かした実践的授業を行う。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>特になし</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>aonogawa@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>毎日の新聞購読や雑誌などの記事から、子どもの健康に関する情報やニュース、子どもの生活環境等に注目すること。その上で、子どもを取り巻く現代社会が子どもの心とからだに及ぼす影響について多方面から考察する習慣をつけること。</p>

授業科目名	子どもの食と栄養A	担当教員名	宮寺 里香						
コード	22NUR415	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生		
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。								
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。								
◎	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。								
【授業の概要】									
小児期の食生活は生涯にわたって健康な生活を送るための基本となるものである。また、この時期の栄養は子どもの健やかな心身の発達に欠かすことのできないものである。そのため保育者自身もその重要性を十分に理解する必要がある。本講座では、正しい栄養の知識と乳幼児の摂食と機能の発達、またその発達に応じた食事の摂取方法をその特徴および問題点を含めて学ぶ。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー		
							①	②	③
1 子どもの『食べる力』の基礎について理解し適用することができる。									○
2 小児期の成長・発達と食生活、食習慣形成など小児期栄養の重要性について理解し適用することができる。									○
【授業計画】									
	授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	栄養の基本的知識1(たんぱく質、炭水化物、脂質)			予習(40分):テキストp.44~48、p.53~57を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):配布プリントを見直し、栄養の働きについてまとめる					
2	栄養の基本的知識2(ビタミン、ミネラル)			予習(40分):テキストp.49~50、57~61を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):配布プリントを見直し、栄養の働きについてまとめる					
3	消化と吸収			予習(40分):テキストp.45を読み、疑問点をチェックしておく 復習(60分):消化と吸収について、子どもに伝える分かりやすい方法を考えレポートにまとめる					
4	食べる機能の発達(哺乳) 乳汁期の栄養(母乳栄養1) 母乳分泌の仕組み、母乳の成分、授乳方法			予習(40分):テキストp.36①~37②、p.71~77(5)を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):配布プリントに乳児の哺乳反射、母乳分泌の仕組み、母乳の成分についてまとめる					
5	乳汁期の栄養(母乳栄養2) 母乳の成分、母乳の利点、問題点			予習(40分):テキストp.77~81を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):配布プリントに、母乳の成分、母乳の利点、問題点についてまとめる					
6	乳汁期の栄養(人工栄養、混合栄養)			予習(40分):テキストp.82~86、89を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):配布プリントに粉ミルクの成分、種類、液体ミルク、混合栄養についてまとめる					
7	乳汁期の栄養(調乳)			予習(40分):テキストp.87~88を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):配布プリントに混合栄養、調乳についてまとめる					
8	離乳の定義と必要性、食べる機能の発達(咀嚼・嚥下)			予習(40分):テキストp.89~90を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):配布プリントに離乳の必要性、摂食機能の発達についてまとめる					
9	離乳期の栄養(生後5~6か月頃、7~8か月頃、9~11か月)			予習(40分):テキストp.91~97を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):配布プリントに5~6か月、7~8か月、9~11か月頃の食生活と栄養、離乳の開始についてまとめる					
10	離乳期の栄養(生後12~18か月頃、離乳の完了、離乳食の留意点、ベビーフード)			予習(40分):テキストp.98~103を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):配布プリントに12~18か月頃の食生活と栄養、離乳の完了、離乳食の留意点、ベビーフードの特徴についてまとめる					
11	幼児期の食生活			予習(40分):テキストp.110~111、p.116~118を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):配布プリントに幼児前期後期それぞれの食生活と栄養についてまとめる					
12	幼児期の食事上の問題			予習(40分):テキストp.112~115を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):配布プリントに幼児期の食事上の問題についてまとめ、対応策を考えまとめる					
13	保育所給食			予習(40分):テキストp.123~125、p.129を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):配布プリントに保育所給食の意義と留意点についてまとめる					
14	食物アレルギーのある子どもへの対応			予習(40分):テキストp.172~186を読み、疑問箇所をチェックしておく 復習(60分):配布プリントに食物アレルギー対応の留意点についてまとめる					
15	定期試験			これまでの配布プリント、教科書を見直し、まとめる					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
リアクションペーパーにコメントを入れて返却する。		
【成績の評価方法】		
定期試験70%、リアクションペーパーなど授業参加度30%		
定期試験はペーパーテスト。筆記用具以外持ち込み禁止。リアクションペーパーは記入の程度で判断。		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
『新・子どもの食と栄養』岩田章子・寺嶋昌代 編 (株)みらい		
【参考書】		
『保育所保育指針』厚生労働省 フレーベル館		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
特になし		
【オフィスアワー】		
木曜10:30～14:30		
【教員連絡先】		
rmiyadera@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
毎回配布の記入プリントは整理していつでも提出できるようにしておく。		

授業科目名	子どもの健康と安全	担当教員名	小野川 晶子				
コード	22NUR417	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
①	主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
②	多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
③	こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
<p>出産後も仕事を続けることを選択する女性が増えたことにより、生後間もない子どもや病児、障害を持つ子どもの保育、保育時間の延長など、保育の場に対する社会的ニーズは年々拡大している。また、子どもの健康に対する意識の高まりもあり、集団保育の場においてもより質の高い保育環境や保育内容が期待されている。本講義では子どもの健康を守り、健全な成長発達をはかるための保健衛生および安全管理に関する実践能力を養う。子どもの健康状態を把握するための観察や発達・発育の評価、健康増進や安全に配慮された日常生活環境の整備との養護、子どもに多い病気や事故発生時の適切な対応、集団保育における健康管理のための保健安全計画と健康教育について学修する。</p>							
授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
1 子どもの健康状態を把握するために日常的な観察・評価ができる。							○
2 子どもの成長・発達段階に応じた適切で安全な養護を理解し実施できる。							○
3 子どもに多い病気や事故の特徴を理解し、予防対策および発生時の対応ができる。							○
4 集団保育における子どもの健康管理・安全管理について理解し、年間保健計画とほけんだよりの作成ができる。							○
5							
【授業計画】							
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	授業計画と演習オリエンテーション 日常生活における子どもの健康状態の観察	課題:子どもの健康観察のポイントについてまとめる(60分)					
2	健康状態の観察(1):子どもの健康状態の観察と評価(体温・脈・呼吸の測定)	課題:子どもの観察実習に関するレポート(60分)					
3	健康状態の観察(2):身体計測(身長・体重・頭位・胸囲)と評価	課題:子どもの身体測定実習に関するレポート(60分)					
4	保育における安全管理(1):子どもの視覚・聴覚 幼児の視覚体験	課題:幼児の視覚体験実習に関するレポート(60分)					
5	保育における安全管理(2):安全な生活環境	課題:ワークシート②③(60分)					
6	日常生活の養護(1):抱っこ、おんぶ、ベビーカーの移動	課題:移動実習に関するレポート(60分)					
7	日常生活の養護(2):更衣・オムツの交換、乳児の栄養(授乳の方法と排気)	復習:プリントを読み、更衣とおむつ交換のポイントをまとめる(60分)					
8	日常生活の養護(3):清潔の援助(沐浴、清拭・手洗い・うがい・歯みがき)	予習:配布プリントを読み沐浴の準備や手順を覚える(60分)					
9	日常生活の養護(4):沐浴	課題:沐浴実習に関するレポート(60分)					
10	異常症状と手当て:適切な応急処置(罨法・与薬・エビペンの使い方)	復習:プリントの手順通りに湯たんぽあるいは氷枕を作る(60分)					
11	子どもの事故と応急処置(1):子どもの事故の特徴と外傷の手当て	復習:教科書78～94頁を読む(60分)					
12	子どもの事故と応急処置(2):止血と包帯法	復習:家族や自身に包帯法実施(60分)					
13	子どもの事故と応急処置(3)一室息の手当てと乳幼児の心肺蘇生法	課題:手順を確認する(60分)					
14	集団保育における健康管理(1)一年間保健計画と健康教育・安全教育	課題:年間保健計画を作成(120分)					
15	集団保育における健康管理(2)ほけんだよりの作成 まとめ	課題:ほけんだよりの作成(120分)					
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)							
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク		○					
⑤:プレゼンテーション		○					
⑥:実習・フィールドワーク		○					
【課題のフィードバック】							
課題レポートのフィードバックは、次回講義時に行なう。							

<p>【成績の評価方法】</p> <p>実習参加度:20%、実習後のレポート提出:50%、最終課題「年間保健計画とほけんだよりの作成」:30%</p> <p>1.実習時の積極的な参加度を評価する。持ちものや実習の準備(服装、髪型、爪切り)、言動などについても確認する。</p> <p>2.それぞれの実習レポート提出については、指示に即しているか、理解出来ているか、十分な考察が出来ているか、などを基準に評価する。(実習課題5項目×10点)遅れての提出は受け取るが5割評価になる。</p> <p>3.年間保健計画に基づく「ほけんだより」が適切な内容で作成されているかなどを基準に評価する。</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>1. 「子どもの保健」の学習内容をふまえた実習を行うため、予め履修しておくことが望ましい。</p> <p>2. 毎回違う項目で一度きりの学内実習であるため、全て出席することが前提である。 やむを得ない事情で欠席する場合は、必ず授業で使用したプリントを入手し、テキストと共に学習すること。尚、その単元のレポート評価は0点となる。</p> <p>3. 実習は子どもを対象とする実習に相応しい服装、靴、髪型とし、爪を切って臨むこと。乳幼児人形を使用する実習ではエプロンをつけること。</p> <p>4. 実習はグループで行うため、お互いの協力の元に積極的に取り組むこと。</p>
<p>【教科書】</p> <p>鈴木美枝子編著 『保育者のための子どもの健康と安全』 創成社</p>
<p>【参考書】</p> <p>健康教育に関わる絵本を授業内に紹介する</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>この授業は、看護師・助産師の資格を有し、病院等における母子看護や地域保健センターの乳幼児健診・相談業務等の実務経験がある教員による授業である。それらの臨床経験を生かして、保育の中の日常的な保健の知識と技能を指導する。□</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>特になし</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>aonogawa@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>生活の中で出会う母(父)子に目を向け、大人と子どもの相互関係や子どもを取り巻く社会環境について考察する習慣をつけること。</p>

授業科目名	子ども家庭支援の心理学	担当教員名	小泉 左江子				
コード	22PSY202	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
①	主體的に心理を探究する姿勢を身に着け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
②	多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に着ける。						
③	こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に着け、地域社会において主體的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
この科目は、ディプロマポリシーに定められた「保育・教育に関する豊かな専門的知識と技能を習得」するための講義科目である。保育者として子育て支援ができるように、子どもとその家族・家庭を生涯発達の観点から理解し、多様な家庭の支援に必要な知識を身につけることを目的とする。その際に、現代を生きる子どもと家族の姿と発達臨床的な視点を折り込み、また代表的な理論や最近の知見をもとに、事例や実践的なトピックスを多く紹介するように心がける。講義が中心であるが、毎回ワークを通してお互いの考えを知るような、アクティブラーニングをできるだけ取り入れるようにする。							
授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係							ディプロマ・ポリシー
							(1) (2) (3)
1 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について説明できる。							○
2 家族・家庭の意義や機能の理解を踏まえて、親子関係や家族関係について発達の観点から包括的に捉えることができる。							○
3 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、説明できる。							○
4 子どもの精神保健とその課題について理解する。							○
【授業計画】							
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	ガイダンス 生涯発達とは何か	予習(30分):エリクソンの発達理論について調べる 復習(30分):生涯発達を学ぶ意義について説明する					
2	乳幼児期から学童期前期の発達 : 愛着 社会性 コミュニケーション	予習(30分):テキスト第1章第1節を読む 復習(30分):人生の初期の発達の重要性について説明する					
3	学童期後期から青年期にかけての発達 : 思春期 アイデンティティ	予習(30分):テキスト第1章第2節を読む 復習(30分):心理的離乳を説明する					
4	成人期・老年期の発達 : ライフサイクルの木 人生のキャリア	予習(30分):テキスト第1章第3節を読む 復習(30分):自分や家族についての、ライフサイクルの木を考える。					
5	親子関係・家族関係の理解(1) : ファミリーアイデンティティ 発達の悪循環	予習(30分):テキスト第2章第1節を読む 復習(30分):発達の悪循環を生じさせないためにはどうすればよいか、考える。					
6	親子関係・家族関係の理解(2) : 家族システム論 生態学的システムモデル	予習(30分):テキスト第2章第1節を読む 復習(31分):自分の生態学的システムモデルを描く					
7	子育て経験と親としての育ち(1) : 親になること 親としての成長(ワーク)	予習(30分):テキスト第2章第2節を読む 復習(31分):親になった人の体験を読んで、「親になること」について書く					
8	子育て経験と親としての育ち(2) : 育児不安 親準備性	予習(30分):テキスト第2章第2節を読む 復習(32分):自分の親準備性について書く					
9	子育てを取り巻く社会的状況 : 少子化 家族や地域の変容	予習(30分):テキスト第3章第1節を読む 復習(30分):「5歳児神話」について意見を書く					
10	ライフコースと仕事・子育て : ライフコース ワークライフバランス(ディスカッション)	予習(30分):テキスト第3章第2節を読む 復習(32分):自分の理想のライフコースを考える					
11	多様な家庭とその理解 : ひとり親家庭・外国籍家庭・貧困家庭・里親家庭等(ディスカッション)	予習(30分):テキスト第3章第3節を読む 復習(32分):事例を通して対応を考える					
12	特別な配慮を要する家庭への理解 : 育児不安・産後うつ・障害や病気等(ディスカッション)	予習(30分):テキスト第3章第4節を読む 復習(32分):事例を通して対応を考える					
13	不適切な養育が疑われる家庭への理解 : マルトリートメントとは(ディスカッション)	予習(30分):テキスト第3章第5節を読む 復習(32分):事例を通して対応を考える					
14	子どもの心の健康(1)環境の変化 と レジリエンス /言葉の問題 くせ 等	予習(30分):テキスト第4章第2節を読む 復習(31分):事例を通して対応を考える					
15	子どもの心の健康(2)保育者の役割 /行動の問題 発達障害 等	予習(30分):テキスト第4章第2節を読む 復習(31分):事例を通して考える					
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)		○	特になし				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート		○					
④:グループワーク		○					
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
振り返りシートにコメントを書いて返す。課題のフィードバックは後日講義中に行う。							
【成績の評価方法】							
期末試験60% 授業への取り組み(授業内でのワーク等)40%							
【履修申請上の条件】							
関連科目は「発達心理学」「子ども家庭支援論」です。子どもだけでなく、家族や子育てに関するニュースに関心をもってください。							
【教科書】							
相良順子・小泉左江子編著「子ども家庭支援の心理学」ナカニシヤ出版							

【参考書】 松本園子ほか編著「実践 子ども家庭支援論」ななみ書房 友田明美著「子どもの脳を傷つける親たち」NHK出版
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 保育士と心理相談員としての経験をもとに、多様な家庭の抱える諸問題について、発達臨床的な対応について講義する。
【オフィスアワー】 水・金曜 昼休み及びび4限以降
s_koizumi@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

授業科目名	保育フィールドワークA	担当教員名	田尻 真理子・井上 救					
コード	22NUR436	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生	
年次/期間	2年次～4年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。							
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。							
◎	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。							
【授業の概要】								
提携園並びに本学と関連の深い園における幼稚園・保育所での教育・保育活動において、乳幼児を観察するとともに、多様な園の業務を体験すること等を通して、教育・保育活動に携わる専門家としての職業を理解し、乳幼児に対する援助の実際を学ぶ。								
授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係						ディプロマ・ポリシー		
						①	②	③
1 実習に行く前段階として、保育現場で体験することの目的、心構え、留意事項、記録の意義や方法などについて理解し、説明することができる。								○
2 保育フィールドワークを通して、乳幼児を観察するとともに、保育者の保育内容及び多様な園の業務を体験する。								○
3 保育フィールドワークを振り返り、自身の成果と今後の課題をまとめる。								○
【授業計画】								
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	【事前指導①】オリエンテーション 4月7日(木) ・担当教員紹介 ・授業を行うにあたって(約束、出席、評価など) ・シラバス内容の説明 ・欠席時の注意事項、本授業での教員への連絡について (・履修登録の確認、履修状況の確認)							
2	【事前指導②】 4月14日(木) ・保育フィールドワークの意義と目的 ・保育フィールドワークの心構え ・グループ及び保育フィールドワーク先の発表 ・保育フィールドワーク日誌の配布及び説明	予習: 各自の担当園の情報を収集する						
3	【事前指導③】 4月21日(木) ・日誌の書き方(記録の意義と目的) ・保育フィールドワークのテーマ(目標)の設定 ・保育フィールドワーク用エプロンに名札を付ける	予習: 保育フィールドワークのテーマを決める						
4	《直前指導》4月28日(木) ・直前指導(服装、身だしなみ、体調管理、持ち物等の確認) ・チェックリストに沿った確認 ・質疑応答	予習: 名札のデザインを考える ・オリジナリティのある名札を作る ・WEB上の情報を参考にする ・SNSで検索したアイデアを活用						
5・6	【保育フィールドワーク①】 5月10日(火)1・2限	・健康管理を充分しておくこと(保育現場で活動するにあたって支障がある場合、参加できないこともある)。 ・日頃から礼儀、言葉遣い・態度、協同活動を心がけ、学校行事や課外活動などに積極的に参加しておくことが望ましい。						
7	【保育フィールドワーク①の振り返り及び記録作成】 5月12日(木)1限	予習: 関心に沿ったフィールドワークのテーマに基づき、教室内での学習を大学外のフィールドで実践し、その体験を教室に戻って検証・分析をするための整理をしておく。 体験的な学習を進める。						
8	《直前指導》5月19日(木) ・直前指導(服装、身だしなみ、体調管理、持ち物等の確認) ・チェックリストに沿った確認 ・質疑応答	予習: ・WEB上の情報を参考にする ・SNSで検索したアイデアを活用						
9・10	【保育フィールドワーク②】 5月24日(火)1・2限	・健康管理を充分しておくこと(保育現場で活動するにあたって支障がある場合、参加できないこともある)。 ・日頃から礼儀、言葉遣い・態度、協同活動を心がけ、学校行事や課外活動などに積極的に参加しておくことが望ましい。						
11	【保育フィールドワーク②の振り返り及び記録作成】 5月26日(木)1限	予習: 関心に沿ったフィールドワークのテーマに基づき、教室内での学習を大学外のフィールドで実践し、その体験を教室に戻って検証・分析をするための整理をしておく。 体験的な学習を進める。						
12	《直前指導》6月2日(木) ・直前指導(服装、身だしなみ、体調管理、持ち物等の確認) ・チェックリストに沿った確認 ・質疑応答	予習: ・WEB上の情報を参考にする ・SNSで検索したアイデアを活用						
13・14	【保育フィールドワーク③】 6月7日(火)1・2限	・健康管理を充分しておくこと(保育現場で活動するにあたって支障がある場合、参加できないこともある)。 ・日頃から礼儀、言葉遣い・態度、協同活動を心がけ、学校行事や課外活動などに積極的に参加しておくことが望ましい。						
15	【保育フィールドワーク③の振り返り及び記録作成】 6月9日(木)1限 【保育フィールドワーク総括】 ・保育フィールドワークを終えての自己の成果と課題の明確化	予習: 関心に沿ったフィールドワークのテーマに基づき、教室内での学習を大学外のフィールドで実践し、その体験を教室に戻って検証・分析をするための整理をしておく。 保育フィールドワークでは、実際に体験をし、ネットでは分からない子どもの情報等を保育の場で学んだ。総括して情報を正確に報告する。 体験的な学習を進める。						

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	・フィールドワークは、ちょっとした発想と、事前の調査ができていればおもしろい体験学習である。状況にあわせて技法を工夫し、組み合わせるところに創造的な可能性がうまれる。 ・インターネット等で情報が簡単に集められるようになった昨今でも、実際に現場に訪れないとわからない情報はたくさんある。これがフィールドワークの重要なところである。 ・実習に自信をもって臨むことができる。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	
【課題のフィードバック】 ・分からない点等は、自ら調べたり、質問したりして解決する。 ・保育フィールドワークの記録は戻り次第振り返りをする。		
【成績の評価方法】 ・授業への参加度(授業に対する取り組みや課題の実施等):80%、必要書類の提出:20%を総合して評価する。		
【履修申請上の条件】 ・幼稚園教育実習及び保育実習を履修する場合にはこのフィールドワークを受講しなければならない。 ・本科目は学外実習の一部であるという認識をもち、真剣な態度で臨むこと。		
【教科書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説(平成30年3月)』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館		
【参考書】 ・必要な資料は都度配布する。		
【オープンな教育リソース】 特になし		
【担当教員の実務経験】 特になし		
【オフィスアワー】		
【教員連絡先】 mtajiri@g.t-junshin.ac.jp sinoue@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】 特になし		

授業科目名	ピアノ表現法Ⅲ	担当教員名	田中 路				
コード	22NUR206	区分 (必修・選択)	卒業必修	保育士課程 必修	幼稚園教職課程 必修	選択	
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
①	主体的に心理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
②	多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。						
③	こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
幼児教育や保育の現場において、音楽を通して子どもと遊んだり、コミュニケーションをとったりする機会は多い。その際に教師や保育者に求められるのは、自分が演奏できるだけでなく、子どもの様子を見ながら演奏したり、音楽をリードしたりする能力である。この授業ではピアノ表現法Ⅰ及びⅡで学習した基礎をふまえ、ピアノの演奏、子どもの歌の歌唱、弾き歌いという三つの技能をさらに伸長することを目指す。本学の学位授与の方針のうち、「こども文化・保育・教育の専門的知識と技能」を身に付けるために、特に弾き歌いについては、教育現場で実際に多く歌われる楽曲を中心に、できるだけ多くのレパートリーを習得する。個人及びグループレッスンを通して、弾き歌いの技術的な修得だけでなく、人前で演奏する際の様々な表現方法の探求も目指していく。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー		
					①	②	③
1 ピアノの基礎的な演奏技術を習得し、個々のレベルに応じた演奏ができるようになる						○	
2 子どもの歌の弾き歌いができるようになる						○	
3 歌唱とピアノのバランスに気を配り、表情豊かに演奏することができるようになる						○	
【授業計画】							
	授業計画		授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	オリエンテーション 子どもの歌の弾き歌い(1):「こいのぼり」(片手奏)		予習:「こいのぼり」を片手ずつ譜読みする(30分) 復習:「こいのぼり」を片手ずつ復習を行なう(60分)				
2	子どもの歌の弾き歌い(2):「こいのぼり」(両手奏)		予習:「こいのぼり」を両手で合わせてくる(30分) 復習:「こいのぼり」を通して弾き歌いできるようにする(60分)				
3	子どもの歌の弾き歌い(3):「うみ」(片手奏)		予習:「うみ」を片手ずつ譜読みする(30分) 復習:「うみ」を片手ずつ復習を行なう(60分)				
4	子どもの歌の弾き歌い(4):「うみ」(両手奏)		予習:「うみ」を両手で合わせてくる(30分) 復習:「うみ」を通して弾き歌いできるようにする(60分)				
5	子どもの歌の弾き歌い(5):「たなばたさま」(片手奏)		予習:「たなばたさま」を片手ずつ譜読みする(30分) 復習:「たなばたさま」を片手ずつ復習を行なう(60分)				
6	子どもの歌の弾き歌い(6):「たなばたさま」(両手奏)		予習:「たなばたさま」を両手で合わせてくる(30分) 復習:「たなばたさま」を通して弾き歌いできるようにする(60分)				
7	子どもの歌の弾き歌い(7):「とけいのうた」(片手奏)		予習:「とけいのうた」を片手ずつ譜読みする(30分) 復習:「とけいのうた」を片手ずつ復習を行なう(60分)				
8	子どもの歌の弾き歌い(8):「とけいのうた」(両手奏)		予習:「とけいのうた」を両手で合わせてくる(30分) 復習:「とけいのうた」を通して弾き歌いできるようにする(60分)				
9	子どもの歌の弾き歌い(9):小テスト対策		予習・復習:小テストの準備を行う(60分)				
10	小テスト(他のクラスと合同)		予習:小テストの準備を行う(60分) 復習:小テストの振り返りを行なう(15分)				
11	子どもの歌の弾き歌い(10):「あめふりくまのこ」(片手奏)		予習:「あめふりくまのこ」を片手ずつ譜読みする(30分) 復習:「あめふりくまのこ」を片手ずつ復習を行なう(60分)				
12	子どもの歌の弾き歌い(11):「あめふりくまのこ」(両手奏)		予習:「あめふりくまのこ」を両手で合わせてくる(30分) 復習:「あめふりくまのこ」を通して弾き歌いできるようにする(60分)				
13	子どもの歌の弾き歌い(12):「おはながわらった」(片手奏)		予習:「おはながわらった」を片手ずつ譜読みする(30分) 復習:「おはながわらった」を片手ずつ復習を行なう(60分)				
14	子どもの歌の弾き歌い(13):「おはながわらった」(両手奏)		予習:「おはながわらった」を両手で合わせてくる(30分) 復習:「おはながわらった」を通して弾き歌いできるようにする(60分)				
15	子どもの歌の弾き歌い(14):クラスごとの発表会		予習:発表会の準備を行う(60分) 復習:発表会の反省を行い、定期試験に向けて練習する(90分)				
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			特になし				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク							
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
各回の課題については次回授業時に教員がチェックを行う。 次回授業時までには課題曲を練習し、担当教員の指導を受けられるようにしておくこと。そのために毎日ピアノに向かい、練習を積んでおくこと。							
【成績の評価方法】							
定期試験(ピアノ実技試験)80%、予習・復習及び授業に臨む姿勢20%で評価する。第15回の授業終了までに課題曲が修了していない場合には失格となる。							

<p>【履修申請上の条件】</p> <p>ピアノ表現法Ⅱの単位が取得済であること。 幼稚園教諭免許の必修科目のため、自覚を持って履修すること。</p>
<p>【教科書】</p> <p>平島美保、木村鈴代、小杉裕子編『こどものうた<簡易伴奏曲つき>』圭文社。 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>
<p>【参考書】</p> <p>小林真実編『保育実用書シリーズ こどものうた200』チャイルド本社。</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>特になし</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>火曜 12:15～12:45</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>田中 m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>小テストの時期は全体の進度によって前後する場合がある。</p>

授業科目名	ピアノ表現法Ⅳ	担当教員名	田中路			
コード	22NUR207	区分 (必修・選択)	卒業必修	保育士課程 必修	幼稚園教職課程 必修	選択
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① 主体的に心理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。					
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。					
◎	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。					
【授業の概要】						
幼児教育や保育の現場において、音楽を通して子どもと遊んだり、コミュニケーションをとったりする機会は多い。その際に教師や保育者に求められるのは、自分が演奏できるだけでなく、子どもの様子を見ながら演奏したり、音楽をリードしたりする能力である。この授業ではピアノ表現法Ⅲまでの学習内容のまとめとして、ピアノの演奏、子どもの歌の歌唱、弾き歌いという三つの技能を総合的に身に付け、自由に演奏できる力の伸長を目指す。本学の学位授与の方針のうち、「こども文化・保育・教育の専門的知識と技能」を身に付けるために、特に弾き歌いについては、教育現場で実際に多く歌われる楽曲を中心に、できるだけ多くのレパートリーを習得する。個人及びグループレッスンを通して、弾き歌いの技術的な修得だけでなく、人前で演奏する際の様々な表現方法の探求も目指していく。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー
						① ② ③
1 ピアノの基礎的な演奏技術を習得し、個々のレベルに応じた演奏ができるようになる						○
2 子どもの歌の弾き歌いができるようになる						○
3 歌唱とピアノのバランスに気を配り、曲にふさわしい表現で演奏ができるようになる						○
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	オリエンテーション 子どもの歌の弾き歌い(1):「おかあさん」(片手奏)	予習:「おかあさん」を片手ずつ譜読みする(30分) 復習:「おかあさん」を片手ずつ復習を行なう(60分)				
2	子どもの歌の弾き歌い(2):「おかあさん」(両手奏)	予習:「おかあさん」を両手で合わせてくる(30分) 復習:「おかあさん」を通して弾き歌いできるようにする(60分)				
3	子どもの歌の弾き歌い(3):「アイアイ」(片手奏)	予習:「アイアイ」を片手ずつ譜読みする(30分) 復習:「アイアイ」を片手ずつ復習を行なう(60分)				
4	子どもの歌の弾き歌い(4):「アイアイ」(両手奏)	予習:「アイアイ」を両手で合わせてくる(30分) 復習:「アイアイ」を通して弾き歌いできるようにする(60分)				
5	子どもの歌の弾き歌い(5):「おもちゃのチャチャチャ」(片手奏)	予習:「おもちゃのチャチャチャ」を片手ずつ譜読みする(30分) 復習:「おもちゃのチャチャチャ」を片手ずつ復習を行なう(60分)				
6	子どもの歌の弾き歌い(6):「おもちゃのチャチャチャ」(両手奏)	予習:「おもちゃのチャチャチャ」を両手で合わせてくる(30分) 復習:「おもちゃのチャチャチャ」を通して弾き歌いできるようにする(60分)				
7	子どもの歌の弾き歌い(7):「バスごっこ」(片手奏)	予習:「バスごっこ」を片手ずつ譜読みする(30分) 復習:「バスごっこ」を片手ずつ復習を行なう(60分)				
8	子どもの歌の弾き歌い(8):「バスごっこ」(両手奏)	予習:「バスごっこ」を両手で合わせてくる(30分) 復習:「バスごっこ」を通して弾き歌いできるようにする(60分)				
9	子どもの歌の弾き歌い(9):小テスト対策	予習・復習:小テストの準備を行う(60分)				
10	小テスト(他のクラスと合同)	予習:小テストの準備を行う(60分) 復習:小テストの振り返りを行なう(15分)				
11	子どもの歌の弾き歌い(10):「やきいもグーチーパー」(片手奏)	予習:「やきいもグーチーパー」を片手ずつ譜読みする(30分) 復習:「やきいもグーチーパー」を片手ずつ復習を行なう(60分)				
12	子どもの歌の弾き歌い(11):「やきいもグーチーパー」(両手奏)	予習:「やきいもグーチーパー」を両手で合わせてくる(30分) 復習:「やきいもグーチーパー」を通して弾き歌いできるようにする(60分)				
13	子どもの歌の弾き歌い(12):「あわてんぼうのサンタクロース」(片手奏)	予習:「あわてんぼうのサンタクロース」を片手ずつ譜読みする(30分) 復習:「あわてんぼうのサンタクロース」を片手ずつ復習を行なう(60分)				
14	子どもの歌の弾き歌い(13):「あわてんぼうのサンタクロース」(両手奏)	予習:「あわてんぼうのサンタクロース」を両手で合わせてくる(30分) 復習:「あわてんぼうのサンタクロース」を通して弾き歌いできるようにする(60分)				
15	子どもの歌の弾き歌い(14):クラスごとの発表会	予習:発表会の準備を行う(60分) 復習:発表会の反省を行い、定期試験に向けて練習する(90分)				
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			特になし			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
各回の課題については次回授業時に教員がチェックを行う。 次回授業時まで課題曲を練習し、担当教員の指導を受けられるようにしておくこと。そのために毎日ピアノに向かい、練習を積んでおくこと。						

<p>【成績の評価方法】</p> <p>定期試験(ピアノ実技試験)80%、予習・復習及び授業に臨む姿勢20%で評価する。第15回の授業終了までに課題曲が修了していない場合には失格となる。</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>ピアノ表現法Ⅲの単位が取得済であること。 幼稚園教諭免許の必修科目のため、自覚を持って履修すること。</p>
<p>【教科書】</p> <p>平島美保、木村鈴代、小杉裕子編『こどものうた<簡易伴奏曲つき>』圭文社。 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>
<p>【参考書】</p> <p>小林真実編『保育実用書シリーズ こどものうた200』チャイルド本社。</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>特になし</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>火曜 12:15～12:45</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>田中 m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>小テストの時期は全体の進度によって前後する場合がある。</p>

授業科目名	舞台表現A	担当教員名	田尻真理子・井上救・田中路				
コード	22ART204	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
年次/期間	1年次～4年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
子どもたちにとって、日々の保育における劇あそびや行事における劇活動は大きな楽しみのひとつである。そして子どもたちに関わる教諭や保育士は、このような「劇」に関わるパフォーマンスを子どもたちと行う方法を熟知する必要がある。この「劇」に含まれるパフォーマンスとして、オペレッタやミュージカル、演劇といった舞台表現が挙げられるが、これらは音楽、舞踊、台詞といった様々なパフォーマンスが結びついたものである。またこのようなパフォーマンスを実践するにあたっては、観るものに伝えることを常に意識しなければならない。本授業では舞台表現に含まれる様々なパフォーマンスについて理論と実践の両面から学んだ上で、観客に伝わる表現を考えながら、完成度の高い舞台作品の上演を目指す。具体的にはミュージカル、ギリシャ悲劇と能、演劇と教育、舞台美術と効果といった舞台表現の特徴を学んだ後、脚本を執筆する方法や、舞台音楽作成のテクニック、衣装や装置の作成方法を演習を通して身に付ける。最終的には受講者が各役割に分かれ、舞台作品作成の作業を進めていく。第15回目には作成した脚本を用いて出演者のオーディションを行い、舞台作品の作成に向けた分担を確定する。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
							ディプロマ・ポリシー ① ② ③
1	様々な舞台表現の種類とその特徴について説明できる。						○
2	舞台表現に関わる様々な役割とその内容を理解し、説明できる。						○
3	与えられた役割に対して責任を持ち、舞台作成に向けて他者と協力して作業ができる。						○
【授業計画】							
	授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	オリエンテーション (田尻、井上、田中路)			・本授業の目的について理解し、不明な点があれば次時に質問できるようにしておく(30分)。 ・鑑賞した昨年度の映像について改善点を自分なりに考えまとめる(20分)。			
2	舞台表現の様々な役割:各役割の概要 (田尻、井上、田中路) (脚本、音楽、装置、照明、衣装)			・希望する役割を決めておく(20分)。			
3	役割ごとの作業① (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:使用素材、道具の確認 音楽:歌詞の創作 照明:機材の確認			割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(45分)			
4	脚本読み合わせ (田尻、井上、田中路)			・脚本を読み込み、台詞を読む練習を積む(60分)			
5	配役オーディション (田尻、井上、田中路)			・脚本を読み込み、台詞を読む練習を積む(60分)。			
6	役割ごとの作業②: (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:作成計画(1) 音楽:旋律の創作(1) 照明:操作練習(1)			割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(45分)。			
7	役割ごとの作業③: (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:作成計画(2) 音楽:旋律の創作(2) 照明:操作練習(2)			割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(45分)。			
8	役割ごとの作業④: (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:衣装の作成準備(1) 音楽:伴奏の創作(1) 照明:操作練習(1)			割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(45分)			
9	役割ごとの作業⑤: (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:衣装の作成準備(1) 音楽:伴奏の創作(1) 照明:操作練習(1)			割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(45分)。			
10	役割ごとの作成⑥: (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:衣装の作成準備(2) 音楽:伴奏の創作(2) 照明:操作練習(2)			割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(45分)。			
11	役割ごとの作成⑦: (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:衣装の作成準備(3) 音楽:伴奏の創作(3) 照明:操作練習(3)			割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(45分)。			
12	役割ごとの作業⑧: (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:衣装の作成(1) 音楽:楽曲の仕上げ(1) 照明:操作練習(1)			割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(45分)。			
13	役割ごとの作業⑨: (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:衣装の作成(2) 音楽:楽曲の仕上げ(2) 照明:操作練習(2)			割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(45分)。			
14	役割ごとの作業⑩: (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:衣装の作成(3) 音楽:楽曲の仕上げ(3) 照明:操作練習(3)			割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(45分)。			
15	前期のまとめ・後期に向けて (田尻、井上、田中路)			・前期に学んだことをまとめる(45分)			

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
授業内に口頭で行う。		
【成績の評価方法】		
授業参加度・貢献度50%		
期末レポート 50%		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
特になし		
【参考書】		
授業内に指示		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
特になし		
【オフィスアワー】		
【教員連絡先】		
mtajiri@g.t-junshin.ac.jp sinoue@g.t-junshin.ac.jp mtanaka@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】 繰り返し受講可科目。 本授業履修後、舞台表現法Bを継続して履修することが望ましい。 緊急事態宣言発令等で授業の実施計画、実施形態が変更となる場合がある。		

授業科目名	舞台表現B	担当教員名	田尻真理子・井上 救・田中路				
コード	22ART205	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
年次/期間	1年次～4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
子どもたちにとって、日々の保育における劇あそびや行事における音楽劇は大きな楽しみのひとつである。そして子どもたちに関わる教諭や保育士は、このような「劇」に関わるパフォーマンスを子どもたちと行う方法を熟知する必要がある。この「劇」に含まれるパフォーマンスとして、オペレッタやミュージカル、演劇といった舞台表現が挙げられるが、これらは音楽、舞踊、台詞といった様々なパフォーマンスが結びついたものである。またこのようなパフォーマンスを実践するにあたっては、観るものに伝えることを常に意識しなければならない。本授業では舞台表現に含まれる多様なパフォーマンスについて理論と実践の両面から学んだ上で、観客に伝わる表現を考えながら、完成度の高い舞台作品の上演を目指す。また出演者としてだけでなく、楽曲演奏や照明、舞台装置、衣装といった役割についても学び、実際に担当に分かれて舞台作品を創り上げていく。最終的には12月に行われる「純心こどもの国のクリスマス」において、舞台作品を子どもたちの前で上演する。このことを通して、各受講者の表現技術や各役割についての知識・技能、また他者と協同してひとつの作品を創り上げるチームワークを育むことを目指す。受講者には、将来子どもたちと共に劇あそびなどを行う場合のヒントを常に探しながら履修してほしい。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
							ディプロマ・ポリシー ① ② ③
1	舞台表現に関わる様々な役割とその内容を理解し、説明できる。						○
2	与えられた役割に対して責任を持ち、舞台作成に向けて他者と協力して作業ができる。						○
3	「純心こどもの国のクリスマス」において、他者と協同しながらまとまった舞台作品を上演する。						○
【授業計画】							
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	オリエンテーション 脚本読み合わせ 役割ごとの作業進捗報告 (田尻、井上、田中路)	・本授業の目的について理解し、不明な点があれば次時に質問できるようにしておく(30分)。 ・脚本を読み込み、台詞の表現や舞台の構想を検討する(30分)。					
2	役割ごとの作業①: 役者:読み合わせ 脚本:場ごとの推敲 (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:装置のデザイン 音楽:楽曲の確認、編成確認 照明:操作練習	・割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(60分)。					
3	役割ごとの作業②: 役者:場ごとの立ち練習(前半) 脚本:場ごとの推敲 (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:装置の制作 音楽:ピアノ、楽器合わせ 照明:操作練習	・割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(60分)。					
4	役割ごとの作業③: 役者:場ごとの立ち練習(後半) 脚本:立ち稽古の確認 (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:装置の制作 音楽:ピアノ、楽器合わせ 照明:操作練習	・割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(60分)。					
5	役割ごとの作業④: 役者:歌合わせ 脚本:展開の再確認 (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:装置の制作 音楽:ピアノ、楽器合わせ 照明:操作練習	・割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(60分)。					
6	役割ごとの作業⑤: 役者:通し練習 脚本:尺の確認 (田尻、井上、田中路) 装置・衣装:装置の制作 音楽:通し練習 照明:通し練習	・割り振られた役割における自分の作業を確認し、進める(60分)。					
7	全体練習① ステージの位置関係確認 場ごとの練習 (田尻、井上、田中路)	・全体練習の反省点を確認し、次時までに改善する(60分)。					
8	全体練習② 場ごとの練習 (田尻、井上、田中路)	・全体練習の反省点を確認し、次時までに改善する(60分)。					
9	全体練習③ 場ごとの練習 (田尻、井上、田中路)	・全体練習の反省点を確認し、次時までに改善する(60分)。					
10	全体練習④ 通し練習 (田尻、井上、田中路)	・全体練習の反省点を確認し、次時までに改善する(60分)。					
11	全体練習⑤ 通し練習 (田尻、井上、田中路)	・全体練習の反省点を確認し、次時までに改善する(60分)。					
12	全体練習⑥ 通し練習 (田尻、井上、田中路)	・全体練習の反省点を確認し、次時までに改善する(60分)。					
13	リハーサル (田尻、井上、田中路)	・リハーサルの反省点を確認し、次時までに改善する(60分)。					
14	「純心こどもの国のクリスマス」本番 (田尻、井上、田中路)	・本番を振り返り、各自反省点をまとめる(60分)。					
15	本番映像鑑賞/反省 後期のまとめ (田尻、井上、田中路)						

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
授業内に口頭で行う。		
【成績の評価方法】		
授業参観度・貢献度50% 期末レポート 50%		
【履修申請上の条件】		
「純心こどもの国のクリスマス」(第14回授業、2021年12月11日(土))当日に出席できること。		
【教科書】		
特になし		
【参考書】		
授業内に指示する。		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
特になし		
【オフィスアワー】		
【教員連絡先】		
mtajiri@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】 繰り返し受講可。 舞台表現法Bのみの履修も可能であるが、舞台表現法Aと継続した履修が望ましい。 緊急事態宣言発令等により授業計画、授業実施形態が変更になる場合がある。		

授業科目名	造形表現A	担当教員名	井上 救					
コード	22ART206	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生	
年次/期間	1～4年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
①	主体的に心理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。							
②	多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。							
③	こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。							
【授業の概要】								
こどもが、楽しく遊びながら感性を育む「造形活動」を保育者の立場として支援するためには、用具、材料などの豊富な知識、実際に活動するための綿密な計画、また、その場における臨機応変な対処ができる柔軟性など、様々なスキルが求められている。これらを踏まえ、本授業では、敢えて、保育の現場で馴染みのない素材や技法を使用し、材料、道具についてのより一層の理解を深め、そこから、創意工夫し応用、発展させ、保育の現場で生かすための条件等を探り、問題解決力や対応力に繋げることを学んで行く。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー		
						①	②	③
1 造形に対する理解を深め、表現に繋げることができる。								○
2 こども達の造形活動に必要なスキル(立案、計画、材料選択、問題解決能力など)を体得することができる。								○
3 他者と協同して活動し、達成感を共有していく体験を実践できる。								○
【授業計画】								
授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	オリエンテーション:授業の概要 遊びを創る 課題1-1 「マーブルマシーン」(調査)		予習(約20分):本授業のシラバスを一読しておくこと 制作のための素材や技法の種類や特徴を調べておくこと					
2	遊びを創る 課題1-2 「マーブルマシーン」(調査及び検証)		予習(約20分):次回の授業のため調査結果をまとめておくこと					
3	遊びを創る 課題1-3 「マーブルマシーン」(制作準備及び図面等の作成)		復習(約30分～):自主作業					
4	遊びを創る 課題1-4 「マーブルマシーン」(制作作業)		復習(約30分～):自主作業					
5	遊びを創る 課題1-5 「マーブルマシーン」(制作作業)		復習(約30分～):自主作業					
6	遊びを創る 課題1-6 「マーブルマシーン」(発表とまとめ)		予習(約20分):発表のための準備					
7	最新技術を使った表現 課題2-1 「レーザーカッター」(機能調査)		予習(約20分):次回の授業のため調査結果をまとめておくこと					
8	最新技術を使った表現 課題2-2 「レーザーカッター」(制作準備)		復習(約30分～):自主作業					
9	最新技術を使った表現 課題2-3 「レーザーカッター」(制作作業)		復習(約30分～):自主作業					
10	最新技術を使った表現 課題2-4 「レーザーカッター」(発表とまとめ)		予習(約20分):発表のための準備					
11	特殊加工を使った表現 課題3-1 「サンドブラスト」(機能調査)		予習(約20分):次回の授業のため調査結果をまとめておくこと					
12	特殊加工を使った表現 課題3-2 「サンドブラスト」(制作作業)		復習(約30分～):自主作業					
13	特殊加工を使った表現 課題3-3 「サンドブラスト」(発表とまとめ)		予習(約20分):発表のための準備					
14	素材を生かした制作 課題4-1 「木で作る玩具」(調査と制作作業)		予習(約20分):次回の授業のため調査結果をまとめておくこと					
15	素材を生かした制作 課題4-2 「木で作る玩具」(発表とまとめ)		予習(約20分):発表のための準備					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			○	特になし				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート								
④:グループワーク			○					
⑤:プレゼンテーション			○					
⑥:実習・フィールドワーク			○					
【課題のフィードバック】								
・制作方法など授業内で適宜フィードバックを行う								
【成績の評価方法】								
授業参加度:20% 課題制作作品提出(記録画像):30% 課題のまとめ提出:30% 発表:20%								
1. どの程度、積極的に授業時の活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。								
2. 授業課題で制作した作品の提出を「課題制作作品提出」として評価する。評価の内訳は、課題の主旨に即しているか、工夫がみられるか等を基準として内容の総合評価とする。								
3. 課題のまとめ提出は課題内容を理解しているか、資料など十分に調査しているか、分かり易く伝えられているか等の総合評価とする。								
4. 発表は内容だけでなく、発表に向かう姿勢も評価される。								

<p>【履修申請上の条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚れても良い服装で(エプロン等でも良い)取り組むこと。 ・基本的な道具は毎回持参のこと(オリエンテーション時に詳細説明)。
<p>【教科書】</p> <p>特になし(必要に応じて参考資料を配布)</p>
<p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『生活事例からはじめる 造形表現』 吉田 収 宮川 萬寿美 編著 青踏社 ・『保育をひらく造形表現』 榎 英子 株式会社萌文書林 ・『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』 樋口 一成 編著 株式会社萌文書林
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>特になし</p>
<p>【オフィスアワー】</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>sinoue@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>特になし</p>

授業科目名	造形表現B	担当教員名	井上 救				
コード	22ART207	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
年次/期間	1～4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 主体的に心理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。						
◎	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
こどもが、楽しく遊びながら感性を育む「造形活動」を保育者の立場として支援するためには、用具、材料などの豊富な知識、実際に活動するための綿密な計画、また、その場における臨機応変な対処ができる柔軟性など、様々なスキルが求められている。これらを踏まえ、本授業では、「造形表現A」から引き続き、敢えて、保育の現場で馴染みのない素材や技法を使用し、材料、道具についてのより一層の理解を深め、そこから、創意工夫し応用、発展させ、保育の現場で生かすための条件等を探り、問題解決力や対応力に繋げることを学んで行く。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
1 造形に対する理解を深め、表現に繋げることができる。							○
2 こども達の造形活動に必要なスキル(立案、計画、材料選択、問題解決能力など)を体得することができる。							○
3 他者と協同して活動し、達成感を共有していく体験を実践できる。							○
【授業計画】							
	授業計画				授業外学修(予習・復習・課題等)		
1	オリエンテーション:授業の概要 音の表現 課題1-1 「アコーディオン」(調査)				予習(約20分):本授業のシラバスを一読しておくこと 次回の授業のため調査結果をまとめておくこと		
2	音の表現① 課題1-2 「アコーディオン」(制作作業)				復習(約30分～):自主作業		
3	音の表現① 課題1-3 「アコーディオン」(制作作業)				復習(約30分～):自主作業		
4	音の表現① 課題1-4 「アコーディオン」(発表とまとめ)				予習(約20分):発表のための準備		
5	幾何的な造形 課題2-1 「テンセグリティ」(調査)				予習(約20分):次回の授業のため調査結果をまとめておくこと		
6	幾何的な造形 課題2-2 「テンセグリティ」(制作作業)				復習(約30分～):自主作業		
7	幾何的な造形 課題2-3 「テンセグリティ」(発表とまとめ)				復習(約30分～):自主作業		
8	音の表現② 課題3-1 「ホイッスル」(調査)				予習(約20分):発表のための準備		
9	音の表現② 課題3-2 「ホイッスル」(制作作業)				予習(約20分):次回の授業のため調査結果をまとめておくこと		
10	音の表現② 課題3-3 「ホイッスル」(制作作業)				復習(約30分～):自主作業		
11	音の表現② 課題3-4 「ホイッスル」(発表とまとめ)				予習(20分～1時間):制作においての問題点の有無とその解決方法について調査すること。次回作業のための自主制作。		
12	遊びをプログラミング 課題4-1 「Scratch」(調査)				予習(約20分):次回の授業のため調査結果をまとめておくこと		
13	遊びをプログラミング 課題4-2 「Scratch」(制作作業)				復習(約30分～):自主作業		
14	遊びをプログラミング 課題4-3 「Scratch」(制作作業)				復習(約30分～):自主作業		
15	遊びをプログラミング 課題4-4 「Scratch」(まとめと発表)				予習(約20分):発表のための準備		
【アクティブラーニング】				チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)				○	特になし		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク				○			
⑤:プレゼンテーション				○			
⑥:実習・フィールドワーク				○			
【課題のフィードバック】							
・制作方法など授業内で適宜フィードバックを行う							
【成績の評価方法】							
授業参加度:20% 課題制作作品提出(記録画像):30% 課題のまとめ提出:30% 発表:20%							
1. どの程度、積極的に授業時の活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。							
2. 授業課題で制作した作品の提出を「課題制作作品提出」として評価する。評価の内訳は、課題の主旨に即しているか、工夫がみられるか等を基準として内容の総合評価とする。							
3. 課題のまとめ提出は課題内容を理解しているか、資料など十分に調査しているか、分かり易く伝えられているか等の総合評価とする。							
4. 発表は内容だけでなく、発表に向かう姿勢も評価される。							

<p>【履修申請上の条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚れても良い服装で(エプロン等でも良い)取り組むこと。 ・基本的な道具は毎回持参のこと(オリエンテーション時に詳細説明)。
<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本> 株式会社チャイルド社
<p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『生活事例からはじめる 造形表現』吉田 収 宮川 萬寿美 編著 青踏社 ・『保育をひらく造形表現』横 英子 株式会社萌文書林 ・『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』樋口 一成 編著 株式会社萌文書林
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>特になし</p>
<p>【オフィスアワー】</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>sinoue@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>特になし</p>

授業科目名	こども文化特講A	担当教員名	佐野 通夫				
コード	22CHI307	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			○
年次/期間	2年次～4年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① 主体的に心理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
現在、保育・小学校の現場では、外国籍の子どもや外国につながる子どもたちが増加しており、保育・教育の多文化・国際化に対応できる保育者・教師が求められている。そこで、諸外国や日本の現状をふまえながら、外国につながる子どもや保護者への支援の実際を学び、多文化保育・教育のあり方について学修する。さらに、自ら「問い」をもち、調べ、考えられ、各分野についての新しい知見が身に付けられるように学びを深める。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
1 少子高齢化が進むとともに、多言語・多文化化しつつある日本社会で、自ら課題を発見し、解決できる能力を備えることができる。							○
2 学生生活や日常生活の話題を取り上げながら、文化によって異なる多様な価値観について、母語と外国語の視点からコミュニケーションを通じて相互理解を深め、異文化間コミュニケーションや他者理解の基礎を培うことができる。							○
3 言語の違いを超えた相互理解のために、どのような工夫ができるのかを探索することができるようになる。							○
【授業計画】							
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	多文化保育・教育とは何か ・多文化主義と同化主義について考えてみる。	予習(40分):シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加すること。 復習(140分):課題について考えをまとめる。					
2	在日外国人の動向と福祉ニーズ 在日外国人の現状や外国人支援の課題について学ぶ。	予習(90分):教科書第1章をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):在日外国人の増加が日本社会にもたらす影響についてまとめる。					
3	外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援(保育) ① 言葉に関する事例 ② 食事に関する事例 ③ 保護者への支援の事例	予習(90分):教科書第2章をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):日本における外国籍の子どもと日本国籍の子どもの就学扱いの相違点についてまとめる。					
4	外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援(小学校) ① 入学に関する事例 ② 授業・学力に関する事例 ③ 保護者への支援の事例	予習(90分):教科書第3章をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):母語とは何か、母語の重要性についてまとめる。					
5	多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割	予習(90分):教科書第4章をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):日本人らしさとはどのようなものか、まとめる。					
6	行政の多文化共生への取り組み —多文化保育・教育を踏まえて—	予習(90分):教科書第5章をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
7	地域の国際交流、外国人支援	予習(90分):教科書第6章をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
8	地域の国際交流、外国人支援	予習(90分):教科書第7章をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
9	今後の多文化保育・教育の課題と展望	予習(90分):教科書第8章をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
10	日本の多文化社会の現状と課題	予習(90分):教科書第9章をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
11	世界の多文化社会の現状と課題	予習(90分):教科書第10章をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
12	世界の子育て支援の現状(1): 韓国の事例	予習(90分):多文化絵本を選び、ブックトークの準備をする。 復習(90分):提出物<多文化絵本の窓>を完成させる					
13	世界の子育て支援の現状(2): ジンバブエの事例	予習(90分):多文化絵本を選び、ブックトークの準備をする。 復習(90分):提出物<多文化絵本の窓>を完成させる					

14	自分の住んでいる地域の国際交流、外国人支援について調べ、まとめる。	予習(90分):グループごとに自分の地域の国際交流について調査をする。 復習(90分):地域の国際交流についてまとめる。
15	日本の多文化社会の現状と課題を整理した上で、多文化共生に関わる具体的政策課題を解決する方法を、ディスカッションやグループワークなどを通じて探る。	予習(90分):日本の多文化社会の現状と課題を整理しておく。 復習(90分):ディスカッションやグループワークなどを通じて探った内容についてまとめる。
【アクティブラーニング】		チェック欄
①:PBL(課題解決型学習)		○
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		○
⑤:プレゼンテーション		○
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
【授業外学修】 ・授業外学修を参照して課題に取り組む。課題は次の授業時に提出すること。 ・授業では、それらの課題を活用し、発表とフィードバックを行う。 ・発表課題については、作成したスクリプトへの指導及び発表のパフォーマンス評価でフィードバックを行う。		
【成績の評価方法】 〈評価基準〉 ・「到達目標」に明示している項目を評価基準とする。 〈割合〉 ・授業中のアクティブ・ラーニングなどの参加状況(授業態度含む)30%、基本的な知識、理解に関する課題のまとめ(レポート含む)30%、提出物40%		
【履修申請上の条件】 特になし		
【教科書】 「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会／編『クラスメイトは外国人 課題編——私たちが向き合う多文化共生の現実』明石書店2020		
【参考書】 適宜プリントを配布する		
【オープンな教育リソース】 「日本発☆子どもの本、海を渡る」 https://www.kodomo.go.jp/anv10th/index.html		
【担当教員の実務経験】 特になし		
【オフィスアワー】 ・水曜 4限		
【教員連絡先】 msano@t-junshin.ac.jp		
【備考】 特になし		

授業科目名	こども文化特講B	担当教員名	佐野 通夫				
コード	22CHI308	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			○
年次/期間	2～4年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① 主体的に心理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
現在、保育・小学校の現場では、外国籍の子どもや外国につながる子どもたちが増加しており、保育・教育の多文化・国際化に対応できる保育者・教師が求められている。そこで、諸外国や日本の現状をふまえながら、外国につながる子どもや保護者への支援の実際を学び、多文化保育・教育のあり方について学修する。さらに、自ら「問い」をもち、調べ、考えられ、各分野についての新しい知見が身に付けられるように学びを深める。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
1 少子高齢化が進むとともに、多言語・多文化化しつつある日本社会で、自ら課題を発見し、解決できる能力を備えることができる。							○
2 学生生活や日常生活の話題を取り上げながら、文化によって異なる多様な価値観について、母語と外国語の視点からコミュニケーションを通じて相互理解を深め、異文化間コミュニケーションや他者理解の基礎を培うことができる。							○
3 言語の違いを超えた相互理解のために、どのような工夫ができるのかを探索することができるようになる。							○
【授業計画】							
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	多文化保育・教育とは何か ・多文化主義と同化主義について考えてみる。	予習(40分):シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加すること。 復習(140分):課題について考えをまとめる。					
2	在日外国人の動向と福祉ニーズ 在日外国人の現状や外国人支援の課題について学ぶ。	予習(90分):教科書第1話・第2話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):在日外国人の増加が日本社会にもたらす影響についてまとめる。					
3	外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援(保育) ① 言葉に関する事例 ② 食事に関する事例 ③ 保護者への支援の事例	予習(90分):教科書第3話・第4話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):日本における外国籍の子どもと日本国籍の子どもの就学扱いの相違点についてまとめる。					
4	外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援(小学校) ① 入学に関する事例 ② 授業・学力に関する事例 ③ 保護者への支援の事例	予習(90分):教科書第5話・第6話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):母語とは何か、母語の重要性についてまとめる。					
5	多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割	予習(90分):教科書第7話・第8話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):日本人らしさとはどのようなものか、まとめる。					
6	行政の多文化共生への取り組み ー多文化保育・教育を踏まえてー	予習(90分):教科書第9話・第10話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
7	地域の国際交流、外国人支援	予習(90分):教科書第11話・第12話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
8	地域の国際交流、外国人支援	予習(90分):教科書第13話・第14話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
9	今後の多文化保育・教育の課題と展望	予習(90分):教科書第15話・第16話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
10	日本の多文化社会の現状と課題	予習(90分):教科書第17話・第18話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
11	世界の多文化社会の現状と課題	予習(90分):教科書第19話・第20話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
12	世界の子育て支援の現状(1): 韓国の事例	予習(90分):多文化絵本を選び、ブックトークの準備をする。 復習(90分):提出物<多文化絵本の窓>を完成させる					
13	世界の子育て支援の現状(2): ジンバブエの事例	予習(90分):多文化絵本を選び、ブックトークの準備をする。 復習(90分):提出物<多文化絵本の窓>を完成させる					
14	自分の住んでいる地域の国際交流、外国人支援について調べ、まとめる。	予習(90分):グループごとに自分の地域の国際交流について調査をする。 復習(90分):地域の国際交流についてまとめる。					

15	日本の多文化社会の現状と課題を整理した上で、多文化共生に関わる具体的政策課題を解決する方法を、ディスカッションやグループワークなどを通じて探る。	予習(90分):日本の多文化社会の現状と課題を整理しておく。 復習(90分):ディスカッションやグループワークなどを通じて探った内容についてまとめる。
【アクティブラーニング】		チェック欄
①:PBL(課題解決型学習)		○
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		○
⑤:プレゼンテーション		○
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
【授業外学修】 ・授業外学修を参照して課題に取り組む。課題は次の授業時に提出すること。 ・授業では、それらの課題を活用し、発表とフィードバックを行う。 ・発表課題については、作成したスクリプトへの指導及び発表のパフォーマンス評価でフィードバックを行う。		
【成績の評価方法】 (評価基準) ・「到達目標」に明示している項目を評価基準とする。 (割合) ・授業中のアクティブ・ラーニングなどの参加状況(授業態度含む)30%、基本的な知識、理解に関する課題のまとめ(レポート含む)30%、提出物40%		
【履修申請上の条件】 特になし		
【教科書】 「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会／編『クラスメイトは外国人』明石書店2009		
【参考書】 適宜プリントを配布する		
【オープンな教育リソース】 「日本発☆子どもの本、海を渡る」 https://www.kodomo.go.jp/anv10th/index.html		
【担当教員の実務経験】 特になし		
【オフィスアワー】 ・月曜 4限		
【教員連絡先】 msano@t-junshin.ac.jp		
【備考】 特になし		

授業科目名	こども文化特講C		担当教員名	佐野 通夫						
コード	22CHI309		区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生		
					○			○		
年次/期間	2～4年次/後期		単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】									
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。									
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。									
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。									
【授業の概要】										
現在、保育・小学校の現場では、外国籍の子どもや外国につながる子どもたちが増加しており、保育・教育の多文化・国際化に対応できる保育者・教師が求められている。そこで、諸外国や日本の現状をふまえながら、外国につながる子どもや保護者への支援の実際を学び、多文化保育・教育のあり方について学修する。さらに、自ら「問い」をもち、調べ、考えられ、各分野についての新しい知見が身に付けられるように学びを深める。										
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								ディプロマ・ポリシー		
								①	②	③
1 少子高齢化が進むとともに、多言語・多文化化しつつある日本社会で、自ら課題を発見し、解決できる能力を備えることができる。										○
2 学生生活や日常生活の話題を取り上げながら、文化によって異なる多様な価値観について、母語と外国語の視点からコミュニケーションを通じて相互理解を深め、異文化間コミュニケーションや他者理解の基礎を培うことができる。										○
3 言語の違いを超えた相互理解のために、どのような工夫ができるのかを探索することができるようになる。										○
【授業計画】										
	授業計画				授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	多文化保育・教育とは何か ・多文化主義と同化主義について考えてみる。				予習(40分):シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加すること。 復習(140分):課題について考えをまとめる。					
2	在日外国人の動向と福祉ニーズ 在日外国人の現状や外国人支援の課題について学ぶ。				予習(90分):教科書第1話・第2話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):在日外国人の増加が日本社会にもたらす影響についてまとめる。					
3	外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援(保育) ① 言葉に関する事例 ② 食事に関する事例 ③ 保護者への支援の事例				予習(90分):教科書第3話・第4話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):日本における外国籍の子どもと日本国籍の子どもの就学扱いの相違点についてまとめる。					
4	外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援(小学校) ① 入学に関する事例 ② 授業・学力に関する事例 ③ 保護者への支援の事例				予習(90分):教科書第5話・第6話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):母語とは何か、母語の重要性についてまとめる。					
5	多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割				予習(90分):教科書第7話・第8話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):日本人らしさとはどのようなものか、まとめる。					
6	行政の多文化共生への取り組み ー多文化保育・教育を踏まえてー				予習(90分):教科書第9話・第10話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
7	地域の国際交流、外国人支援				予習(90分):教科書第11話・第12話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
8	地域の国際交流、外国人支援				予習(90分):教科書第13話・第14話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
9	今後の多文化保育・教育の課題と展望				予習(90分):教科書第15話・第16話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
10	日本の多文化社会の現状と課題				予習(90分):教科書第17話・第18話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
11	世界の多文化社会の現状と課題				予習(90分):教科書第19話・第20話をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。					
12	世界の子育て支援の現状(1): 韓国の事例				予習(90分):多文化絵本を選び、ブックトークの準備をする。 復習(90分):提出物<多文化絵本の窓>を完成させる					
13	世界の子育て支援の現状(2): ジンバブエの事例				予習(90分):多文化絵本を選び、ブックトークの準備をする。 復習(90分):提出物<多文化絵本の窓>を完成させる					
14	自分の住んでいる地域の国際交流、外国人支援について調べ、まとめる。				予習(90分):グループごとに自分の地域の国際交流について調査をする。 復習(90分):地域の国際交流についてまとめる。					

15	日本の多文化社会の現状と課題を整理した上で、多文化共生に関わる具体的政策課題を解決する方法を、ディスカッションやグループワークなどを通じて探る。	予習(90分):日本の多文化社会の現状と課題を整理しておく。 復習(90分):ディスカッションやグループワークなどを通じて探った内容についてまとめる。
【アクティブラーニング】		チェック欄
①:PBL(課題解決型学習)		○
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		○
⑤:プレゼンテーション		○
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
【授業外学修】 ・授業外学修を参照して課題に取り組む。課題は次の授業時に提出すること。 ・授業では、それらの課題を活用し、発表とフィードバックを行う。 ・発表課題については、作成したスクリプトへの指導及び発表のパフォーマンス評価でフィードバックを行う。		
【成績の評価方法】 〈評価基準〉 ・「到達目標」に明示している項目を評価基準とする。 〈割合〉 ・授業中のアクティブ・ラーニングなどの参加状況(授業態度含む)30%、基本的な知識、理解に関する課題のまとめ(レポート含む)30%、提出物40%		
【履修申請上の条件】 特になし		
【教科書】 「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会／編『クラスメイトは外国人 入門編 -はじめて学ぶ多文化共生-』明石書店2013		
【参考書】 適宜プリントを配布する		
【オープンな教育リソース】 「日本発☆子どもの本、海を渡る」 https://www.kodomo.go.jp/anv10th/index.html		
【担当教員の実務経験】 特になし		
【オフィスアワー】 ・月曜 4限		
【教員連絡先】 msano@t-junshin.ac.jp		
【備考】 特になし		

授業科目名	こども文化特講F	担当教員名	田中 路			
コード	19CHI312	区分 (必修・選択)	卒業必修	保育士課程 必修	幼稚園教諭課程 必修	選択 ○
年次/期間		単位/時間数/形態				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。					
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。					
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。					
【授業の概要】						
本授業ではトーンチャイムの合奏を体験し、その奏法や特性を理解した上で、12月に行われる「純心こどもの国のクリスマス」におけるトーンチャイムの演奏発表に向け、クラス単位で練習に取り組み、完成度の高い演奏を目指す。各人が練習、発表、振り返りという一連のプロセスを経験することで、合奏の教育的意義についても検討する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	③
1	トーンチャイムの奏法を理解し、メンバーと共に息の合った演奏を仕上げる			○		
2						
3						
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	オリエンテーション:授業の概要、授業の進め方などについての説明 トーンチャイムの基礎(音の鳴らし方、止め方、演奏姿勢)	予習:トーンチャイムの概要を調べておく(30分) 復習:トーンチャイムの基礎についての復習(15分)				
2	トーンチャイムの合奏(1):グループによる楽曲の練習(担当音決定、譜読み)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
3	トーンチャイムの合奏(2):小グループによる楽曲の練習(部分練習)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
4	トーンチャイムの合奏(3):小グループによる楽曲の練習(強弱の工夫)	予習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分) 復習:合奏練習を進める(90分)				
5	トーンチャイムの合奏(4):小グループによる楽曲の練習(速度の工夫)	予習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分) 復習:合奏練習を進める(90分)				
6	トーンチャイムの合奏(5):小グループによる楽曲の練習(通し練習)、グループ発表	予習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分) 復習:グループ発表の反省を行う(15分)				
7	トーンチャイムの合奏(6):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (担当音決定、譜読み)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
8	トーンチャイムの合奏(7):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (部分練習)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
9	トーンチャイムの合奏(8):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (強弱の工夫)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
10	トーンチャイムの合奏(9):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (速度の工夫)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
11	トーンチャイムの合奏(10):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (通し練習①)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
12	トーンチャイムの合奏(10):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (通し練習②)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
13	トーンチャイムの合奏(10):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (リハーサル)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
14	「純心こどもの国のクリスマス」における演奏発表	予習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
15	「純心こどもの国のクリスマス」の反省	予習・復習:本番の演奏を振り返り、反省点を整理しておく(60分)				
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク		○				
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
合奏練習については次回授業時までに各グループもしくは個人で進め、次回授業時に教員が成果をチェックしコメントする。						
【成績の評価方法】						
「純心こどもの国のクリスマス」に向けた準備、授業全体に臨む姿勢60%。第15回で提出する振り返りシートの内容40%。						
【履修申請上の条件】						
12月の「純心こどもの国のクリスマス」に必ず出演できること。グループワークが中心となるので、他の学生と互いに高め合いながら取り組むこと。授業時間外での準備が必要となる場合もあるので、協力し合って取り組むこと。メンバーが揃わないと練習に支障が出るため、欠席をしないこと。						

【教科書】 なし
【参考書】 なし
【オープンな教育リソース】 なし
【担当教員の実務経験】 なし
【オフィスアワー】
【教員連絡先】 m_tanaka@gt-iunshin.ac.jp
【備考】

授業科目名	こども文化特講F	担当教員名	田中 路			
コード	22CHI312	区分 (必修・選択)	卒業必修	保育士課程 必修	幼稚園教諭課程 必修	選択 ○
年次/期間	2～4年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。					
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。					
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。					
【授業の概要】						
本授業ではトーンチャイムの合奏を体験し、その奏法や特性を理解した上で、12月に行われる「純心こどもの国のクリスマス」におけるトーンチャイムの演奏発表に向け、クラス単位で練習に取り組み、完成度の高い演奏を目指す。各人が練習、発表、振り返りという一連のプロセスを経験することで、合奏の教育的意義についても検討する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
1 トーンチャイムの奏法を理解し、メンバーと共に息の合った演奏を上げることができる						
2						
3						
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	オリエンテーション:授業の概要、授業の進め方などについての説明 トーンチャイムの基礎(音の鳴らし方、止め方、演奏姿勢)	予習:トーンチャイムの概要を調べておく(30分) 復習:トーンチャイムの基礎についての復習(15分)				
2	トーンチャイムの合奏(1):グループによる楽曲の練習(担当音決定、譜読み)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
3	トーンチャイムの合奏(2):小グループによる楽曲の練習(部分練習)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
4	トーンチャイムの合奏(3):小グループによる楽曲の練習(強弱の工夫)	予習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分) 復習:合奏練習を進める(90分)				
5	トーンチャイムの合奏(4):小グループによる楽曲の練習(速度の工夫)	予習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分) 復習:合奏練習を進める(90分)				
6	トーンチャイムの合奏(5):小グループによる楽曲の練習(通し練習)、グループ発表	予習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分) 復習:グループ発表の反省を行う(15分)				
7	トーンチャイムの合奏(6):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (担当音決定、譜読み)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
8	トーンチャイムの合奏(7):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (部分練習)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
9	トーンチャイムの合奏(8):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (強弱の工夫)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
10	トーンチャイムの合奏(9):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (速度の工夫)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
11	トーンチャイムの合奏(10):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (通し練習①)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
12	トーンチャイムの合奏(10):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (通し練習②)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
13	トーンチャイムの合奏(10):「純心こどもの国のクリスマス」に向けた全体練習 (リハーサル)	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
14	「純心こどもの国のクリスマス」における演奏発表	予習:担当音を確認し、楽譜を見直す(30分)				
15	「純心こどもの国のクリスマス」の反省	予習・復習:本番の演奏を振り返り、反省点を整理しておく(60分)				
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク		○				
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
合奏練習については次回授業時までに各グループ(もしくは個人)で進め、次回授業時に教員が成果をチェックしコメントする。						
【成績の評価方法】						
「純心こどもの国のクリスマス」に向けた準備、授業全体に臨む姿勢60%。第15回で提出する振り返りシートの内容40%。						
【履修申請上の条件】						
12月の「純心こどもの国のクリスマス」に必ず出演できること。グループワークが中心となるので、他の学生と互いに高め合いながら取り組むこと。授業時間外での準備が必要となる場合もあるので、協力し合って取り組むこと。メンバーが揃わないと練習に支障が出るため、欠席をしないこと。						

【教科書】 なし
【参考書】 なし
【オープンな教育リソース】 なし
【担当教員の実務経験】 なし
【オフィスアワー】
【教員連絡先】 m.tanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】

授業科目名	アカデミックライティング	担当教員名	田中 路			
コード	22LET102	区分 (必修・選択)	卒業必修	保育士課程 必修	幼稚園教諭課程 必修	選択
年次/期間	2年/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。					
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。					
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。					
【授業の概要】						
本授業は、1年次の純心チュートリアルを活かした実践編である。1年次に行ったグループワークを発展させ、論文執筆の一連の流れを学生各人が行う。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
						ディプロマ・ポリシー
1 論文執筆の作法を身につけ、テーマの絞込み、論文形式での執筆ができるようになる。						①
2						②
3						③
						④
						⑤
【授業計画】						
	授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)		
1	導入:授業概要、授業の進め方、評価方法等 キーワードカード、書誌カード作成法(奥付の意味と見方)の復習			シラバスを熟読して頂くこと(第1回事前・30分) B6サイズ情報カードおよびB6ファイル二冊を用意して頂く。		
2	純心チュートリアル復習、文献収集法、 論文作成のステップ			1年次の純心チュートリアルの資料を見直して頂く (第2回事前・60分)		
3	論文の体裁と規則、その意味			第2回配布資料を熟読し、キーワードカードを作成する(第3回事前・60分) ←第3回授業時に回収、添削後返却		
4	トピック選定			トピックに関する文献複数選定、書誌カード(同一資料につき二枚)作成(第4回事前・120分) ←書誌カードのうち一枚を第4回授業時に回収		
5	テーマ決定			トピックに関する文献選定、書誌カード(同一資料につき二枚)、キーワードカード作成(第5回事前・120分) ←書誌カードのうち一枚を第5回授業時に回収		
6	キーワードカード整理⇔アウトライン構想①			キーワードカード作成(第6回事前・120分)		
7	キーワードカード整理⇔アウトライン構想②			キーワードカード作成(第7回事前・120分)		
8	アウトライン決定			キーワードカード作成(第8回事前・120分)		
9	論文執筆 (五階パソコン室集合)			パラグラフ毎のキーワードカード整理(第9回事前・120分)		
10	論文執筆 (五階パソコン室)			パラグラフ毎のキーワードカード整理(第10回事前・120分)		
11	添削に沿って論文修正 発表原稿作成 (五階パソコン室)			第11回2日前までに論文データを担当教員に送付		
12	添削に沿って発表原稿修正 レジュメ・パワーポイント作成 (五階パソコン室)			第12回2日前までに発表原稿データを担当教員に送付		
13	添削に沿ってレジュメ・パワーポイント修正			第13回2日前までにレジュメ・パワーポイントデータを担当教員に送付		
14	発表			第14回2日前までに完成版レジュメ、パワーポイントデータを担当教員に送付		
15	発表と総括 発表評価シート記入 振り返りシートの記入			発表評価シート記入(14回事後→15回に)		
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション		○				
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
添削						
【成績の評価方法】						
演習課題のとりくみ:50%						
課題の提出状況および内容:50%						
【履修申請上の条件】						
特になし						

【教科書】 特になし
【参考書】 授業時に指示
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】
【教員連絡先】 m.tanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 作成したデータは複数個所に保存すること。 メールで教員宛データを送付した場合には、24時間以内に教員からの返信がある。教員からの返信が確認できない場合には、データ未着と考え、直接教員にUSBでデータを提出すること。

授業科目名	リミックⅢ	担当教員名	平島 美保					
コード	22EDU209	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生	
年次/期間	2～4年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
①	主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。							
②	多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。							
③	こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。							
【授業の概要】								
リミックという手段は、音楽教育の分野だけでなく、むしろ音楽療法、幼児教育の分野で応用されている。これは無意識に身体が音楽に反応しているという特性を意識強化することによって、人間の内側にある何かを揺さぶり、覚醒させ、感性・感覚に刺激を与えるということからである。特に幼児期には、知識が先行する前に行う方がより効果を上げる。リミックⅢでは、Ⅰ、Ⅱで体験した音楽の諸要素の体験を更に深めながら、ニュアンスを中心にした内側の部分のトレーニング、また、実際にこども達に行う「動きを伴うソルフェージュ(リミックソルフェージュ)」を体験する。サブジェクトとして「音の高低」「音の方向性」「長調と短調の響き」「主和音・属七の和音・下屬和音の響き」「長3和音」「ポリリズム」「拍の分割形」「リズムフレーズ」、また、「5音音階」「全音音階」「半音音階」「図」を用いたピアノによる即興演奏を体験する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
						ディプロマ・ポリシー		
						①	②	③
1 音楽の内面的な要素である音の響きのニュアンスを体得し、それを表現できる								○
2 仲間とコミュニケーションを取りながら、創作活動ができる								○
3 音楽と自分とのコミュニケーションを取りながら、自己表現が出来る								○
4 音楽活動を行う上で、幼児教育者、保育者として柔軟な対応ができる								○
【授業計画】								
授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	・授業に臨む心構えと授業内容についてのガイダンス ・こどもと行う遊びとして「音の高低の判断、音の方向性を伴う3つの音、及び5つの音の並びを用いたソルフェージュと長調と短調の違いの体験		予習(30分):シラバスを読む 復習(30分):授業内容の記録、及び気づき等の記録					
2	・音楽の要素であり基本となる「拍」の2分割拍の分割形を用いたリズムアンサンブル ・こどもと行う遊びとして「音の方向性を伴う3つの音、及び5つの音」の並びを用いたソルフェージュ ・長調と短調を構成する音階の中の第1音から第5音までの体験		予習(30分):リミックⅠ・Ⅱで行った2分割拍の分割形を復習しておく 復習(30分):授業内容の記録、及び気づき等の記録					
3	・音楽の要素であり基本となる「拍」の2分割拍の分割形を用いたリズムアンサンブル ・音の高低の判断、及び聴唱		予習(30分):配布したリズム譜を、声やクラブで表現する練習 復習(30分):授業内容の記録、及び気づき等の記録					
4	・5音音階を用いたピアノによる即興		予習(30分):ピアノの黒鍵の部分を使って「ちゅうりっぷ」「こいのぼり」「うみ」を弾く 復習(60分):授業内容の記録、及び気づき等の記録					
5	・全音音階、及び半音音階を用いたピアノによる即興 応答		予習(30分):ピアノの白鍵の「ドレミ(CDE)」と黒鍵の「3つ並びの部分(F#G#A#)」を弾く練習 復習(60分):授業内容の記録、及び気づき等の記録					
6	・図を用いた無調によるピアノによる即興 イメージ即興		予習(30分):リミックⅠ・Ⅱで行ったオノマトペでは、どのような表現をしたかを復習し、記録しておく 復習(30分):授業内容の記録、及び気づき等の記録					
7	・ポリリズムによる手の動き、足の動きを始めとする身体の動きによる表現 ・リズムを記憶し、遅れて表現するリズムカノン		予習(30分):ピアノ表現法で現在取り組んでいる曲を歩きながら歌う練習 復習(30分):授業内容の記録、及び気づき等の記録					
8	・こどもと行う歌あそびとして、 「Ⅰの和音、Ⅴ7の和音」の響き、性格を感じ取る活動・主和音・属和音・下屬和音について		予習(30分):ピアノ表現法で取り組んでいる(取り組んだ)こどもの歌をしっかりと歌う 復習(30分):授業内容の記録、及び気づき等の記録					
9	・こどもと行う歌あそびとして、「Ⅰの和音、Ⅴ7、Ⅳの和音」 (1)和音の響きと性格を感じ取る活動とそれらを用いたこどもの歌による表現活動		予習(30分):ピアノ表現法で取り組んでいる(取り組んだ)こどもの歌を歌う 復習(30分):授業内容の記録、及び気づき等の記録					
10	・こどもと行う歌あそびとして、「Ⅰの和音、Ⅴ7、Ⅳの和音」 (2)「こどもの歌」で使用されている和音の分析とそれらを用いた表現活動		予習(30分):ピアノ表現法で取り組んでいる(取り組んだ)こどもの歌を歌う 復習(30分):授業内容の記録、及び気づき等の記録					
11	・こどもと行う歌あそびとして、「Ⅰの和音、Ⅴ7、Ⅳの和音」 (3)「こどもの歌」で使用されている和音の分析とそれらを用いたグループによる表現活動		予習(30分):配布した楽譜(こどもの歌)を暗譜して歌えるようにしておく 復習(30分):授業内容の記録、及び気づき等の記録					
12	・こどもと行う歌あそびとして、「Ⅰの和音、Ⅴ7、Ⅳの和音」 (4)グループで分析した和音の流れ(和声)の動きによる表現、及び発表		予習(40分):発表に向けて各グループで練習する 復習(20分):授業内容の記録、及び気づき等の記録					
13	・ザイロフォン、メタルフォンを用い、長3和音、短3和音の響きと共に、詩集「のはらうた」の表現活動 (1)和音の説明と和音の作成		予習(30分):和音とは何か、を調べる 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録					
14	・ザイロフォン、メタルフォンを用い、長3和音、短3和音の響きと共に、詩集「のはらうた」の表現活動 (2)長3和音を用いて、「のはらうた」より『てんてん』の表現活動		予習(30分):配布資料の「詩」を音読する 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録					
15	・ザイロフォン、メタルフォン、鍵盤ハーモニカを用い、長3和音の響きと共に、詩集「のはらうた」の表現活動 (3)選択した「詩」を長3和音を用いて表現、発表		予習(40分):作品制作に向けての「詩」を選択する 復習(20分):授業内容、及び気づき等の記録					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
授業内容の課題毎に「体得したこと」「体感したこと」「気づいた点」を記録したものを提出し、教員はそれをフィードバックし、学生に返却する。		
【成績の評価方法】		
グループで行う「動き、表現」の作品、提出物、グループ活動における参加度(平常点)で評価する。 動き、表現活動作品 80%、提出物10%、平常点10% 動き、表現活動作品の評価基準については、各作品ごとに事前に提示する。		
【履修申請上の条件】		
リトミック I・IIを履修していること。		
【教科書】		
特になし。 必要に応じて資料を配布する。		
【参考書】		
必要に応じて授業内で紹介する。		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【オフィスアワー】		
授業実施期間中の出校日の授業後		
【教員連絡先】		
mhirashima@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
<ul style="list-style-type: none"> ・動きやすい服装で臨むこと。ジーンズ、スカートは不可。原則として素足が望ましいが、底の薄いシューズでもよい。 ・授業で配布したものや筆記用具は毎回持参すること。 ・携帯電話は電源を切り、バッグ等に入れておくこと。 		

授業科目名	リミックIV	担当教員名	平島 美保					
コード	22EDU210	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生	
年次/期間	2～4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
①	主體的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。							
②	多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。							
③	こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主體的に貢献することができる。							
【授業の概要】								
幼児教育や音楽療法の分野で応用されているリミックは、無意識に身体が音楽に反応しているという特性を意識化し強化することにより、人間の内側にある何かを揺さ振り、覚醒させ、感性・感覚に刺激を与える。特に幼児期には知識が先行する前に行うことが、より効果を上げる。音楽の諸要素を応用し、幼児教育、保育の現場で、こども達と共にできる表現活動、また、こどもに喜び、楽しさを伝える音楽を媒体とした様々な活動を「動き」「楽器」「歌」「ストーリー」を用いて研究し、「音色」「響き」に対する意識化を深め表現する。こども達と一緒にできる音楽活動を考え実践する。これらの活動を通して、仲間とのコミュニケーションを更に深め、ともに何かを作り上げ、達成感を体験する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー		
1 音楽を分析することができる。						①	②	③
2 和音の響きを聴き分け、音楽の内面的な要素であるニュアンスを体得し、それを表現できる。								○
3 仲間とコミュニケーションを取りながら作品を作り上げることができる。								○
【授業計画】								
授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	・ザイロフォン、メタルフォンを用い、長3和音、短3和音の響きと共に、詩集「のはらうた」の表現活動 (3)短3和音を用いて、「のはらうた」より『あきのひ』の表現活動		予習(30分):短3和音の構成の確認 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録					
2	・ザイロフォン、メタルフォン、鍵盤ハーモニカを用い、短3和音の響きと共に、詩集「のはらうた」の表現活動 (4)選択した「詩」を短3和音を用いて表現		予習(30分):配布資料の「詩」を音読し、作品制作する「詩」を決める 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録					
3	・こどもと一緒に楽しめる『こどものうた』による音楽劇の作成と表現活動 (1)歌のストーリーの流れによる6つの場面についてディスカッションする		予習(30分):ストーリーの流れを憶える 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録					
4	・こどもと一緒に楽しめる『こどものうた』による音楽劇の作成と表現活動 (2)1～3番の歌詞・メロディの理解と動きの作成		予習(30分):1～3番の歌詞を読み取り、動きをイメージしておく 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録。制作した1～3番の動きを憶える					
5	・こどもと一緒に楽しめる『こどものうた』による音楽劇の作成と表現活動 (3)4～6番の歌詞・メロディの理解と動きの作成		予習(30分):4～6番の歌詞を読み取り、動きをイメージしておく 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録。制作した4～6番の動きを憶える					
6	・こどもと一緒に楽しめる『こどものうた』による音楽劇の作成と表現活動 (4)作成した音楽劇の通し練習と発表		予習(30分):表現するにあたり必要な小道具等の作成 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録					
7	・リズムフレーズ (1)4分音符、8分音符、2分音符、4分休符を用いたリズムフレーズを聴き取り身体表現する		予習(30分):基本となる音符を声やクラップ、動き、ステップで表現する 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録					
8	・リズムフレーズ (2)4分音符、8分音符、2分音符、4分休符を用いたリズムフレーズを聴き取り、身体表現したリズムを表記する		予習(30分):配布したリズム譜を声、クラップ、ステップできるようにする 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録					
9	・「こどものうた」を用いた合奏曲を作成する (1)どういう場面で演奏するのか考慮して選曲し、使用する楽器を検討する		予習(30分):こども達に親しみがあり、覚えやすい曲を候補に挙げ、楽譜を持参する。 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録					
10	・「こどものうた」を用いた合奏曲を作成する (2)アンサンブルになるように楽器を配置し、リズム等を考え、楽譜を制作する		予習(30分):使用する楽器を念頭におきながら、歌う練習をする 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録					
11	・「こどものうた」を用いた合奏曲を作成する (3)出来上がった楽譜を基に演奏		予習(30分):発表に向けての練習 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録					
12	・「効果音、音楽を用いて語る物語」の制作 (1)物語の選択とシナリオ作成		予習(30分):身の回りにあるもので音が出るものを探す 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録					
13	・「効果音、音楽を用いて語る物語」の制作 (2)挿入する音楽の作成と効果音探し		予習(30分):テレビドラマなどでどのような音楽や効果音が用いられているか意識して聴く 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録					
14	・「効果音、音楽を用いて語る物語」の制作 (3)音楽を完成させ、挿入する効果音を用いた流れの確認と練習		予習(30分):物語を音読しながら、効果音のタイミングを考える 復習(30分):授業内容、及び気づき等の記録					
15	・「効果音、音楽を用いて語る物語」の制作 (4)発表に向けての練習、及び発表		予習(40分):発表に向け練習する 復習(20分):授業内容、及び気づき等の記録					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
授業内容の課題毎に「体得したこと」「体感したこと」「気づいた点」を記録したものを提出し、教員はそれをフィードバックし、学生に返却する。		
【成績の評価方法】		
グループで行う「動き、表現」の作品、提出物、グループ活動における参加度(平常点)で評価する。 動き、表現活動作品 80%、提出物10%、平常点10% 動き、表現活動作品の評価基準については、各作品制ごとに事前に提示する。		
【履修申請上の条件】		
リトミック I・II・IIIを履修していること。		
【教科書】		
特になし。 必要に応じて資料を配布する。		
【参考書】		
必要に応じて授業内で紹介する。		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
ダルクローズリトミック指導者(ダルクローズ国際ライセンス指導免許保持)として専門分野において、幼児から音楽専門家へダルクローズメソッドの本質、知識を講義、実践する。 ダルクローズリトミック指導者養成のための指導をする。		
【オフィスアワー】		
授業実施期間中の出校日の授業終了後		
【教員連絡先】		
mhirashima@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
<ul style="list-style-type: none"> ・動きやすい服装で臨むこと。ジーンズ、スカートは不可。原則として素足が望ましいが、底の薄いシューズでもよい。 ・授業で配布したものや筆記用具は毎回持参すること。 ・携帯電話は電源を切り、バッグ等に入れておくこと。 		

授業科目名	保育実習 I (保育所)	担当教員名	田尻 真理子				
コード	22NUR424	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/90時間/実習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。						
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
保育士課程必修の実習として、保育実習 I (保育所)を認可保育園において実習時間90時間以上(12日間)実施する。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
1 保育所の社会的役割や機能を理解する。							○
2 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解(発達・生活や遊びの様子)を深める。							○ ○ ○
3 保育実習指導 I の授業での既習内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援の実際について学ぶ。							○ ○ ○
4 保育の計画や記録、評価等の方法について実践をとおして理解する。							○ ○ ○
5 保育士の役割や職務内容、職業倫理について体験的に理解する。							○ ○ ○
【授業計画】							
授業計画				授業外学修(予習・復習・課題等)			
保育士資格を取得するための必修の実習として、以下の実習を実施する。 〔保育実習 I (保育所)〕 認可保育所において、主として観察・参加実習形態で実施する。 学生の現住所付近の公共輸送機関を用いて1時間以内の認可保育所において実施する。 実施時期は、2年次後期2月を予定している。				平常の授業への取り組み、学校行事や課外活動などに積極的に参加し、経験や思索を重ねるよう努めること。 保育者をはじめとする子ども支援の仕事は、同僚や家庭との連携、協働活動が要求される。日頃から、礼儀、言葉遣いの重要性を理解し、協働での活動の機会などとおして自らを律しつつチャレンジすることが期待される。 保育所でのボランティアに積極的に参加し、子どもへの理解を深めること。			
【アクティブラーニング】				チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)				○	特になし		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク							
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク				○			
【課題のフィードバック】							
実習のフィードバックは、個別面談で行う。							
【成績の評価方法】							
実習園からの実習評価を基に、実習日誌への適正な記入、関係する提出物の適正な提出などによって総合的に評価する。 但し、実習後、次のことを怠った場合、実習単位は認められない。 1. 大学に対して実習日誌・報告書など必要な提出物を定められた期限内に提出できなかった場合。 2. 実習園に対して、必要な書類などの提出・受け取りができなかった場合。							
【履修申請上の条件】							
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士養成課程必修科目である。課程登録を済ませておくこと。 ・「保育実習 I (保育所)」の履修登録は、実習実施年度の初めに行うこと。 ・並行して「保育実習指導 I (保育所)」を受講すること。 ・「実習指導 I (保育所)」の授業に臨む態度や出席状況、生活態度、健康状態が芳しくない者については、実習を認めない場合がある。 ・保育実習 I の実施要件については、学生便覧の「保育士養成課程の登録と実習に関する注意」にまとめられているので、必ず読んで理解しておくこと。 							
【教科書】							
『実習の手引き』 『実習日誌 保育実習 I (保育所)』							
【参考書】							
<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館 ・厚生労働省『保育所保育指針解説(平成30年3月)』フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館 							
【オープンな教育リソース】							
特になし							
【担当教員の実務経験】							
【オフィスアワー】							
【教員連絡先】							
mtajiri@g.t-junshin.ac.jp							
【備考】							
協力実習施設での実習となる。「保育実習指導 I (保育所)」の内容をふまえて実習に際しては次の点に注意すること。 1. 保育実習には、健康診断、細菌検査が必須である。「保育実習指導 I (保育所)」の指導にしたがって、各自で各証明書を手配すること。 2. 実習前に実習施設でのオリエンテーションを受ける。オリエンテーション内容については実習日誌の所定の欄に記載し、「実習園オリエンテーション報告書」を実習センターに提出すること。 3. 実習期間中は、実習施設の実習方針にしたがって実習を行い、日々の実習内容を実習日誌に整理し、指導者に提出すること。指導案などの提出が必要な場合は実習園の指示にしたがって遅延なく提出し指導をうけること。 4. 実習終了後は実習施設の指示にしたがって実習日誌などの提出・受け取りを確実にし、終了後速やかに礼状を送付すること。							

授業科目名	保育実習指導 I (保育所)		担当教員名	田尻真理子						
コード	22NUR425		区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生		
年次/期間	2年次/後期		単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】									
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身に付け、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。									
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身に付ける。									
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身に付け、地域社会において主体的に貢献することができる。									
【授業の概要】										
<p>本科目は「保育実習 I (保育所)」を実施するために必要な事前事後指導を行う。 事前指導では、これまでの保育・教育関連の学修を踏まえ、実習に必要な心構えや知識を学び、実習日誌の書き方など保育実習に必要な技術の演習を行う。さらに、実習の課題を明確にする。 事後指導では、個人及びグループでの振り返りを通して、実習で学んだことを共有し、子ども、保育、保育所、保育所の役割などについての理解を深める。その上で、保育実習 II 及び保育実習 III の実施に向け、自己課題を明確にする。 保育士課程及び保育実習の履修にあつては、個人に要求される手続きや課題がある。『実習の手引き』を熟読し、また、4月のオリエンテーション期間に行われる説明や各学期最初の授業等の説明をよく聴き、落ち度がないように努めること。</p>										
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								ディプロマ・ポリシー		
								①	②	③
1 保育実習の意義と目的を理解し、「保育実習 I」を実施するために必要な心構えや基本的な保育技術を身につける。								○		
2 保育者としての職業倫理や子供の最善の利益について理解する。								○	○	○
3 「保育実習 I」での学修内容や課題を明確にする。								○		○
4 保育の計画の立て方、観察の視点、記録の取り方、評価の方法等について具体的に理解する。								○		
5 実習で学んだことを振り返り、受講者同士で共有化することを通して、子ども、保育、保育所、保育者の役割などについての理解を深め、日誌評価を行い、初回は課題や自己課題を明確にする。								○		○
【授業計画】										
授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)							
1	イントロダクション:実習の意義と目的及び内容 「保育実習 I (保育所)」での学習内容や課題を明確にする。		予習(30分):シラバスを熟読する。 復習(45分):実習で活用できるよう、授業の要点をノートする。							
2	保育所の理解/「保育実習 I (保育所)」の諸手続き 保育所・保育実習に関する理解を深める。 諸手続きに関して理解し、提出物の準備・提出をする。		予習(30分)『保育所保育指針解説』の関連箇所を熟読する。 復習(45分)実習で活用できるよう、本日の授業の要点をノートする。 ※本時以降、提出物に関しては、都度、各自で確認し、準備・提出する。							
3	実習に向けての準備 個人票の書き方・健康サポートセンターより諸注意		予習(30分):自身の経歴及び健康状態について確認する。 復習(60分):実習で活用できるよう、授業の要点をノートする。							
4	指導計画の立案(1) 指導計画の立案についてその方法を理解する。		予習(45分)『保育所保育指針解説』の関連箇所を熟読する。 復習(45分)実習で活用できるよう、本日の授業の要点をノートする。							
5	指導計画の立案(2) 指導計画の立案を通して、保育実践力の向上を目指す。		予習(60分)自らの指導計画を構想し、必要な教材等の準備をする。 復習(45分)実習で活用できるよう、本日の授業の要点をノートする。							
6	記録の意義及び評価の方法(1) 子どもの観察の方法と記録(日誌)のポイント		予習(60分)部分指導案を清書し提出できるよう整える。 復習(45分)実習で活用できるよう、本日の授業の要点をノートする。							
7	記録の意義及び評価の方法(2) 記録の意義及び評価の方法について理解する。 時系列記録の書き方		予習(45分)『保育所保育指針解説』の関連箇所を熟読する。 復習(45分)実習で活用できるよう、本日の授業の要点をノートする。							
8	ロールプレイ(指導計画の実施)(1) 各自の指導計画を実践し合い、ディスカッションを通して相互評価する。		予習(80分)発表担当者は指導計画に基づき準備をする。 復習(45分)実習で活用できるよう、本日の授業の要点をノートする。発表担当者はワークシートに反省をまとめる。							
9	ロールプレイ(指導計画の実施)(2) 各自の指導計画を実践し合い、ディスカッションを通して相互評価する。		予習(80分)発表担当者は指導計画に基づき準備をする。 復習(45分)実習で活用できるよう、本日の授業の要点をノートする。発表担当者はワークシートに反省をまとめる。							
10	実習施設における今日的な動きと課題/保育実習直前指導/保育実習後の振り返りの方法 実習後の礼状・園への挨拶・実習日誌の受け取り等について理解・準備する。		予習(45分)『実習の手引き』の関連箇所を熟読する。 復習(60分):実習で活用できるよう、授業の要点をノートする。							
11	保育所実習における日誌の書き方(1):時系列記録/DVDの視聴より 客観的事実と主観の区別を理解する。		予習(60分)日誌の書き方に関する配付資料を熟読する。 復習(45分)実習で活用できるよう、本日の授業の要点をノートする。							
12	保育所実習における日誌の書き方(2):エピソード形式の記録/DVDの視聴より 実践的に実習日誌の書き方を理解する。		予習(60分)日誌の書き方に関する配付資料を熟読する。 復習(45分)実習で活用できるよう、本日の授業の要点をノートする。							
13	子どもの観察の方法と指導の実際 子どもの観察の方法と指導の実際について理解する。 時系列記録/エピソード記録の書き方振り返り		予習(45分)『保育所保育指針解説』の関連箇所を熟読する。 復習(45分)実習で活用できるよう、本日の授業の要点をノートする。							
14	保育士に求められる資質や役割、専門性や職業倫理について理解する。 ディスカッションを通して、保育実習での自己課題を明確にする。		予習(45分)『保育所保育指針解説』の関連箇所を熟読する。 復習(45分)実習で活用できるよう、本日の授業の要点をノートする。							
15	保育実習事後指導 実習終了後、担当教員との面談を通して、自己評価し、保育実習 II に向けた課題を明確にする。		予習(120分)実習終了後に、各自自己評価をして、面談に備える。 復習(60分)面談終了後、面談結果を反映した自己評価をノートし、保育実習 II への課題を明確に記しておく。							

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	
【課題のフィードバック】		
・提出課題については、授業時の議論に活かしたり、コメントして返却したりしてフィードバックする。		
【成績の評価方法】		
・評価は、「保育実習指導 I (保育所)」の授業への参加態度(議論・発表・教材製作等の取り組み)(80%)と、必要書類の提出(20%)を総合して評価する。		
【履修申請上の条件】		
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士養成課程の登録を済ませておくこと。 ・保育士課程履修者は、「保育実習 I」を併せて履修する。 ・「保育実習 I (保育所)」の事前指導に関わるオリエンテーションなどには必ず参加すること。無断で欠席した場合は、原則として「保育実習 I (保育所)」の実施を認めない。 ・学外実習のための事前事後指導という性格上、出席状況や参加態度、課題への取り組み、必要書類の提出物が良好(出席率85%以上)でない場合には実習を許可しない場合がある。 ・『実習の手引き』や履修上の注意に従って、授業に出席すること。 		
【教科書】		
<ul style="list-style-type: none"> ・『実習の手引き』(授業時に配布) ・その他、適宜プリントを配布する。各自ファイルし、授業及び実習に役立てること。 		
【参考書】		
<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館 ・厚生労働省『保育所保育指針解説(平成30年3月)』フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館 		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
【オフィスアワー】		
時間割が決定し次第記入します。		
【教員連絡先】		
mtajiri@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
<ul style="list-style-type: none"> ・『実習の手引き』や履修上の注意に従って、授業に出席すること。 ・「保育実習事後指導」(第15回)は、保育実習 I の実施時期との関係で、次年度のオリエンテーション時に行うこともあることを承知しておくこと。 ・「保育実習 I (保育所)」に向けた学内での事前事後指導である。「保育士資格」取得を希望し、将来保育者を目指す強い意志をもち、よりよい子育て支援者になるための努力を怠らない決意をもって受講すること。 ・学内で行う授業ではあるが、常に学外での実習を意識し、子どもと関わることを想定しながら受講すること。 ・実践的な活動においては、各自を磨く場と心得、積極的に参加すること。 ・提出物の期限内提出が重要視されるため、つねに緊張感をもって提出期日を留意すること(第一回授業時に配布される詳しい授業計画に、提出物と提出期限の記載がある)。 		